

国際ボランティア貯金制度の評価にかかる調査研究
【現地アンケート結果を中心に】

平成 26 年 2 月

新日本有限責任監査法人

■□目次□■

1. 調査研究の概要	1
(1) 調査研究の背景・目的	1
(2) 調査研究の実施方法	1
(3) 調査研究の実施体制	4
2. 裨益者調査に基づく調査結果	5
(1) 調査対象、調査方法	5
(2) カンボジア・アジア・レインボー「貧困労働者のための職業訓練校の運営」	6
(3) カンボジア・日本国際福祉事業団「貧困家庭の子どものための給食付き識字教室の運営及びスタッフの研修」	23
(4) ミャンマー・ジャパンハート「住民のための診療・手術及び医療従事者への技術指導」	30
(5) 裨益者調査のまとめ	41
3. 平成 23 年度事業の実績概要及び実施プロセスの評価	47
(1) 平成 23 年度の配分実績	47
(2) 平成 23 年度実施プロセスの評価	50
4. 平成 23 年度事業の評価（アンケート調査の結果- OECD/DAC の 5 項目基準による評価-）	55
(1) 調査の概要、方法、回収実績	55
(2) 調査の結果	57
(3) 5 項目基準による事業評価のまとめ	81
5. 国際ボランティア貯金制度の有効性評価のまとめ	83

1. 調査研究の概要

(1) 調査研究の背景・目的

国際ボランティア貯金制度は、通常郵便貯金の税引き後の受取利子の全部または一部を、海外民間援助団体(NGO)の活動を通じて、開発途上地域の住民の福祉向上に役立て、国民参加による民間レベルでの海外援助の充実に資するため、平成3年に創設され、郵政民営化に伴い平成19年9月末に廃止された。廃止時点の配分原資は、日本郵政公社から独立行政法人郵便貯金・簡易生命保険機構(以下、「機構」という。)に継承され配分を行ってきたとろ、平成24年度をもって、平成19年9月末に機構が継承した配分原資の配分は終了した。本制度により集められた寄附金は累計で207億円に上っており、平成24年度においては、本制度の効果等の検証を行った。

今年度においては、配分事業を通じて裨益を受けた現地住民、関係者等の生の声をアンケート調査、インタビュー調査を通じて、制度の効果、特に有効性について検証することを目的とする。また、昨年度に行った本制度の評価を補完する観点から、平成23年度国際ボランティア貯金の寄付配分を受けた事業を対象にして前年度と同様の手法による評価を行っている。

(2) 調査研究の実施方法

本調査研究では、平成23年度国際ボランティア貯金の寄付配分を受けた事業を対象にして以下の項目により調査を実施した。

①調査の内容

1) 平成23年度事業における裨益者調査

- ・国際ボランティア貯金の寄付配分を受けた事業を通じて裨益した地域住民、関係者等に対してアンケート調査、インタビュー調査を実施して、事業を通じた役立ち度、生活の改善度、親日的な感情の醸成等について確認した。対象事業は以下のとおりである。
 - アジア・レインボー_カンボジア「貧困労働者のための職業訓練校（縫製・美容・バイク修理・エアコン修理・電化製品修理）の運営」
 - 日本国際社会事業団（ISSJ）_カンボジア「貧困家庭の子どものための給食付き識字教室の運営及びスタッフの研修」
 - ジャパンハート_ミャンマー「住民のための診療・手術及び医療従事者への技術指導」

2) 平成23年度事業の実績概要及び実施プロセスの評価

- ・平成23年度国際ボランティア貯金の寄付配分を受けた事業の実績を整理した上で、当該

年度の国際ボランティア貯金制度の実施プロセス、体制等を洗い出した上で、政策の妥当性や結果の有効性を確保するようなプロセスが採られていたかどうかを検証した。

3) 平成 23 年度事業の評価（アンケート調査の結果：OECD/DAC の 5 項目基準による評価）

・平成 23 年度国際ボランティア貯金の寄付配分を受けた事業を対象に、ODA 評価において広く活用されている、DAC の 5 項目基準である以下の 5 つの視点である、妥当性（relevance）、効率性（efficiency）、有効性（effectiveness）、インパクト（impact）、持続性（sustainability）による評価をアンケート調査を通じて実施した。

図表 DACの評価5原則の視点と本評価の内容

視点	概要	本評価での扱い
妥当性（relevance）	開発援助と、ターゲットグループ・相手国・ドナーの優先度ならびに政策・方針との整合性の度合い。	プロジェクト実施に際して前提となる課題はあったか。また、それを事前に把握したかを検証。
有効性（effectiveness）	開発援助の目標の達成度合いを測る尺度。	プロジェクトは期間、内容、予算の各範囲で実施されたかを検証。
効率性（efficiency）	インプットに対するアウトプット（定性ならびに定量的）を計測する。開発援助が期待される結果を達成するために最もコストのかからない資源を使っていることを示す経済用語。最も効率的なプロセスが採用されたかを確認するため、通常、他のアプローチとの比較を必要とする。	プロジェクトは事前に目標を設定していたか。また、その目標を達成したか。そして、その達成要因は何であったのかを検証。
インパクト（impact）	開発援助によって直接または間接的に、意図的または意図せずに生じる、正・負の変化。開発援助が、地域社会・経済・環境ならびにその他の開発の指標にもたらす主要な影響や効果を含む。	プロジェクトの実施を通じて与えたプラス、マイナスのインパクトの発現状況を検証。
持続性（sustainability）	ドナーによる支援が終了しても、開発援助による便益が継続するかを測る。開発援助は、環境面でも財政面でも持続可能でなければならない。	プロジェクト終了後、現在の実施・運営の状況及びその方法について検証。

（出典）国際協力機構（2010）「新 JICA 事業評価ガイドライン第 1 版」 元出典はOECD/DAC

②評価の実施方法

本調査研究における評価は、1) インタビュー調査（海外、国内）、2) アンケート調査、3) 文献調査、を通じて実施した。

1) インタビュー調査（海外、国内）

インタビュー調査は、以下のように海外、国内において実施した。

- **海外インタビュー調査（裨益者調査）**：平成25年（2013年）11月9日～21日の期間において、国際ボランティア貯金の寄付配分を受けた事業を通じて裨益した地域住民、関係者等に対してインタビュー調査、アンケート調査を実施した。
 - ▶ アジア・レインボー・カンボジア「貧困労働者のための職業訓練校（縫製・美容・バイク修理・エアコン修理・電化製品修理）の運営」
 - ▶ 日本国際社会事業団（ISSJ）・カンボジア「貧困家庭の子どものための給食付き識字教室の運営及びスタッフの研修」
 - ▶ ジャパンハート・ミャンマー「住民のための診療・手術及び医療従事者への技術指導」

図表 海外現地調査日程表（平成25年（2013年）11月9～21日）

月日	午前	午後	夜
11/9（土）	・成田-バンコク移動	・バンコク到着	
11/10（日）	■資料整理	・プノンペンに移動、到着	
11/11（月）	■アジア・レインボー ・事務局、生徒	■アジア・レインボー ・生徒	■アジア・レインボー ・生徒
11/12（火）	■資料整理	■アジア・レインボー ・生徒、教員	■アジア・レインボー ・生徒
11/13（水）	■ISSJ ・事務局、生徒	■アジア・レインボー ・卒業生	■アジア・レインボー ・卒業生
11/14（木）	■資料整理	■ISSJ ・生徒、教員、親	
11/15（金）	■ISSJ ・生徒、卒業生、親	■ISSJ ・生徒、親	・バンコクに移動
11/16（土）	■資料整理	■資料整理	
11/17（日）	■資料整理	・マンドレーに移動、到着	
11/18（月）	■ジャパンハート ・日本人看護師、患者	■ジャパンハート ・患者、現地医療関係者	
11/19（火）	■ジャパンハート ・患者	■ジャパンハート ・日本人医師、患者	
11/20（水）	■資料整理	・バンコクに移動、到着	・羽田に移動
11/21（木）	・羽田到着		

- **国内インタビュー調査**：国内インタビューでは、国際ボランティア貯金制度の実施関わる主体（機構、等）及び裨益者調査の対象とした事業を実施するNGO等（3団体）を対象にしたインタビュー調査を実施した。前者については平成23年度の実績及び実施プロセスの把握を意図して実施したものであり、後者について

は事業の背景・目的、取組状況、成果、持続性、成功要因等、実施された事業の詳細の把握を意図して実施したものである。

2) アンケート調査

アンケート調査は、平成23年度国際ボランティア貯金の寄付配分を受けた22の事業を対象に、主として以下の項目（主として5段階評価）により実施した。

図表 「アンケート調査」のうち事業評価の関連項目

<p>■妥当性：</p> <ul style="list-style-type: none">・ 実施された事業は現地の課題・ニーズを踏まえているか。・ 現地の課題・ニーズの把握のための調査を行ったか。 <p>■効率性：</p> <ul style="list-style-type: none">・ 実施された事業は予算の範囲内で実施されたか（予算不足に陥らなかったか）。・ 実施された事業は計画通りの内容で実施されたか。・ 実施された事業は予定期間内に実施されたか。 <p>■有効性：</p> <ul style="list-style-type: none">・ 事業には事前に目標を設定していたか・ 実施された事業を通じて目標は達成されたか（対象の課題・ニーズは解決したか）。・ 実施された事業を通じて直接又は間接的に与えたプラスの影響（インパクト）はあったか。・ 実施された事業を通じて直接又は間接的に与えたマイナスの影響（インパクト）はあったか。 <p>■持続性：</p> <ul style="list-style-type: none">・ 事業終了後においても支援に係る取組は継続して実施されているか。・ 現在、事業運営はどのような方法で運営されているか。
--

3) 文献調査

文献調査では、総務省及び独立行政法人 郵便貯金・簡易生命保険管理機構（以下、「機構」）より入手した資料、事業の完了報告書等を対象に分析を行った。

(3) 調査研究の実施体制

本調査研究は、新日本有限責任監査法人、パブリック・アフェアーズグループに所属する以下の4名のメンバーにてプロジェクト・チームを組成して実施した。

【プロジェクト・チームの構成】

<p>■プロジェクト・リーダー：</p> <p>左近 靖博（パブリック・アフェアーズグループ／シニア・マネージャー）</p> <p>■プロジェクト・メンバー：</p> <p>渡辺 真砂世（パブリック・アフェアーズグループ／マネージャー）</p> <p>高木 麻美（パブリック・アフェアーズグループ／マネージャー）</p> <p>三浦 雅央（パブリック・アフェアーズグループ／シニア）</p>

2. 裨益者調査に基づく調査結果

(1) 調査対象、調査方法

裨益者調査は、以下の 3 事業において国際ボランティア事業の恩恵を受けた現地住民を対象に実施した。

図表 調査対象事業

団体、事業名	調査対象国	主な対象層
アジア・レインボー「貧困労働者のための職業訓練校の運営」	カンボジア	・生徒、卒業生、教員
日本国際福祉事業団「貧困家庭の子どものための給食付き識字教室の運営及びスタッフの研修」	カンボジア	・生徒、教員、親
ジャパンハート「住民のための診療・手術及び医療従事者への技術指導」	ミャンマー	・入院患者（手術前後）、現地医療関係者、日本人医療関係者

調査方法は、カンボジアの 2 事業については複数者を対象にしたグループ・インタビュー形式によりインタビュー調査を実施した。ミャンマーの事業は対象が入院患者であったことから個別にインタビューする形式での調査を実施した。また、カンボジア・アジアレインボー「貧困労働者のための職業訓練校の運営」については、対象となる生徒の識字率の高さを踏まえて、インタビュー調査と併せてアンケート調査を実施した。

調査内容については主として以下の項目をベースにして、各事業に応じた形で質問事項を設定して調査を行った。

図表 裨益者調査の調査事項

<ul style="list-style-type: none">● 事業が日本（国際ボランティア貯金）からの支援であることの認知度● 利用の契機● サービスの内容、質に対する評価● 当該事業がなかった場合の対応状況● 利用後の生活の変化状況、役立ち度

(2) カンボジア・アジア・レインボー「貧困労働者のための職業訓練校の運営」

①事例概要¹

○背景と目的

プノンペン市ステンミンチャイ区はプノンペン市最大の工場地帯であり、約70の工場があり、10万人以上が働いている。工場労働者のほとんどは寒村の出身で、農業以外の仕事がなく、天候に左右される農業だけでは生活できないため、収入を求め、出稼ぎに出ている。工場労働者の基本給は約60ドル、残業して80ドルから100ドルの収入を得ているが田舎の家族に仕送りをしなければならず、病気で休むと給料を差し引かれてしまう。工場労働者の多くが、将来に渡り安定的な収入を得て、自分のため、家族を助けるため、技術を身につけることを望んでおり、働きながらの職業訓練の機会を求めている。

アジア・レインボーは、平成22年に同地区に職業訓練センター（レインボー職業訓練校RVC）を建設し、現在まで縫製、美容、バイク修理、電化製品修理の職業訓練を行っており、卒業生の中には自分の店を持つなど自立の道を歩んでいる者もいる。

平成22年度も、この職業訓練センターにおいて、200名から300名の工場労働者に対し、縫製、美容、バイク修理、電化製品修理、エアコン修理の5コースを設け、6か月間の職業訓練を行っている。

○実施状況

平成24年4月から平成25年3月までの間、縫製、美容、バイク修理、電化製品修理、エアコン修理の5コースを設け、職業訓練を行った。当訓練校には随時入学でき、6か月間の訓練修了後、筆記テスト、実技テストを受け、卒業となるが、平成23年度は234名が在籍した。

縫製コースは午前、午後、夜間ともに2クラスで39名が、美容コースは午前と午後は2クラス、夜間1クラスで34名が、バイク修理コースは午前と夜間に1クラスで10名が、電化製品修理コースは夜間1クラスのみで15名が、エアコン修理コースは夜間1クラスのみで4名が訓練を修了し、合計102名が卒業した。卒業後は、自分の店を開店した者が47名、就職した者が33名あり、残りの22名は工場に勤めながら開店準備を行っている。

また、日本から平成24年8月20日から9月2日までスタッフを派遣し、現地で学生ごとの個別教育計画書の作成や訓練機材の確認、現地との調整を行った。また、平成24年10月21日から10月28日に1名、平成25年2月17日から2月24日に2名、2月24日から2月28日に3名の美容師を派遣し、美容クラスにおいて技術指導を行った。

¹ 以下、各対象事業の概要は、配分事業完了報告書より作成

図表 職業訓練校（上）、教員が作成したテキスト（中）、所長と副所長（下）



(出典) 新日本有限責任監査法人

②インタビュー調査

■事業が日本（国際ボランティア貯金）からの支援であることの認知度

本校が日本からの支援であることについては、在校生、卒業生ともに全員（29名）が「知っている」と回答した。一方、国際ボランティア貯金からの支援であることについては、21名（72.4%）が知っていると回答した。

日本からの支援であることについては、広告や入校前の案内ちらし、友人・知人からの紹介等の他、入校後に先生からの説明を受けたことにより認知しているようである。

図表 「日本からの支援であることの認知の経緯」

- ・ 知った契機は入学前の説明会の際に、本校が日本からの支援を受けて運営されていること、それによって授業料が相対的に安価であること、を知らされたからである。
- ・ RVC のラジオ CM でそのことを知った。
- ・ 学校のちらしを見て知った。
- ・ 私は、この学校を紹介してくれたおじさんから聞いた。おじさんは看板で知ったようである。私は、兄がここの在學生なので、兄から聞いた。
- ・ 知った契機は、看板を見た、新聞で知った、学校の説明で知った、友人から聞いた、であった。
- ・ 授業や入学の際に説明時に先生から教えられて知った。
- ・ 知った契機は募集広告を見て本校が日本からの支援であることを知った。また、授業の際に先生からも説明があった。

（出典）新日本有限責任監査法人調査

また、本校が日本からの支援で運営されていることを知り、多くの生徒は親日的な感情が醸成されていることも確認できた。

図表 「親日的な感情の醸成の内容」

- ・ 勉強ができる環境を与えてくれたことについて、日本に対して感謝の気持ちがある。
- ・ 貧しい人にも、このような学習ができる環境が与えられることに本当に感謝している。
- ・ 何より安く勉強できる環境を得られることに感謝している。
- ・ この学校に対して大変感謝しており、その運営が日本からの支援であることで、日本に対する良い感情を持っている。
- ・ 技術を身につける環境を与えてくれたことに感謝しており、それが日本の支援であるので良い感情を持っている。日本は技術的に発展している国というイメージを持っている。
- ・ 日本の支援で技術を学ぶことが出来て感謝している。それによって、より日本を良く思うようになった。
- ・ 日本からの援助で少ないお金で技術を身につけることができるため大変感謝している。貧困解決に日本が支援していることは大変ありがたい。そのような理由で親日的な感情は高まった。
- ・ 貧困層の職業訓練のために日本が支援していることに対して大変感謝しており、日本に対する感情もより良いものになった。
- ・ 本校の支援の他、様々な技術支援をしてくれている日本のことを好きになった。
- ・ カンボジアのため学費が安く貧しい人でも通える学校を支援してもらい、日本に感謝し、好きになった。

（出典）新日本有限責任監査法人調査

■利用の契機

学校に通うことに契機、理由については、専門的な知識や技能を身につけて将来的には職業的に自立したいという理由や、授業内容の質の高さ、授業料の安さ、また、夜間に開講していることで現在の仕事と通学が両立できるということが理由として指摘されていた。

インタビューでは、カンボジア・プノンペン周辺には職業訓練を提供する学校が数多くあるが、授業料が\$300～\$700と相対的に高額である一方で、その内容も価格に見合ったものではなく、卒業しても職業的に自立できないような授業を提供している学校が多いとのことである。その点、レインボー職業訓練校（RVC）は授業料が6カ月間で\$60と相対的に安く、また、各コースともに卒業後は職業的に自立できる水準の技術が身につけられる等、価格、内容の双方において、魅力的なものになっている。

図表 「学校に通うことになった契機・理由」

○専門性の獲得と職業的自立

- ・専門的なことを身につけるために通うようになった。
- ・まずは、美容店に就職して、実際の美容の実務、接客を経験して、将来的には自分の店を持ちたい。美容は以前から好きであったこともあり、また、技術を身につけると収入が得やすい点も利点である。
- ・将来的には身に付けた技術を基に店を持ちたい。
- ・兄にこの学校の内容のことを聞き、技術を身につけたいと考えて選んだ。以前は技術訓練校に通っていたが、より実務的な高度な技術を身につけるために、この学校を選んだ。
- ・卒業証明書を出してくれて、それが公的に証明されるので就職に有利で、将来はより良い生活をした。
- ・もともと美容に関心があった。今は家庭の事情で工場で働いているが、環境も良くないし、賃金も高くなく、安定的に働けない。将来はより安定的に収入を得るため、自分で仕事をしたい。
- ・今は家庭環境もあり工場で働いているが、将来は好きな縫製の仕事でお金を得たい。
- ・今はバイクタクシーをしている。技術を身につけて自分で経営したい。バイクは増えていて、バイク修理は安定的に仕事ができると思い、勉強したいと思った。
- ・今はガラス工場で働いている。友人がここで学び、卒業すると独立して店を持つ技術が身につけられると聞いて学ぶこととした。バイク修理は今より高い収入が得られる。
- ・以前は工場で働いていた。工場勤務は退屈で、自分で経営したいと思い、先生がよく、きちんと技術が身につくと友人に聞いて、通学することを決めた。
- ・以前はバイクタクシーをしていた。自分で経営したいという思いがあり、ちらしを見て、授業料が安く、また先生と話をして技術を身につけられるということを確認して入学することを決めた。バイク修理には以前から関心があった。

○授業の内容の良さ

- ・先生の説明は丁寧で、他の学校よりも勉強できる環境である。
- ・友人から聞いて本校の授業の内容、質が高く、技術がきちんと身につけられるので、将来は起業したいと考えて学ぶこととした。
- ・今は工事現場で働いている。授業内容も良く、技術が身につけられるので、将来は独立して店を持ちたい。以前からバイクが好きで、今より良い生活をした。

○授業料の安さ

- ・まず学費が安い。他の学校は\$300-\$500かかる。先生の質も高い、素人でも分かりやすい説明で、少しずつではあるが確実に技術が身につく。
- ・学費がとても安い。学習できる環境であり、技術も身につけられる。
- ・学費が安く、授業内容も良い。技術を身につけることで、よりよい職に就けることができ

- い収入が得られる。以前はホテルに勤めていたが、今はこの学校と日本語学校に通っている
- ・学費が安く、授業内容も良い。技術を身につけて高い収入を得て、将来は独立したいのでこの学校を選んだ。今、電気技術の学校に通っているが、自分が関心のあるエアコンのコースがないので、ここに通っている。カンボジアは経済発展しており、生活の質の向上に合わせて今後もエアコンの販売、修理に対する需要が高くなるので、技術を得ることで仕事をしやすい。
 - ・まず、学費が安く、今の工場労働の収入でも学費を賄うことができる。今は工場で働いているが、将来は技術を身につけて自分で商売をはじめたい。
 - ・今は生コンの工場に勤務している。学費が安く、また学校を見学して良いと思い入学を決めた。技術を身につけて将来良い仕事をしたいと思い勉強することとした。
 - ・今は工場で電気技師をしている。学費が安く、高い技術が身につけられる。より高い技術を身につけて、より良い生活をしたい。
 - ・授業料が安く、卒業後、技術を身につけられると仕事の仲間から聞き、当時、工場に勤務していたが、将来は自分で店舗を持ちたいと考えて、以前から関心があった美容の技術を身につけようと考えた。

○仕事をしながら通学できる夜間の開講

- ・仕事をしながら夜間に通える学校は少ないので選んだ。また、将来は縫製の仕事で独立したいので技術を身につけようと思い通学することになった。
- ・仕事をしながら夜間に通えることや授業料が安いので選んだ。将来は実家に帰り縫製の仕事をしたいので技術を身につけるために学校に通っている。

(出典) 新日本有限責任監査法人調査

■サービスの内容、質に対する評価

授業の内容、質については、非常に的確でかつ分かりやすい授業が実施されており、受講した生徒は確実に技術が身に付くような内容、水準であり、生徒も非常に高い満足度が得られていると思われる。カンボジアでは、教員が一方的に指導するスタイルの教育が一般的な中、生徒の理解、技術向上に重点を置き、生徒の理解状況を確認しながら進められる授業スタイルに対する評価も高い。教員は事業の内容、質の改善のため、定期的に会議を開催して、問題点と対応策を協議している点や、独自のテキストを教員が作成して、それを基に授業が進められている点も、授業の内容、質の高さに寄与している。

また、教員の質についても生徒からの評価は高く、先生のように高い技術を身につけたいと言う生徒が多く、生徒にとって模範、目標となるような存在であった。レインボー職業訓練校(RVC)では、大半の教師が開講以来、離職せず、同校に勤務しており、また、上記のように会議の開催やテキストの作成等を通じて、授業の改善を図り、生徒の理解を高めている点についても、生徒からの高い評価、信頼が得られているものと考えられる。

図表 「授業の内容、質、教員の質について」

○授業の内容、質

- ・分かりやすく大変良い。丁寧な指導で理解しやすい。
- ・授業の内容、質には満足している。詳しく説明してもらい、ポイントを的確に示すので、大変わかりやすい。
- ・故障の対処方法のみならず、発生原因も含めて説明してもらい理解が高まった。機械には以前から興味があり、授業内容も高く満足している。技術も身に着く。
- ・授業の内容、質はとても高い。たいへん満足している。ポイントを繰り返し説明していただき、理解も高まる。知識がなくても理解できる説明に納得している。

- ・実技指導が充実していた内容は実践的である。先生の指導も分かりやすい。
- ・授業内容には満足している。説明も分かりやすい。先生は熱心に自分の技術、経験を私たちに伝えようとしていて、とても良い。
- ・授業内容は分かりやすく満足している。先生は熱意をもって真剣に教えてくれる。分からないことも丁寧に教えてもらえる。また、生徒に随時に声をかけて、遅れないように配慮してくれている。
- ・6カ月間でスケジュール通りに技術を習得できる。実技中心で、卒業後、仕事に活かしやすい。
- ・授業の内容、質は高く、理解しやすいので、技術が身につく。
- ・ポイントとなる点を繰り返し覚えるまで教えてくれる。先生も熱意を持って一生懸命教えてくれるので満足している。
- ・授業は大変分かりやすい。分からない点を指摘すると丁寧に分かるまで教えてくれる。
- ・時間に無駄なく、ポイントを絞って指導してくれる。また、質問したら即回答していただき、分からない点もすぐに解消できる。
- ・授業の内容はとても質が高く、先生は持っている全ての技術を生徒に伝えようとしていて、大変熱心であった。今でも分からないところがあれば、先生は教えてくれる。
- ・期待通りの水準で、早く技術を理解することができた。
- ・授業の内容はとてもよいものであった。機材、先生も大変充実していた。まったくの素人であったが、短期間に技術が身につけられた。
- ・日本からの技術指導も大変勉強になった。直接質問して刺激を得た。
- ・授業の内容はとても良い。生徒の質問にも丁寧に答えて、理解、納得を得ることができた。入学前に何度か学校を訪問して、先生の話聞き、ここでは短期間に技術を身につけられると確信して、仕事を辞めた3カ月間で卒業した。
- ・授業の内容はとても良い。実技主体で、故障の原因が何なのか、どう対応すれば良いのか、詳しく分かりやすく教えてくれた。十分に理解することが出来た。

○教員の質

- ・先生のような技術、レベルに到達したい。目標である。教え方にも大変満足している。
- ・分かりやすく丁寧に指導してもらえる。こちらの理解度も高い。
- ・授業はポイントを押さえたものであり、無駄なく重要なところを中心に指導してもらえて理解しやすい。
- ・先生の技術は非常に高い。授業の内容、進め方も自分のペースに合い、満足している。
- ・大変良い。十分な知識、技術があり、説明もポイントを押さえて分かりやすい。
- ・先生は知識、経験が豊かである。実務的に細かい点も指導してもらい、大変有りがたい。また、経験もはなしてくれるので、即役立つものである。
- ・先生は高い技術があり、説明も大変分かりやすい。
- ・日本（広島）から来た美容師の技術は大変高い。その場では十分に理解できなかったこともカンボジア人の先生に事後に説明してもらい理解できるようになった。日本人の指導はレベルが高いが目標とする水準なので、勉強になる。努力目標である。
- ・先生は高い技術、経験があり、また大変頭がよい。素人にも分かりやすく説明してくれて、授業内容も大変分かりやすい。
- ・以前、先生は高級な縫製店に勤務していたようで、技術の水準も高い。
- ・先生は技術、経験があり、また高い教育を受けている人のようである。
- ・教え方も分かりやすく大変満足している。
- ・技術、経験があり、自身の知識を全て生徒に伝えようという姿勢が大変良い。
- ・質問にも即座に、全て答えてくれて、知識、技術は高い。
- ・丁寧に分かりやすく説明してくれる。教え方もうまい。知識も高い。
- ・とても詳しく説明してくれて、故障の原因、対応、部品の機能等が理解できた。また、聞いたらきちんと説明してくれて、分からないところが解消された。先生の持っている技術は高い。

(出典) 新日本有限責任監査法人調査

■教員による生徒の姿勢の評価

教員に対して、生徒の授業に対する姿勢、熱意について尋ねたところ、多くの生徒はレインボー職業訓練校に通うことで、技術を身につけて現状を脱して、より良い生活を実現したいという目標から、仕事をしながらでも非常に熱心に授業に参加していることが確認できた。また、文字が読めない生徒も多い中、指導に工夫することで、その課題を克服して、生徒全員に一定の技術が身につくような配慮、工夫がなされており、その点も生徒の姿勢、熱意にプラスに影響していると思われる。

図表 教員による生徒の姿勢、熱意の評価

○電気、バイク修理

- ・生徒はみんな一生懸命である。仕事で忙しく、疲れている中でも熱心に勉強している。講義を真剣に聞き、また分からないところも積極的に聞いてくる。
- ・熱心なことの背景には、自分の将来のため、技術を身につけ、自ら開業することを目指しているからであり、目標、夢がある。貧困層の生徒は多くが教育を受けておらず、貧しい環境で生活している。そこを抜け出すには技術を身につけて、生活をより豊かにすることが必要であることは多くが認識している。
- ・現状、生徒の約 4 割位が文字が読めない状況である。文字が読めない生徒には実物で基礎を教えて、一定の理解度に到達したら、文字が読める生徒と同じ内容で指導している。
- ・生徒のうち約 15%位が経済的、家庭的な状況から退学している。授業内容が分からない、関心にそぐわないという理由で退学する生徒はほとんどいない。

○美容

- ・生徒はみんな、まじめで一生懸命で、大変熱心である。出席率も高い。
- ・夜間の学生は特に給与から授業料をわざわざ捻出して通学しており、意識がより高い。
- ・卒業後は、工場勤務をやめて、身につけた技術を基に開業して、自分の店を持つことを目指している生徒が多い。より高い収入、そしてより良い生活の実現のために、懸命に勉強している。
- ・なお、文字が読めない生徒は夜で 5-6 割、昼で 2 割程度いる。しかし工夫をすれば文字が読めなくても技術は身につく。文字が読めない生徒は質問や発言が積極的ではないので、授業中は適宜にフォローするようにしている。

○縫製

- ・工場勤務後に来校する生徒は、疲れている中でもみんな、まじめで一生懸命である。
- ・貧困家庭で育った生徒が多く、工場勤務を脱して、自ら開業したいという思いの生徒が多い。また、地方出身者は、ここ首都圏で技術を身につけて、実家で開業して親の近くで仕事をしたいと考えている生徒も多い。
- ・みんな夢、目的があるため、熱心に技術の習得を目指している。

○エアコン修理

- ・生徒はみんな一生懸命である。学歴が高い人ほど、理解度が高いという傾向がある。文字が読めない生徒は少ない。エアコン修理は数学、物理の能力が求められることから、生徒の学力、能力も入学時から他のクラスと比較すると相対的に高い。
- ・入学時にエアコン修理に求められる技術の高さ、必要な知識、仕事の内容、得られる給与水準を教師が説明していることが、生徒にとっても具体的な目標につながり、モチベーションになっていると思われる。

(出典) 新日本有限責任監査法人調査

■当該事業がなかった場合の対応状況

レインボー職業訓練校（RVC）がなかった場合、多くの生徒は以前と同じ職業、環境のままであったと回答した。また、一部生徒は、他の学校を探すという回答であったが、同じような授業の内容、水準で、かつ安価で、夜間に開講しているような学校は他にはなく、現実的には、以前と同じ職業、環境のままであったことが推察される。レインボー職業訓練校（RVC）により、多くの生徒が技能を身に付け、職業的自立につながっている状況が確認された。

図表 「レインボー職業訓練校がなかった場合」

○以前と同じ職業、環境のまま

- ・以前は縫製工場で働いていた。そこでは、ずっと待遇が変わらず、収入が上がらない状況であった。この学校がなかったら他に学校を探していたと思うが、授業料が高く、良い学校を探すのが大変だったと思う。他の学校はあまり授業の内容、質が高くない。幾つか学校を訪問し、また口コミでも色々と聞くが、あまり良い学校はない。
- ・これまで屋台で仕事をしてきたが、他の学校は授業料が高く、通う余裕がない。もし、RVCがなかったら学校に通えず、前のままであった。縫製には以前から興味があり、このコースを選んだ。
- ・以前と同様に工場で働いていたと思う。工場では 35・40 歳くらいの人もあるが、高齢者は解雇されることが殆どである。給与も低く、上がらない。他の学校は授業料が高く、内容、質も高くないので他の学校らは通っていないと思う。
- ・恐らく実家の家業である農業の手伝いをしてきた。安く技術が身につけられなければ、現実から抜け出させなかった。他の学校を探して、技術を身に付けようとしていたと思うが、他は高く、授業の内容、質も良くない。
- ・恐らく工場労働を続けていたと思う。他の学校は学費が高くて通えない。続く限り工場で働いていたと思う。工場には高齢の人は少ないが、50 歳を超えると掃除の担当等に配属されている。他の学校は学費が高い。\$ 500 以上はする。かつて他の学校に通っていた。学費は \$ 350 であったが、中身は不十分で実質的には騙された。ここはまったく違う。中身があり技術が身につく。
- ・夜間に開講している学校がないので、今の工場で働いていたと思う。
- ・バイク修理店で勉強する以外に方法は無いが、3 カ月で \$ 250 必要なので、現実的にはこの額を支払い生活するのは困難なので、困っていたと思う。
- ・以前の勤務を続けていたと思う。バイクタクシー以外には、何もできなかった。

○他の学校を探していた

- ・他の学校を探さと思うが、学費も高く、授業の内容、質も低い。他の外国語を習得するよう学校に通っていたと思う。
- ・技術もしくは語学があれば、この国では就職しやすく、高い収入を得やすいので、何かをしていたと思う。
- ・技術を習得したいので他の学校を探していた。今の職場に近く、夜間に授業を受けられる本校を見つけて本当に良かった。
- ・他の学校を探していた。
- ・職場の近くに学校を探していた。
- ・他の学校を探していたが、夜間に授業を受けられる学校は無い。恐らく夜間開講している学校がなく、困っていたと思う。

(出典) 新日本有限責任監査法人調査

■生活環境の改善への期待、卒業後の進路

卒業後の生活環境の改善については、多くの生徒が技術を身につけることで、より良い職業に付けるようになり、また将来的には独立することで、安定的な収入が得られるようになり、より生活が改善すると期待しているようである。

インタビューでは、生徒の多くは卒業時点で独立できる水準の技術は身に付けられているが、開業するための資金が手元がないという者が多く、卒業後、就職して一定期間、開業資金を蓄えた後に独立することを予定していたり、美容クラスの生徒は平日には工場に勤務し、週末にも開業する方法で独立の道を模索したりする生徒が多いようである。このように、卒業後の進路については、卒業後一定期間は技術を磨き、資金を蓄えて、将来的には独立したいという生徒が多くいた。

図表 生活環境の改善への期待、卒業後の進路

○生活環境の改善への期待

- ・収入が良い仕事のでられるので生活は良くなる。
- ・生活に余裕ができる。以前の工場労働では生活するのがやつの水準である。
- ・将来、収入が拡大して生活が改善されることを期待している。資金に余裕があれば、自分の店を持ちたい。その夢を期待している。
- ・技術を身につけることで、生活はより良くなると思う。
- ・技術を身につけることで有程度の収入が期待でき、生活はよりよくなると期待している。技術を得て、ほぼ確実に仕事は得られるようになる。
- ・技術を得ることで高い収入が期待でき、より良い生活環境を確保できると期待できる。
- ・美容の仕事に就くことができれば、今より生活は良くなると思う。美容室に就職すると今より給与は下がるかもしれないので、工場働きながら土日に美容の仕事をして、将来はお金を貯めて開業したい。
- ・自分の好きな縫製で収入が得られるので、厳しい環境の工場労働よりはより良い生活になる。また、自宅でも簡単に開業できるので、現金収入が得やすい。但し、場所、高い技術が伴わないと収入は高くない。

○卒業後の進路

- ・まずはどこかの美容店に就職して、資金を蓄えて、将来的には店を持ちたい。
- ・時間をかけて経験をつみ、貯金して、将来、家で店を持ちたい。
- ・余裕があれば、将来、自分の店を持ちたい。
- ・まずは、就職して、お金をためて将来の開店資金にしたい。
- ・まず、修理店に就職して、資金を貯めて将来的には自分の店を持ちたい。
- ・まずはおじさんのところで仕事をして、将来、お金がたまれば自分で開業したい。
- ・エアコン修理関係の会社に入り、将来的には独立したい。
- ・ホテルや政府機関等のエアコン技術者として働くとともに、外国語も身につけることで将来のチャンスをより拡大したい。
- ・就職して収入を得て、チャンスを見て将来は独立したい。
- ・就職して、技術、経験を高めて独立したい。
- ・美容の仕事を探して、お金を貯めて将来は開業したい。
- ・お金があればすぐにでも店を持ちたいが、今はないので、工場でお金をためたい。卒業後も引き続き学校に通い、ここで縫製技術を高めて、その後に開業を考えたい。

(出典) 新日本有限責任監査法人調査

なお、卒業生へのインタビューでは、以下のように多くの卒業生の収入が増加して、生活環境が大きく改善されている状況が確認できた。

図表 卒業生の生活環境の改善状況

クラス	以前の勤務	現在の仕事、収入(及び変化)
バイク修理	・工場勤務	・バイク修理店開業 ・以前は毎月\$50の貯金であったが、今は毎月\$200を貯金。
縫製	・工場勤務	・縫製店開業 ・以前は\$150であったが、今は\$300
美容	・工場勤務	・美容店開業 ・平日は工場勤務、週末は美容店開業で50%の収入アップ
美容	・工場勤務	・美容店開業 ・平時は月\$500、繁忙期は月\$800
バイク修理	・バイクタクシー	・バイク修理店開業 ・\$150、以前のバイクタクシーでは\$70。

(出典) 新日本有限責任監査法人調査

③アンケート調査

レインボー職業訓練校(RVC)の生徒に対して、アンケート調査を実施した。調査結果は概ねインタビュー調査の結果と整合するものであった。

■調査対象

- ・レインボー職業訓練校(RVC)に通う生徒58名。

■調査方法

- ・授業に出席した生徒を対象に、授業実施前にアンケートを配布し、同日に回収した。
- ・質問事項は日本語で作成したものを英訳し、それを現地スタッフがカンボジア語に翻訳した。

■調査実施期間

- ・平成25年11月4日(月)～平成25年11月8日(金)

■回収実績

- ・回収実績は以下の通り。

クラス	美容	縫製	バイク修理	電気	エアコン
在籍	21	15	8	6	8
回収	18	9	5	4	4
回収率	85.7%	60.0%	62.5%	66.7%	50.0%

■調査結果

○あなたの所属しているクラスを教えてください。(N=40、在籍は58名)

- ・回収率が高かったのは、美容(85.7%)、次に電気(66.7%)、縫製(60%)の順であった。

クラス	美容	縫製	バイク修理	電気	エアコン
在籍	21	15	8	6	8
回収	18	9	5	4	4
回収率	85.7%	60.0%	62.5%	66.7%	50.0%

○あなたの年齢を教えてください。

- ・最小年齢は13歳(美容)、最高年齢は39歳(バイク修理)であった。
- ・回答者の平均年齢は、22.58歳であった。

○RVCは国際ボランティア貯金の支援で運営されていることを知っていますか。(N=40)

- ・「知っている」「聞いたことがある」を合わせると、回答した生徒の92.5%の生徒が国際ボランティアの支援で運営されていることを認識している。

1 知っている	2 聞いたことはある	3 知らない
19	18	3
47.5%	45.0%	7.5%

○上記設問で1、2と回答した方に伺います。本校が国際ボランティア貯金の支援により運営されていることを知り、親日的な感情は高まりましたか。(N=37)

- ・「1とても高まった」「2有る程度高まった」を合わせると、回答した生徒全員が日本に対しより良い感情を抱くようになっている。

1 とても高まった	2 有る程度高まった	3 変わらない	4 あまり高まらない	5 まったく高まらない
20	17	0	0	0
54.1%	45.9%	0.0%	0.0%	0.0%

○RVCに通うことになった目的を教えてください。(自由記述)

<ul style="list-style-type: none"> ● RVCに勉強に来たのは、確かな専門性を身に着けたいから。 ● 将来の仕事のために知識を得たい。 ● この学校に来たのは知識を得たいからだ。 ● 私は将来のために確かな職業と専門性を身に着けたい。また、RVCに学びに来ているのは、この場所では勉強に必要な物の支出があまりないので、自分にとって有益だからだ。 ● RVCで勉強をしたのは、この学校の先生が教育熱心できちんと教えてくれるから。そして、

終了後は修了証書を出してくれるので、仕事が探しやすいから。

- RVCで勉強したのは、勉強が終わってから自分の仕事を身に着けることができると思ったから。
- 教員がよく、証書を出してくれるので商売がはじめやすい。教員が熱心できちんと生徒に教えてくれる。
- RVCに勉強に来たのは、専門性を身に着け、将来の仕事にいかしたいから。
- RVCに勉強に来たのは、将来のための明確な専門を学びたいから。
- RVCに勉強に来たのは、将来のための考え方や知識を得られると思ったから。
- RVCに勉強に来たのは、将来の生活を支える稼ぎを得る仕事をするための新しい知識を身に着けたいから。
- RVCに勉強に来たのは、技術にとっても興味があったから。
- 勉強が終わったら、自分で商売を始めたい。
- RVCに勉強に来たのは、自分の専門性を身に着けたいので。
- 将来自分で商売をしたい。
- RVCに勉強に来たのは、美容の知識を身に着けたいから。勉強が終わったら、証書をいただいで、自分で店を開きたい。
- 教員が熱心で終了後には証書ももらえるので、RVCに学びに来た。
- RVCに勉強に来たのは、将来の自分の仕事を得たいから。
- 生活を支えるための商売をする専門性を身に着けるため。
- 将来の生活を支えるための商売をする専門性を学びたい。
- この知識を商売につなげ、生活を支えていきたい。
- 商売につなげたい。
- 生活を支えるための商売をする専門性を身に着けるため。
- 裁縫やデザインを考えるのが好きなので、この学校に入りました。
- 仕事をするためのきちんとした専門知識を身に着けたい。
- レインボー職業訓練センターのことを知っていたので。
- RVCに来たのは、授業料が安く期間も程よく、教員が熱心だから。
- 服が作れるようになって、お店を開きたい。
- RVCに来たのはよい学校であり、貧しい人を助けてくれるから。
- 全ての分野で発展している日本に興味があった。RVCに勉強に来たのは、縫製の仕事をしたいのと、教員が良く、授業料も相応だから。
- 縫製がきちんとできるようになり、店を開いて、家族を支えたい。
- あらゆるデザインの服を作れるようになりたい。
- 良い仕事につきたい。
- 良い仕事につくための知識を得たい。
- RVCに勉強に来たのは、自分の将来の生活を支える良い仕事だから。
- 日本がこのようなカンボジアを支援し、貧困者のために支援をしてくれることは良いことであり、とてもうれしく思っている。私も支援が必要な貧困者の一人として、専門性を身に着けられることがうれしい。今後も日本には支援を継続してほしい。
- クーラーの修理ができるようになり、他の人と一緒に仕事がしたい。
- クーラーの修理ができるようになり、専門の仕事がしたい。
- 将来はクーラーの修理工として専門の仕事がしたい。

(出典) 新日本有限責任監査法人調査

○RVCの授業の内容、質はどうか。(N=40)

- ・授業内容、質については回答した生徒のうち97.5%が「1 内容、質は高い」と回答している。

1 内容、質は高い	2 内容、質は良いが、改善の余地はある	3 内容、質はあまり高くない	4 内容、質は低い
39	1	0	0
97.5%	2.5%	0.0%	0.0%

○6カ月間RVCに通うことで良い職を得たり、開業したりできると思いますか。(N=39)

- ・「1 とても役立つ」と「2 有る程度役立つ」を合わせると、回答した生徒全員が役に立っていると評価している。

1 とても役立つ	2 有る程度役立つ	3 あまり役立たない	4 まったく役立たない
19	20	0	0
48.7%	51.3%	0.0%	0.0%

○RVCに6カ月通うことで生活はより良くなると思いますか。(N=39)

- ・「1 良くなる」と「2 有る程度良くなる」を合わせると、回答した生徒全員が卒業後、生活が良くなると考えている。

1 良くなる	2 有る程度良くなる	3 あまり良くならない	4 悪くなる
9	30	0	0
23.1%	76.9%	0.0%	0.0%

○授業料はどうか。(N=39)

- ・授業料は「1 安い」と「2 適度」と回答した生徒が、97.4%を占めていた。

1 安い	2 適度	3 少し高い	4 高い
11	27	1	0
28.2%	69.2%	2.6%	0.0%

○卒業後は何をしますか。(N=38)

- ・卒業後については、「2 開業」が最も多く 47.4%、続いて「2 転職」が 42.1%で、89.5%の生徒が、現在の仕事からより良い別の仕事に移ろうとしていることが確認できる。

1 転職	2 開業	3 今と同じ	4 その他
16	18	1	3
42.1%	47.4%	2.6%	7.9%

具体的に:

- 将来は、可能であれば自分で美容のお店を開きたい。
- 6か月間の勉強の後、この知識をさらに明確にするために仕事を探し、将来は自分でお店を開きたい。
- RVCで6か月間勉強し、自分と家族のためにお金を稼ぐための確かな職業と専門性を身に着きたい。そして、力があれば自分の専門である美容のお店を開きたい。
- 6か月勉強したら自分で商売を始める。
- 6か月の勉強の後、自分で店を開く。
- 6か月の勉強の後、新しい専門、新しい仕事、新しい知識を得て、自分で店を開くことができる。
- 6か月の勉強の後、美容の専門家として自分の職業として働きたい。
- 6か月の勉強の後、新しい専門、新しい仕事、新しい知識を得て、自分で店を開くことができる。
- 6か月の勉強の後、商売を開始したい。
- 6か月の勉強の後、新しい専門、新しい仕事、新しい知識を得て、自分で店を開くことができる。
- オートバイ修理工になりたい。
- 将来、家族を養うお金を稼ぐ職人になりたい。
- オートバイ修理工になりたい。
- RVCで学んでいるので、私の新しい仕事はオートバイ修理工としたい。
- 6か月の勉強の後、自分のお店を開きたい。しかし勉強が終わっていないのでまだです。最初はどこかで働いてお金を貯め、知識を確かなものにして、目標を達成したい。
- 6か月で仕事をしながら勉強をしている。
- 6か月勉強した後も、さらにここで勉強したい。なぜなら服のデザインはまだいっぱいあり、まだきちんと習得できていないから。
- お店を開きたい。
- 自分でお店を開きたい。
- 6か月勉強した後、田舎で店を開きたい。
- 6か月勉強した後にできるようになったら、ミシンや機械を買って縫製の店を開き、発展させていきたい。
- 6か月勉強した後にできるようになったら、ミシンや機械を買って縫製の店を開き、発展させていきたい。
- 6か月勉強した後、ミシンを買って家で仕事がしたい。
- 就職をして将来にわたる専門を貫く。
- ①6か月間勉強した後、自分の仕事を見つける。②クーラーの修理や設置のグループを作りたい。③自分の仕事、グループの仕事を経て、会社を興したい。④1-3が実現したら、大口の仕事をお願いしていきたい。
- 会社に勤めたい。
- 6か月の勉強の後、新しい会社で勤めたい。
- 以前より良い仕事をし、以前より明確な専門を身に着きたい。

(出典) 新日本有限責任監査法人調査

○6カ月の通学後、収入はどの程度増えますか。(N=35)

- ・卒業後の所得については、「1 とても高くなる」と「2 少し高くなる」と、以前より改善されると回答した生徒が75.2%であった。

1 とても高くなる	2 少し高くなる	3 以前と同じ	4 少し下がる	5 大きく下がる
3	24	8	0	0
8.6%	68.6%	22.9%	0.0%	0.0%

具体的に:

- 今勉強中なのでわからない。
- まだ勉強が終わっていないのでお金を得ることがまだできない。
- 6か月が終わったらお金を得られると思う、まだお店を開いていない。
- まだきちんとした専門が身につけていないが、私の収入は多くなると思う。
- まだ勉強が終わっていないので、1か月にいくら収入があるということはわからない。
- 6か月の勉強が終わったら、相応の収入が得られるようになると思う。
- RVCで勉強してまだ半月なので、自分の生活を支える収入はない。
- まだ勉強が終わっていないので、収入はない。
- まだ勉強中なので給料はない。
- 6か月間勉強をしているので、お金は得られていない。
- 1か月に服を作って10ドル。
- 自分の服しか作っていない。
- 勉強中なのでお金を稼ぐことができない。
- 日当として20000リエル(\$5)～30000(\$7.5)リエルほど得たい。
- 月\$150～\$200。
- まだ仕事をしていない。
- 仕事によって100ドル以上。短期で勉強でき、学費も少ないのがよい。
- 相応の給料がほしい。
- RVCで勉強した後、相応の収入がほしい。

(出典) 新日本有限責任監査法人調査

○RVCの将来の運営に対する意見

- 可能であれば、場所を移転してほしい。なぜなら遠いので誰も知らない。
- 学校の場所を国道の近くに移転してほしい。
- 学校が奥まったところにあるので、大きい道の近くに移動してほしい。
- 学校の場所を国道の近くまたは誰もが知っている場所に移動してほしい。また、勉強のための資材・機材が不足しているので、さらに支援をしてほしい。
- RVCのマネジメントはよいと思う。教職員も教えることに熱心で倫理もある。将来ももっと発展するだろう。
- RVCの将来の経営は、さらに良くなると思う。
- RVCの将来の経営はよいと思う。なぜなら先生方が熱心だから。
- RVCの将来の経営はよいと思う。
- RVCの将来はとても発展すると思う。自分もパーマ屋さんを開きたい。
- RVCは将来発展すると思う。
- 学校の経営は発展するだろう。なぜなら教員がとても熱心だから。
- 経営がとてもよく、教員が熱心で倫理がある。将来発展すると思う。
- 見つけにくいので学校の場所をもう少し変えたほうがよいと思う。生徒が商売を始めるための資金を貸す制度を作ってほしい。
- RVCの場所を大きい道路沿いに移すべき。商売を始めるための融資支援をしてほしい。

- 見つけにくいので学校の場所をもう少し変えたほうがいいと思う。生徒が商売を始めるための資金を貸す制度を作ってほしい。
- 勉強が終わったらお金を貯め、知識を確かなものにして、確かな専門性を身に着けたい。将来は自分の店を持ちたい。確かな専門が身に着けば自分や家族の支えとなることができる。
- RVC の経営はよいと思う。他の場所にも学校を展開して生徒に教えてほしい。
- 機械（マシン）が壊れるので、壊れないようにしてほしい。
- RVC は将来、生徒のためのものを増やしてほしい。たとえばマシンや各色の糸を充実させてほしい。マシンが壊れているので、修理をしてほしい。
- RVC に材料や資材を充実させて、不足がないようにしてほしい。マシンが壊れたら職人さんを呼んで修理してほしい。
- RVC にかがりマシンを追加してもらいたい。
- 将来は、材料、資材を充実させてほしい。たとえばマシンなど。
- RVC は将来、生徒のためのものを増やしてほしい。たとえばマシンやかがりマシン、各色の糸を充実させてほしい。マシンが壊れているので、修理をしてほしい。
- 使い勝手の良いマシンを入れてほしい。
- RVC のマネジメントは良い。
- クーラークラスの時間を 17:30～20:30 にしてほしい。証書を受け取る日にちを明確にしてほしい。
- 授業の時間をさらに増やしてほしい。コース終了前にトレーニング期間を設けてほしい。座学と実技を増やして生徒が学んだことをきちんと思い出せるようにしてほしい。
- 将来にわたって RVC にはカンボジアの人のために職業訓練をしてもらいたい。
- RVC の経営は良いと思う。将来は 1 つの分野に教師を 2 人とし、多くの生徒を受け入れてほしい。

（出典）新日本有限責任監査法人調査

図表 インタビュー対象者



(出典) 新日本有限責任監査法人

(3) カンボジア・日本国際福祉事業団「貧困家庭の子どものための給食付き識字教室の運営及びスタッフの研修」

①事例概要

○背景と目的

カンボジアでは近年、経済発展と共に就学率が向上している。しかし、カンボジア全土で、初等教育開始年齢の6歳で就学する子どもは28%、小学校6年を卒業できる子どもは43%と非常に少ない。また、平成20年度時点で、15歳以上で教育経験のまったくない非識字者は29.8%と、ASEAN10か国の中でも最も高いと言われている。その理由の1つとしては、公立学校教師の給与が低く自活できないため、児童からお金を取って授業を行うことがあげられる。お金を支払えない家庭の児童は学校に行きづらくなりドロップアウトしてしまう。また、地方では仕事がないため、都市部に職を求めて人が集まっているが、定職に就けない人は路上生活をしながら物売りなどで日銭を稼ぎ、子どもたちは空き缶拾いや物乞いなどで家計を助ける一員とされている。日々の生活に追われ、子どもを学校に行かせることができない家庭も少なくなく、子どもたちが働くことを優先させる親もいる。

平成23年度は、プノンペンに住む貧困層にある子どもたち60名に給食付き識字教室を実施し、母国語であるクメール語や英語等、生きるために必要な知識を身につけさせ、可能であれば学校に戻れるよう調整する。また、現地スタッフを日本に招聘し、日本の教育、福祉について学ぶ機会を提供することとした。

○実施状況

月曜日から金曜日の毎日、午前と午後の2回に分けて、識字教室を実施した。識字教室は3クラスに分かれていて、子どもたちは給食を食べ、クメール語や英語、算数等を学び、定期的に歯磨きや手洗いなどの衛生教育を受けた。

この教室はプテアニョニム（日本語では「にこにこの家」）と呼ばれていて、昼休みなどの授業を行っていない時間帯も子どもたちが自由に利用できるように、朝7時前から夕方5時まで開放されている。子どもたちはこのプテアニョニムを、識字教室の場としてだけでなく、思い切り遊ぶことのできる場所としても利用している。

また、現地スタッフ2名を日本に招聘し、10日間の研修を行った。日本においては、公立の小学校や中学校、学童保育、児童養護施設、国際子ども図書館、国立科学博物館等を見学し、教育、福祉の考え方、プテアニョニムの運営について学んだ。

日本からは、平成24年9月24日から1名、平成25年1月28日から1名、2月3日から1名、3月27日から3名の社会福祉専門家を、のべ63日間派遣し、子どもたちに対する面接や家庭訪問、図画・工作指導等を行った。

図表 にこにこの家入口（上）、教室内部（中）、授業風景（下）



（出典）新日本有限責任監査法人

②インタビュー調査

■事業が日本からの支援であることの認知度

本校が日本からの支援であることについては、インタビューした生徒 34 名のうち 28 名 (82.4%) が「知っている」と回答し、6 名 (17.6%) が「知らない」と回答した。一方、親については 9 名 (90.0%) が「知っている」と回答し、1 名 (10.0%) が「知らない」と回答した。親は人から本校が日本からの支援であることを聞いた場合の他、子どもから、本校が日本からの支援であることを聞いており、背景には、授業の中で教師等が生徒に対して説明がなされていることがある。

また、本校が日本からの支援で運営されていることを知り、親は親日的な感情が醸成されていることも確認できた。

図表 「親日的な感情の醸成の内容」

- ・日本は貧しい国を支援してくれている。大変感謝している。カンボジア政府は貧困対策が不十分である。
- ・無償で教育を受けられる支援をしている日本に感謝している。
- ・無償で勉強できる支援をしている日本に感謝している。
- ・親のいない子どもや、貧しい子どもに教育の支援をしていただき、その恩は忘れない。他の学校に通うとなると負担が大きい。
- ・日本は良い国。支援してくれて感謝している。
- ・貧しい国を支援している国。貧しい家庭の子どもにも教育を支援してくれる良い国。
- ・貧しい家庭の子どもを学校に行けるよう支援してもらい感謝している。日本は好きだ。
- ・無償で子どもが学校に行けて日本には感謝している。

(出典) 新日本有限責任監査法人調査

■利用の契機

にこにこの家に通う契機となった理由について尋ねたところ、「兄弟が通学」や「親のすすめ」という理由の他、「自ら勉強したい」と答えた生徒が相対的に多かった。特に、クメール語の読み書きや英語、日本語を学びたいという生徒が多く、教育を受けることが将来に役立つという意識が生徒にも一定浸透しているように思われる。また、にこにこの家は、能力別にクラス編成をしており、生徒の能力、理解度に応じた授業が実施されており、生徒が授業を十分に理解できるような環境を整備している点も、公立学校と比較して評価されている。

なお、にこにこの家については特に広告やちらし等の配布をせず、全て口コミ等により生徒が募集されているとのことである。

図表 にこにこの家に通うことになった理由

○兄弟が通学

- ・兄、姉が通っていたから。
- ・姉が良いと言うので、行きたいと思った。
- ・兄がすすめた。勉強をしたかった。

- ・姉から聞いて、自分も国語と英語を勉強したくて通うことにした。

○親のすすめ

- ・母親が連れてきた。
- ・母が連れてきた。
- ・父が連れてきた。
- ・無料で食事、勉強ができる。父が連れてきた。
- ・無料で食事、勉強ができる。母が連れてきた。

○自ら勉強したい

- ・知識が得たいので学校に行きたいと母に言ったら、おじさんがここに連れてきた。
- ・英語を勉強したいので来た。
- ・公立学校に通っていたが、もっと勉強したいので通うことにした。
- ・無料で勉強できると近所に居た先生に聞いて通うことになった。
- ・親戚の紹介で給食が無料で勉強できるので通うことになった。
- ・無料で英語、クメール語の勉強ができると友人に聞いた。
- ・勉強をしたいと思いついて行くことにした。
- ・お父さんが連れてきた。勉強したいと言った。
- ・公立学校は半日なので時間があつた。友人から聞いて自分から親に行きたいと言った。国語と英語を勉強したかった。
- ・近所で祖母が屋台をやっていて、祖父からこの学校のことを聞いた。自分から行きたいと言った。国語と英語を勉強したかった。
- ・祖母のすすめで行くことにした。自分も勉強がしたかった。
- ・友人に聞いて、将来のために勉強することを目的に来た。近くにあることもよかった。
- ・将来、英語で仕事をしたいので学校に来た。
- ・おばさんから、良い学校と聞いた。読み書きができるようになると聞いて来た。

(出典) 新日本有限責任監査法人調査

■サービスの内容、質に対する評価

授業は楽しいかと尋ねたところ、全ての生徒が「楽しい」と回答した、また、どのようなところが楽しいのかと尋ねたところ、にこにこの家での勉強、友人との遊びがともに楽しい理由になっており、生徒はすすんで学校に通っている状況が確認できる。

また、授業内容では、国語、英語の人气が高く、日本語を好きな科目と回答する生徒もいた。給食については、インタビューした全ての生徒が「おいしい」と答え、生徒において、それぞれ好きなもの、楽しみにしているメニューがあり、給食の時間も生徒の楽しみになっていることが確認された。

図表 学校の楽しさ、好きな科目、給食の評価

○どのようなところが楽しいですか

- ・遊び道具が多いこと、友達がいるので楽しい。絵本もたくさんある。
- ・遠足、水泳が楽しい。
- ・遊べる友だちがたくさんいる。先生が遊びを教えてくれる。英語の勉強ができる。
- ・友だちができた。外国人と話せる自信がついた。遠足が楽しい。
- ・友だちと遊ぶ。サッカーや絵を描くことが楽しい。勉強も楽しい。
- ・勉強ができること。友達と遊ぶのも好き。
- ・友だちもでき、勉強も楽しい。友人と遊ぶのが楽しい。英語が出来るようになった。
- ・勉強も楽しいが、友だちと遊ぶのが楽しい。給食も楽しい。

○どの授業が好きですか

- ・国語が好き。英語が好き。英語ができれば仕事ができる。
- ・英語が好き。日本語が好き。数学と英語が好き。
- ・国語が好き。英語が好き。日本語が好き。クメール語の読み、書きは仕事で必要なので身につけられて良かった。
- ・国語が好き。英語が好き。数学も好き。
- ・国語と英語が好き。数学、社会、英語が好き。数学が好き。
- ・英語とコンピューター。
- ・英語と国語。
- ・日本語。英語。数学。

○給食はおいしいですか

- ・おいしい。好きなものは、空芯菜炒め、豚肉とキノコのスープ、鳥もも焼き、生姜焼き、肉野菜炒め。
- ・おいしい。好きなものは、魚炒め、キャベツスープ、空芯菜スープ。
- ・おいしい。好きなものは、野菜炒め、カレー、野菜炒め。
- ・おいしい。好きなものは、塩漬け魚のミンチ、生姜焼き、空芯菜のスープ。
- ・おいしい。好きなものは、空芯菜のスープ、鶏肉炒め、豚肉炒め。
- ・おいしい。好きなものは、豚肉炒め、生姜焼き、野菜炒め。
- ・おいしい。好きなものは、鶏肉炒め、生姜焼き、蛙の炒めもの。

(出典) 新日本有限責任監査法人調査

■当該事業がなかった場合の対応状況

にこにこの家がなかった場合、生徒はどうしていたかと尋ねたところ、多くの生徒が以前と同じように家にいて、家事の手伝いや下の兄弟の世話、勉強、遊びをしていたと答えている。また、一部の生徒（親）は、他の NGO 等が運営する無償の学校を探して通わせていたと回答した。このように、にこにこの家により、多くの生徒が公立学校以外での学習機会が与えられ、特に貧困層への教育機会提供に貢献している。なお、事務局へのインタビューでは、生徒のうち、75%は公立学校に通っているが、カンボジアでは公立学校に通うには毎月\$5程度の支出が求められる。他の25%は公立学校に通わず本校のみに通学しており、事務局では、この25%の層には公教育の重要性を親に説明して通学するよう促しているとのことである。

図表 にこにこの家がなかった場合の状況

○以前と変わらない

- ・家にいたと思う。家事、下の子の面倒を見ていた。親から公立学校に行けと言われない。
- ・今通っている学校に行き、帰ったら家事を手伝っていた。
- ・家にいて家事、畑の手伝い、下の子の面倒を見ていた。
- ・家計に余裕がないので、親を手伝うか、工場に勤務していたと思う。
- ・家事手伝いをしていた。復習して家事を手伝っていた。
- ・働いていた。家の手伝いもしていた。今は、読み書き、英語もできるようになった。
- ・寺で手伝いをしていた。読み書き、絵も書けるようになった。
- ・家事を手伝っていた。読み書きができるようになった。
- ・家の掃除をしていた。学校に行き、英語が分かるようになった。国語は勉強中です。
- ・下の子の面倒をみていた。英語ができるようになった。
- ・公立学校に行っていた。他の半日は家事を手伝っていた。今は、学校に行っているので、あまり手伝っていない。

- ・以前は遊んでいた。勉強はあまりしていなかった。
- ・以前と変わらなかった。未亡人で家計が苦しいので他の学校には行かせられない。
- ・母の店を手伝っていた。良い学校があれば勉強していた。
- ・家の手伝い、家事をしていた。
- ・公立学校のみだった。他の学校に行かせる余裕はない。
- ・以前は家事を手伝っていた。

○他の学校を探していた

- ・同じように無料で教育が受けられる他の NGO 団体を探していたと思う。家計に余裕がなく、塾等には行かせられることはできない。
- ・他の学校を探していた。他の NGO の支援を受けている学校を探していた。
- ・塾の費用の免除を受けて塾に行っていた。
- ・母のすすめで他の NGO が運営する学校に行っていた。

(出典) 新日本有限責任監査法人調査

■生活の変化状況、役立ち度

にこにこの家に通ったことでの生活の変化状況や役立ち度について尋ねたところ、子どもは学校に通うことで、以前より勉強ができるようになったことや、楽しい時間が得られるようになったこと、さらには食事がきちんと取れるようになったこと、が役立ち度の内容として指摘された。一方、親も子どもが無償で学校に通い、食事が与えられることで、教育費、食費の負担が大きく軽減され、役に立っていることが確認された。

図表 生活の変化状況、役立ち度

○子ども

- ・以前より楽しい。ここは楽しいところです。特に遠足が楽しみ。
- ・以前より勉強ができるようになった。食事もここで取れて家計も助かっている。読み、書きがちゃんとできるようになった。
- ・以前より良くなった。朝と昼がちゃんと食べられる。読み、書きができるようになった。
- ・仕事をしなくてよくなり楽になった。以前より御飯をちゃんと食べられるようになった。
- ・以前よりも勉強ができるようになり他のことをしなくて良いので楽。
- ・給食が食べられるので、お金をもらわないようになった。
- ・以前は一食だったが今は二食食べられる。こずかいも不要になった。文房具ももらえる。
- ・食事が二回食べられるようになった。両親の負担が減った。

○親

- ・以前はフランスの NGO が運営する食事付きの無料の学校に通っていたが、不良が多く、教育内容も不十分であった。
- ・にこにこの家に通い、英語、コンピューターが出来るようになった。
- ・教育費、食事の負担が軽減して助かっている。子どもは食事がおいしいと言っている。
- ・負担が減り生活は良くなった。教育、食事が無料で得られるので大変助かっている。
- ・生活が苦しい中、家計の負担が減り大変助かっている。公立学校の教科書も支援してもらい助かっている。
- ・子どもが日中は学校に行っているの、安心して仕事ができるようになった。食事があって、ちゃんと食べられるので安心している。性格、礼儀も身につけ、勉強もするようになった。
- ・食費、教育費がかからず家計負担も減り、生活は良くなった。
- ・日中、安心して預けられ、食事勉強もできるので、負担が軽減するし、また、仕事に集中できたので、生活は良くなった。
- ・食事が出るので家計の負担が軽減し、助かっている。

(出典) 新日本有限責任監査法人調査

図表 インタビュー対象者



(出典) 新日本有限責任監査法人

(4) ミャンマー・ジャパンハート「住民のための診療・手術及び医療従事者への技術指導」

①事例概要

○背景と目的

開発途上国であるミャンマーの近年の発展は著しいものの、地方ではまだまだ十分な医療を受けられない状況にあり、医師や看護師不足が深刻である。当団体は、平成16年からミャンマー中部のザガイン管区ワッチャ慈善病院で医療活動を行っているが、受診した患者の多くが現金収入の少ない地方の農民であり、医療保険制度がなく、金銭的な理由で適切な治療を受けられず、悪化しているケースが見られる。また、奇形などの疾患は、長期間放置されている。

ワッチャ慈善病院に行けば、日本の医療チームから治療を受けられるという噂を聞きつけ、遠くタイの国境地帯から治療を受けに来る患者も多く、年間1,200件という手術を行っているため、手術器具の消耗は激しく、手術用消耗品も十分とはいえない。

また、ミャンマー国内においては医科大学が4校しかなく、1学年500名もの学生が在籍しているが、大人数のため、学内演習や病院実習の場において1人1人が十分な経験を積むことができない状況にある。

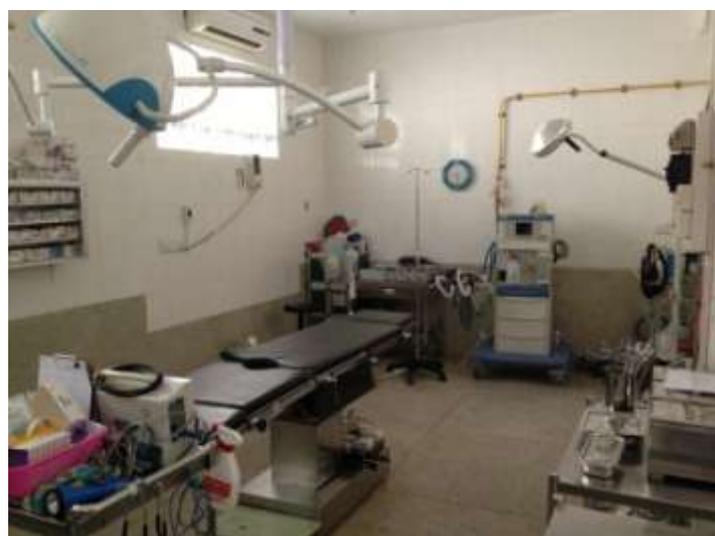
平成23年度は、定期的に日本から医師・看護師を派遣し、約8,000名の外来診療と約1,200件の手術を行うとともに、手術に必要な超音波機器を配備する。また、現地医師、看護師約20名と共に医療活動を実施し、医療知識、技術の指導を行うこととした。

○実施状況

日本から、のべ50名の医師や看護師を派遣し、外来患者11,712名の診察を行い、1,782件の手術を行った。超音波機器や電気メス、手術機器基本セット等を購入・配備したことで、より安全で高度な医療環境が整い、さまざまな手術を行うことができるようになった。

また、医師や医科大学性、看護大学性、看護師等20名に対し、整形外科手術の指導や緊急時の対応、手術室看護師の役割、清潔操作・包帯交換の方法等、36項目を、のべ63日間にわたり、勉強会や臨床による指導を行った。

図表 病院入口（上）、入院用ベッド（中）、手術室（下）



②インタビュー調査

■事業が日本からの支援であることの認知度

本校が日本からの支援であることについては、インタビューした手術前後の患者 26 名のうち 25 名 (96.2%) が「知っている」と回答し、1 名 (3.8%) が「知らない」と回答した。本病院は、特別の宣伝や広報を実施せず、口コミで日本人医師による高度の医療と医療費の安さに関する認知が高まっており、来院する前から多くの患者が日本からの支援であるということが知られているようである。

また、本病院が日本からの支援で運営されていることを知り、親は親日的な感情が醸成されていることも確認できた。

図表 「親日的な感情の醸成の内容」

- ・日本からの支援で病院が運営され、安く治療が受けられて、みんなの役に立っていて感謝している。
- ・日本からの支援のお陰で入院するのもあまりお金がかからない。ミャンマーの人のための支援に感謝している。
- ・日本からの支援で多くの人が医療を受けられ、ありがたいと思う。
- ・日本からの支援でミャンマー人が医療を受けられ、大変うれしい。
- ・日本からの支援で運営されているこの病院はみんな優しい。とてもうれしい。ミャンマーを支援してくれて感謝している。
- ・日本からの支援で貧しい人も医療を受けられ大変感謝している。
- ・貧しい人に医療を提供していただき、とてもうれしい。感謝している。
- ・日本からの支援で多くのミャンマー人が医療を受けられて大変うれしい。感謝している。
- ・日本からの支援は大変ありがたい。日本はミャンマーに対して優しくしてくれて、とても良い。嬉しい。
- ・日本からの支援で病院が運営され、とても有り難いと思う。貧しい人でも医療が受けられる。
- ・日本の支援で貧しい人が安く医療を受けられてとても有り難いと思っている。
- ・日本はミャンマーに支援してくれて、大変優しい国。ここの日本人もみんな優しい。
- ・日本はミャンマーに対していつも優しい国。高い技術の医療支援を受けられ大変ありがたい。
- ・ミャンマーのような貧しい国の医療を日本に支援してもらい、大変うれしい、有り難く思う。

(出典) 新日本有限責任監査法人調査

■利用の契機

本病院の利用の契機について尋ねたところ、多くの患者は、知り合い等がこの病院で手術を受けて、その水準の高さ、医療費の安さから、勧められたということであった。患者はマンダレー近辺のみならず、遠方からも来ており、ワッチャ慈善病院の評判は国内で広く認知されるようになってきているようである。

図表 利用の契機

- ・昨年、この病院で手術を受けた村の人に、この病院は技術も高く、治療。薬の質も高いと聞いたので、ここを選んだ。
- ・以前、この病院に入院した親戚（ヘルニアで手術）から、この病院は国際的な支援を受けて高い技術の医療を提供していること、また、費用がかからない、と聞いて選んだ。

- ・村の人から、この病院は技術が高く、安いと聞いた。村には病院はない。
- ・医療の技術が高く、医療費もあまりかからない病院で、評判が高い病院であると聞いていた。入院した際も大変環境が良いと聞いた。
- ・村に住む5-6人位がこの病院に入院したことがあり、技術が高く、医療費が安いと聞いた。
- ・村の他の子どもが治療を受けたと聞いた。この病院は技術が高く、どんな患者でも受け入れ、対応もやさしいと聞いた。
- ・ここに入院したことがある他の僧侶に聞いた。日本からの支援で医療技術が高いと聞いた。また、以前診察を受けた病院からも勧められた。
- ・町の知り合いが、以前、ここの病院に入院したことがあり、医療費が安く、スタッフの対応もやさしく、とても良い病院と聞いた。
- ・祖母がここに目の手術で入院した。手術の技術も高く、いたみも殆どなく、術後の状況も大変良い。また、みんなの対応もやさしい、と聞いた。
- ・兄に聞いた。また、村の人もここに入院した人が多く、病院のことを聞いたことがある。
- ・伯父さんが以前、同じ病気でここに入院した。手術の技術が高く、医療費も安いと聞いた。伯父さんは完治しているのだから、技術が高いのは本当だと思った。
- ・村の人で以前、この病院に入院したことがある人に聞いた。ここは、医療費も安く、技術も高い。術後の状況も良く、手術は大変うまいと聞いた。
- ・隣に住む人がここで手術を受けた。手術の技術が高く、痛みもなく順調であったと聞いた。また、知り合いの医者もここで手術を受けて、手術レベルが高く、術後の状況も良いと聞いた。
- ・この病院は技術が高く安いのは良く知られている。日本人医師の技術はミャンマー人より高く、安心して治療が受けられる。自分と同じ病気の人が、ここで手術を受けて、技術が高く、術後も痛みがなく、大変良いと聞いて、ここで手術を受けることを決断した。
- ・近所の人と同じ病気でここに入院し、技術も高く、薬も良く、医療費が安いと聞いた。全てが良く、安心して治療が受けられると聞いた。
- ・親戚がこの病院を勧めた。ここで目の手術をしたが、技術が高く、とても良い病院と聞いた。
- ・村の知り合いが以前、この病院で同じヘルニアで手術を受けた。技術も高く安いと聞いて手術を受けることにした。
- ・隣の家の子どもが同じ病気でこの病院に入院して、ここは技術も高く、お金もかからないと聞いた。
- ・サガインの尼僧に勧められた。ここは技術も高く、医療費も安いと言われた。
- ・弟と姪が同じ病気でこの病院に入院し、ここは技術が高く、医療費も安いと聞いた。
- ・隣の寺の尼僧から聞いた。また、いとこが鼻の中の腫瘍の除去をこの病院で手術した。日本人医師がいて、技術力が高く、ヘルニアの手術も定評があると聞いた。

(出典) 新日本有限責任監査法人調査

■医療の内容、質に対する評価

手術前の患者に、本病院の医療の内容、質に対する期待について尋ねたところ、日本人医師による高度な技術による治療が受けられることから、多くの患者がその内容、水準を期待し、また治癒できることを期待していることが確認できた。また、本病院の紹介を受けた、以前に入院していた患者の状況から、自らの病気も治癒できるものとの期待も医療の内容、質に対する評価につながっている。日本人医師によると、「以前は日本から来る医師は若手が多かったが、今は指導医レベルの医師も参加している。日本の地方の病院よりは高い水準の医療が提供できていると思う」とのことであった。

また、病院の環境についても清潔で広く、患者にとって快適な環境であることが高く評価されている。医師、看護師等の医療スタッフの対応も親切で、そのことが手術を受ける前の患者にとっての安心につながっている。

図表 医療の内容、質、病院の環境

○医療の内容、質

- ・診察を受けた印象では、不安なところもなく、良い感じであると期待している。
- ・技術も高いと聞いていて安心している。病院は非常に過ごしやすい。
- ・ミャンマー人より日本人の医療技術の方が高いので、安心・信頼している。
- ・日本からのサポートを受けて高い技術、安い医療費の病院で治療を受けて、必ず治ると信じている。同時に入院した人も良くなった。
- ・子どもがたくさん治療を受けていて、水準が高いと聞いている。
- ・日本人の医療技術は大変高い、今回も早く治ると思う。医療の内容、質はとても良い。
- ・日本人医療スタッフの技術は高く、また、お金がなくても治療が受けられる。医療の内容、質にも大変満足している。
- ・診察、薬も大変良いものであった。手術のレベルも大変高いと聞いていて、安心している。日本人の先生は大変技術が高いので、期待している。
- ・祖母の言う通り、ここは技術が高く、スタッフの対応もみんな優しい。とても信頼し、安心している。手術が成功することを期待している。
- ・9月に初めて来て、医師、看護師の対応が大変優しく、嬉しかった。手術する医師は日本人なので、技術は高いと思う。日本の支援があるので安心して治療が受けられる。
- ・日本人医師の医療技術は高いので信頼、安心している。また、スタッフもみんな親切に対応してくれて、大変安心している。診察時も入院時も、全てのスタッフの対応が良い。
- ・日本人医師の手術が受けられるということで、技術レベルが高いと思う。また、医師、看護師も対応が良く、大変感じが良い、
- ・以前にここで手術を受けた人に技術が高いと聞いた。手術後に再発もせず、順調であることや、日本人医師がいて安心して治療が受けられるので、大変良いと思う。
- ・日本人の小児科医師がいて、特に子どもの治療の水準は高いと聞いた。治療を受けた子どもも順調に回復しているので、技術レベルは高いと思った。
- ・以前にここで手術を受けた2人は、ここは技術が高いと聞いた。治癒していることもあり、それを信じている。
- ・前回の手術の後は何も痛みがなく、不安もなく、順調であった。技術力の高さと治療の適切さに満足している。今回も日本人医師の治療受けられるので、安心している。

○病院の環境

- ・スタッフの対応も大変よく、清潔で環境も大変良い。
- ・全てにおいて問題は無い。清潔で、環境も良い。他の病院よりは良いと思う。
- ・環境は非常に良い。院内も清潔で空気も良い。スタッフの対応も良い。
- ・清潔で環境は良い、スタッフの対応もみんなやさしい。
- ・清潔で、空気も良い。スタッフの対応も大変優しい。
- ・大変良い。手術前後の生活も快適である。部屋も広くて清潔で、大変満足している。
- ・以前治療を受けていた医師からも、この病院の医療水準は高いと聞いた。日本人の支援もあり、質の高い医療が受けられると思う。
- ・ゆっくり過ごせる心地よい環境である。日本人スタッフも多く安心である。
- ・部屋も広くて、定期的に掃除されていて清潔で、とても良い感じである。スタッフの対応も大変感じが良い。
- ・他の病院よりも清潔である。定期的に清掃している。
- ・部屋は広く清潔でとても過ごしやすい。スタッフの対応はとても優しく、満足している。
- ・少しベッドは狭いが十分である。環境は全体として良い。スタッフの対応も良く、診察、検査ではとても優しく接してくれた。

(出典) 新日本有限責任監査法人調査

また、手術を受けた直後の患者へのインタビューでは、手術は無駄なく順調に実施され、大きな痛み等もなく、無事に終えたことが確認できた。また、術後に医師より、これで治

癒されたとの診断を受けたことが手術を受けた直後の患者にとっての安心感につながっているようである。

図表 手術直後の状況

- 手術中は少し痛みがあった。今も少し痛む。手術は無駄なく順調であった。日本人医師とミャンマー人医師が対応した。手術は期待通りの内容で、これで治ると先生に言われ、安心した。手術は初めてで少し怖くて緊張したが、がんばった。
- 手術は朝 9:30 から 1 時間くらい。手術中は少し痛みを感じた。今も少し痛む。手術は順調であった。無駄なく手際良い手術であった。日本人医師とミャンマー人医師が対応した。先生にこれで治ると言ってもらい安心した。
- 手術は 1 時間以上かかった。順調であった。手術中は痛みは無かったが、今は少し痛みがある。先生もこれで治ると言ってくれて大変安心した。想定していた通りの水準の手術で大変満足している。食事は取っても良いと言われたが、まだ取っていない。
- 手術は 30 分程度であった。今は痛みは無い。手術の際も麻酔をしていたので痛みの感覚はない。手術は順調で、期待通りの内容であった。大変満足している。先生もこれで治ると言っていたら、大変うれしい。ここの医療の技術は高く、信頼している。
- 手術は 15 分位。今は痛みは無い。手術中も痛まなかった。手術は順調で、噂通り、技術は高いと感じた。医師は日本人かどうかは分からなかった。看護師の対応もとても良く、不安な気持ちを和らげてくれた。
- 手術前は、以前に手術した人から聞いて、技術が高いと思った。医師は日本人なので、技術は高く安心してた。手術は 1 時間程度であった。手術は無駄なく順調に進んだ。麻酔は少し痛かったが、今は殆ど痛みは無い。手術には大変満足している。先生は一週間程度は少し痛むが、必ず治ると言われて安心した。切除した塊をみた。大きかった。
- 手術は 1 時間位であった。手術は無駄なく順調に進んだ。手術中は少し痛んだが、今は痛みは無い。手術の内容には満足している。手術前は緊張したが、看護師が声をかけてくれて気持ちが和らいだ。聞いた通り、高い技術の手術が受けられたと思う。先生もこれで治ると言っていたら、安心した。
- 手術は 2 時間程度。手術は無駄なく順調に進んだ。手術中も現在も痛みは無い。日本人医師とミャンマー人医師、2 名が対応した。手術は期待通りで大変満足している。スタッフの対応も良く、安心して手術を受けられた。聞いた通りの高い技術であった。
- 手術は 1 時間程度で、無駄なく順調であった。日本人医師とミャンマー人医師が対応した。手術中は少し痛みがあった。今も少し痛む。手術の内容は期待通りで満足している。麻酔と抗生剤をしたので痛みは和らいだ。これで治ると先生に言われて安心した。技術が高いというを確認できた。

(出典) 新日本有限責任監査法人調査

■医療の内容、質に対する評価（現地医療関係者の声）

日本からの支援によりワッチャ慈善病院の医療の内容、質がどのように変化したのかを現地人医師、看護師、コーディネーターに尋ねた。

まず、医師によると定期的に訪れる日本人医師の指導の下で数多くの手術を経験して、ミャンマー人医師の技術、能力は大きく向上している。また、提供された高度の医療機器を活用して、より高水準の医療が提供されるようになったと評価している。ミャンマーでは、医師は資格に応じて実施できる手術の内容、水準が特定されているが、日本人医師の下では、そのような規制もなく、より高度の手術を経験することができる等、ミャンマー人医師の医療技術の向上に貢献している。

図表 医療の内容、質に対する評価（現地人医師）

○日本からの支援の役立ち度、内容

- ・吉岡先生からは多くの医療技術を学んだ。以前は技術がなく経験も少なかったが、ここで経験し、勉強し、ある程度の技術を身につけることが出来た。
- ・日本人医師からの技術指導で、医療技術を学んでいる。大変役立っている。
- ・また、機器も数多く提供されていて高度な医療に貢献している。

○日本からの支援による医療の内容、質の変化

- ・日本人医師からの指導もあり、ミャンマー人医師、看護師の水準は以前に比べて高くなった。医療の内容、水準は高くなっている。以前できなかった手術も今はできるようになった。
- ・自分が知らないことをたくさん学べた。特に医療技術は高まった。また、こちらの患者の状況を日本人にも伝え、意見交換し、相互に知識、技術を高めあっている。医療関係者の交流により、より良い医療につながっている。

○このワッチャ慈善病院への日本からの支援がなかったらどうなっていたか

- ・考えたことは無い。まだまだたくさんのこと吉岡先生から学びたい。先生がいないと、技術を身につけるのが困難になる。
- ・今より患者は大幅に少なかった。今はここへの道路も整備されたが、近辺の環境も整っていなかったと思う。何より高度な医療が受けられなかった。評判も今様に高くなかった。

（出典）新日本有限責任監査法人調査

また、看護師、コーディネーターによると、派遣される日本人医師、看護師とともに医療活動に従事することで、医療現場を通じて医療技術を習得できるようになり、また連携、コミュニケーションの向上、そして患者に対するホスピタリティの重要性を学ぶことができ、ワッチャ慈善病院の医療の内容、質は高まっていると評価している。

図表 医療の内容、質に対する評価（現地人医師）

○日本からの支援の役立ち度、内容

- ・日本人の看護師からは医療技術、看護技術の多くを学んだ。日本語も学び、ある程度のコミュニケーションも図れるようになった。今は、教えてもらったことを活かして、様々な手伝いができるようになった。
- ・ここは様々な子どもの病気の治療に対応できるので、子どもには大変良い環境である。
- ・医療技術、看護技術を色々学べる。日本人看護師の勉強したことや知識、経験を教えてもらい、大変役立っている。
- ・看護技術を学ぶ学校もあるが、ここでは実務を中心に経験できるので、役立つ。

○日本からの支援による医療の内容、質の変化

- ・日本人のサポートで医療技術は高くなっている。今では様々な村から患者が数多く訪れている。以前は、治療が困難な人を断っていたが、今は殆どの病気、治療を受け入れており、医療水準は以前より高くなっている。
- ・医療の内容、質は年々高まっている。
- ・患者は手術待ちの期間があるが、確実に治療を受けられる。
- ・ミャンマー人医療関係者も日本人の指導を受けて、技術水準が上がっている。
- ・病院の医療レベルは良くなっていると思う。
- ・日本人看護師からホスピタリティを学び、患者に対して、どんな時でも、怒りがあるときでも笑顔で接することを学んだ。

○病院の環境の変化

- ・環境は良くなった。以前はジャパンハートの病院のスペースは小さかったが、今は大きくなった。道路も整備され、ここに来るのも比較的容易になった。アクセス、環境ともに患者

の評判も良い。

- ・環境は良くなっている。ミャンマーの他の病院と比較しても環境は相対的に良い。
- ・ミャンマーの医師、看護師はエリート意識が高く、患者にも指示、叱咤することが少なくないが、ここは患者重視の医療を提供している。
- ・ここで研修を受けた医療関係者が地元で、それを発揮して行くことで、ミャンマーの医療がより良くなることを期待している。
- ・以前は人気がなかったが、今は患者があふれている。ジャパンハートのスペースも大きくなった。院内は清潔で、部屋の掃除は看護師が交代で行い、衛生を保持している。

○このワッチャ慈善病院への日本からの支援がなかったらどうなっていたか

- ・今のように多くの患者が訪れていなかったと思う。日本の支援で、安くかつ高度の医療が提供されるようになり、評判も拡大して、利用者が増えている。
- ・日本からの支援がなければ、技術もホスピタリティもなく、何もできていいなかったと思う。
- ・田舎の小さな病院で今のように評判も良くなく、患者も少なかったと思う。日本の支援で、評判の良い病院になった。

(出典) 新日本有限責任監査法人調査

■当該事業がなかった場合の対応状況

ミャンマーでは医療保険制度がなく、公立病院であっても独立採算の観点から病院によって医療費が異なっており、かつ一般市民の生活水準に照らすと相対的に高い水準となっている。そのような中、僧侶が経営するワッチャ慈善病院は、手術のために派遣される日本人医師、看護師は全て無償であることもあり、医療費は他の病院と比較して大幅にひくい水準となっている。そのため、高い技術と医療費の安さを求めて、ミャンマー各地から診療を受ける患者が殺到している。

インタビューにおいて、もしこのワッチャ慈善病院がなかったらどうしていたか、を尋ねたところ、他の病院の医療費は倍以上の水準であったので、他では治療を受けられず、放置していたと答えた患者が数多くいた。また、他の病院を探すと回答した患者もいたが、ワッチャ慈善病院のような病院はミャンマー国内には他にないので、困難な状況陥っていたと推察される。

このようにワッチャ慈善病院は、所得が低い貧困層の患者の治療に貢献しており、生命、生活の向上に高く貢献していることが確認できる。

図表 このワッチャ慈善病院がなかったらどうしていたか

- ・他の費用の安い病院を探していた。今回の治療では村の人に聞いて\$70程度を想定しているが、他の病院あれば、\$200以上高くかかると聞いている。
- ・人に聞いて、良い病院を探していたと思う。
- ・他の病院での治療は医療費の関係で大変難しい。
- ・困難であるが、安く治療が受けられる他の病院を探していたと思う。
- ・他の病院を探していた。治療費は無料と聞いているが、\$50を用意している。
- ・他の病院を探していた。安く、技術が高い病院は他にない。
- ・死ぬしかなかったかもしれない。他の病院は高くて行けない。
- ・僧侶が経営する他の病院に行っていた。
- ・他の病院は高いので行けない。今回の治療には\$50を予定している。人に借りた。
- ・他の病院は高くて受診できない。恐らく、そのまま放置していたと思う。今回の治療では\$50程度を想定している。

- ・ここでは\$20位だが、町の病院であれば\$150かかる。困っていた。
- ・この病院は\$20程度の治療費を予定しているが、ここが無いとすれば、近くの病院に行かざるを得ない。その場合は、\$200かかり、困っていた。病院に行けなかったかもしれない。
- ・マンダレーで病院を探していた。しかし、ここよりは高く、技術も低い。今回は\$50程度の治療費を予定しているが、他の病院だと3倍以上は要する。
- ・腫瘍は18歳のときからあった（現在、47歳）。他の病院は高くて行けない、この病院では、\$50程度であるが、他では\$200以上はかかる。痛みがないので放置していた。
- ・こと同様に技術が高く、安い病院を探していたが、他にこのこと同様な病院は無い。今回は\$70-\$80程度を想定している。他の病院に行けば、少なくとも\$100以上はかかる。
- ・別の病院を探していた。医師が手術を受けるような技術が高い、評判の良いところを探していた。店を営んでいて、人のつながりがあるので、広く聞いて探していたと思う。
- ・マンダレーの他の病院に行かざるを得ない。今回、この病院は\$100程度想定しているが、別の病院では、倍以上の費用がかかる。
- ・村の近くの病院は医師が常駐していない。この病院では\$40程度を想定している。他は\$100以上かかり、大変困っていたと思う。
- ・マンダレーの病院に行っていた。そこでは、少なくとも\$100以上はかかっていた。ここでは無料なので、大変助かる。
- ・お金がないから放置していたと思う。ここでは\$50を想定しているが、他の病院に行けば\$300はかかるので行けない。
- ・安い病院がなかったら放置していた。前回は\$30。今回も同じ程度を想定。

(出典) 新日本有限責任監査法人調査

■ 利用後の生活の変化状況、役立ち度

手術前後の患者に尋ねたところ、多くの患者が手術を受けた後の生活は改善され、より良いものになることを期待していることが確認できた。また、術後、一定の静養期間を経て、日常生活に戻る予定で、病気が治癒され、普段の生活に戻れることを望んでいることが確認できた。このような期待、安心感の醸成においても、ワッチャ慈善病院の医療は貢献している者と考えられる。

図表 手術後の生活、退院後の予定

○退院後、生活はより良くなると思いますか

- ・手術によって良くなることを信じている。
- ・良い生活になることを信じている。
- ・必ず良くなると思う。
- ・回復して、良くなることを信じている。
- ・医療の内容、質が高いので、必ず治り、より良くなると思う
- ・手術によって良くなることを信じている。
- ・手術によって良くなることを信じている。

○退院後、どのような生活を送られる予定ですか

- ・病気になってから1年近く仕事をしていない。早く農業に戻りたい。
- ・このところ、ずっと仕事をしていない。退院後、早く仕事をしたい。
- ・早く仕事に復帰したい。
- ・退院後は農業に早く戻りたい。
- ・退院後、ゆっくりと休んで、まずは農業の仕事を始め、その後、回復状況を見て、荷物運びの仕事に復帰したい
- ・来年4月頃から農業に戻りたい
- ・来年1月頃には農業に戻りたい。
- ・退院して、静養した後、寺に戻る。
- ・ゆっくりと静養して、来年の4-5月位に農業の仕事に戻る予定である。
- ・今、家族が米を収穫している。来年の田植えは8月なので、その頃には復帰したい。田の無い時は、野菜、ゴマを作っている。少しずつ復帰したい。

- ・ 静養した後、今通っている縫製の学校に早く戻りたい。
- ・ 元気になったら仕事に戻りたい。多分、5カ月後位だと思う。米を年2回作っている。
- ・ 静養後、農業の仕事に早く戻りたい。
- ・ 野菜（茄子、空芯菜、瓢箪）を作っている。早く農業に戻りたい。
- ・ 退院後、なるべく早く仕事に戻りたい。入院直前まで仕事をしていた。
- ・ 2カ月程度休んで仕事に復帰したい。
- ・ 支障なく動作できるようになってから仕事に復帰する。1-2カ月後を想定している。
- ・ 10日間程休んで、学校に行く予定。
- ・ 4カ月程度休んで、農業の仕事に戻る予定である。
- ・ 1週間位は静養するが、その後はいつもの生活に戻れると思う。まだ、幼稚園等には通っていない。
- ・ 少し静養して仕事に復帰したい。具体的には医者に相談して決める。
- ・ 前回と同様に半年程度は静養して、農業の仕事に戻りたい。

(出典) 新日本有限責任監査法人調査

図表 インタビュー対象者



(出典) 新日本有限責任監査法人

(5) 裨益者調査のまとめ

以下では、裨益者調査のまとめとして、各事業を総括して、裨益者にとっての恩恵、役立ち度、親日的な感情の醸成、成功要因に注目して整理・分析する。

①裨益者にとっての恩恵、役立ち度

各事業ともに、対象国・地域における課題の解決に向けての支援が実施され、実際に裨益者にとっての恩恵、役立ち度が確認できた。以下、各事業の恩恵、役立ち度の内容を整理する。

図表 裨益者にとっての恩恵、役立ち度の内容

事業名	恩恵、役立ち度の内容
カンボジア・アジアレインボー「貧困労働者のための職業訓練校の運営」	<ul style="list-style-type: none">・技能、知識の習得による職業的自立と生活の改善・仕事をしながらの技能の習得・貧困層の労働者でも支払える安い授業料
カンボジア・日本国際福祉事業団「貧困家庭の子どものための給食付き識字教室の運営及びスタッフの研修」	<ul style="list-style-type: none">・能力に応じた学習の提供・無料の食事の提供
ミャンマー・ジャパンハート「住民のための診療・手術及び医療従事者への技術指導」	<ul style="list-style-type: none">・高度な医療サービスの提供・安価な医療費

このように、各事業ともに背景となる課題が異なるものの、いずれの事業においても裨益者にとっての恩恵となり、生活の改善、向上に取って役立つものとなっている。各 NGO 団体において的確に課題が特定され、その改善のために、日本の NGO 団体が主体となり、地域の関係者ととも内容、質の高い事業が実施されていることが上記のような成果を生み出したものと考えられる。

②親日的な感情の醸成

国際ボランティア貯金の裨益者の多くは、支援が日本のものであることを知っており、ほぼ全ての裨益者がそれに対する感謝や礼を示していた。運営する施設では、各施設が国際ボランティア貯金の支援で運営されることが示されている他、裨益者に対して、様々な場面で日本からの支援であることの説明が行われていた。

日本は途上国に支援をしていることは、当該途上国の国民も多く知っていることも背景にあり、事業により裨益者の多くは親日的な感情が高まっていることが確認された。

しかしながら、国際ボランティア貯金制度については、教員や医師等の現地関係者であっても聞いたことがあるという程度の理解で、制度がどうなっているのか、誰が支援の原

資を提供しているのか、といった点について大半が理解しておらず、その点については実施主体である NGO 団体の説明不足が原因であると思われる。

③成功要因

各事例に共通する成功要因として、「料金の安さ」「質の高い運営」「信頼できる現地パートナー」の3点があげられる。

対象層の多くが貧困層であることから、料金負担が高いと利用できない状況となる。今回調査した事例では、貧困層における利用負担の軽減に十分に配慮した低い料金設定、若しくは無料となっている等、そのことが利用の促進と課題の解決につながっている。背景には、国際ボランティア貯金では現地の人件費が認められており、その点が安さにつながっていると考えられる。

また、もう一つの要因は、質の高い運営である。この質の高さの要因は様々にあるが、運営する日本の NGO が現地に求める水準の高さと、その実現のための活動や工夫が背景にあるものと考えられる。いわゆる、日本的な方法が、質の高い運営の実現に貢献していると言える。途上国ではサービスの水準が相対的に低く、対価に見合ったサービスが提供されていないことが少なくない一方で、各事例では対象者の期待に応える内容、水準のサービスを提供しており、成果を実現している。なお、ミャンマーの事例では直接日本人医療関係者が医療サービスを提供しており、そのこと自体が質の高い運営につながっている。

更に、信頼できる現地パートナーがいることも重要となる。NGO 団体は事業運営の方向性や、全体的な視点からの管理は行うが、現地での運営や実施運営は、現地人を通じて行われる。彼らが、支援の使命、目的を理解して、NGO 団体と協力して活動を展開することが、より良い運営につながる。各事例では、マネジメント、専門職の双方で、信頼できる現地パートナーがいることが確認されており、それが事業の成功につながっている。なお、ミャンマーの事例は日本人が運営の中心となっているが、現地コーディネーターのマネジメント及び病院を運営する僧侶の配慮が安定した運営に大きく寄与している。

④各事業の成果

以下、各事業の成果について整理する。

■アジア・レインボー・カンボジア「貧困労働者のための職業訓練校（縫製・美容・バイク修理・電化製品修理）の運営」

○貧困層にも通える水準の授業料の職業訓練校

本校で提供する5つのコース（美容、縫製、バイク修理、エアコン、電気）は、国際ボランティア貯金の支援を受けて、6カ月間を基本にトータルで\$60の授業料と安価で運営

されている。月平均にすると \$ 10 で、一般的な工場労働者の賃金が \$ 100 程度であることから、十分に支払える水準になっている。

カンボジアでは職業訓練、語学等を専門とする学校が、特に首都プノンペンでは数多く開講されているが、多くの学校の授業料が \$ 300- \$ 700 と、一般的な労働者の月収を大きく上回る水準となっている。

インタビューでは、他の学校は授業料が高くて通えないこと、また、多くの学校が授業料に見合った内容、水準の授業が行われておらず、他校に通ったことがある生徒からは、「騙された」との意見も確認された。

このように本校は、貧困層でも支払える水準の授業料とすることで、幅広く技術指導を提供して、カンボジア人の職業能力の向上に貢献している。

○質の高い授業内容

インタビューでは数多くの学生から本校の授業内容の質の高さ、分かりやすさが指摘された。また、各コースともに 6 カ月の学習を終えると、一定水準の技術を身につけることができ、それは、卒業後、直ぐに開業することができる水準である、とのことである。

卒業生の多くも卒業後、開業資金の調達に成功し、速やかに開業している生徒が大半で、また、インタビューした卒業生は全員、事業運営も現在のところ順調であった。

このような授業内容の質の高さの要因は 2 つある。1 つは教員の質の高さである。教員は縫製コースを除いて、開講以降、離職しておらず、継続して本校に勤務している。また、各コースでは教員が作成した教科書が使用されており、また、教科書は毎年改定を重ねて、より良いものになっている、2 つ目は、生徒重視の授業運営にある。カンボジアでは、一方的な講義が提供されることが多いが、本校では NGO の支援を受けて、日本式の生徒重視の授業運営を行っている。それを支えているのが生徒一人一人の学力、学習状況を把握する個別の授業計画書 (IEP)、そして、授業内容の改善に向けての教員の会議を週に一回 (縫製、美容)、月に一回 (バイク、エアコン、電気) と定期的に開催して、授業内容の改善と高度化を図るための見直しを施していることにある。このような手法は教師に負担がかかる一方で、授業の内容の質の高さを実現する有効な手法であり、インタビューでは教員全員が、その意図、効果を理解していた。

○ニーズに合った授業運営

本校は、昼間に工場で働く人のために夜間に授業を実施している。インタビューでは、カンボジアでは、夜間の専門学校は殆どなく、事実上、仕事をしながら勉強することは困難である、とのことであった。また、前述のように授業料の安さもあり、昼間に仕事をし、夜間に授業を受ける労働者が多数を占めていた。

また、提供しているコースのうち、特に美容、縫製、バイク修理は身に付けた技術を基に開業しやすい分野で、開業に資金も多くを要しないことから、工場に勤める労働者が自

立するのには非常に有効な技能である。一方、エアコンや電気は、工場労働と比較して 2-3 倍程度高い賃金が得られ、かつ求人も多いことから、卒業後に就職する際に非常に有用な技能となる。

このように夜間の運営と所得向上につながるコース設定が成功要因の一つと言える。

■日本国際社会事業団 (ISSJ)・カンボジア「貧困家庭の子どものための給食付き識字教室の運営及びスタッフの研修」

○公教育の課題を補完

カンボジアでは公立学校に通うために、月に \$ 5 程度を要する。一方、貧困家庭には、この額を支払うことが困難で公立学校に通っていない生徒や、また、出生証明書の未提出で、学校に通えない生徒も少なくない、その他、親の手伝いで仕事を強いられている子どももいる。このように未就学の生徒でも、ちゃんと学習できるよう支援することが本校の使命の一つになっている。ただし、公教育は重要であるので、学校としては公立学校にも通うことを推奨している。(カンボジアの学校は半日制)

また、公立学校はクラスが年齢別に構成されており、勉強についていけないとの理由で退学している生徒も少なくない。本校では、授業料無料で国語、英語、日本語、数学、社会、コンピューター等を学習でき、かつ能力別に 1-4 年生のクラスを設定し、授業を実施しており、生徒が確実に理解できるように運営されている。生徒の中には学校で理解できないことを本校で勉強し、理解を高める等、公教育を補完する役割も果たしている。

○質の高い授業内容

上述のように、本校は年齢別ではなく、入学時のテストを基に能力別のクラス編成としており、生徒の能力に応じた授業を展開している。

そのようなことから、インタビューにおいても、多くの生徒が授業は分かりやすい、理解が高まった、読み書きができるようになった、との声を多く確認した。

授業は教員が主体となって準備、実施し、NGO が適宜に助言、指導することで一定水準の内容を実現するようにしている。

また、現地スタッフ 2 名を日本に招聘し、10 日間の研修を行い、日本の教制度や、福祉の考え方、学校運営について学んだ他、日本からは、社会福祉専門家を現地に派遣して、直接子どもたちに対する面接や家庭訪問、図画・工作指導等を行う等、教員のレベル向上に努めた。

なお、教員はいずれも大学生（授業は夜間）であるが、月 \$ 130 と相対的に高い水準の給与を確保することで、質の高い教員を確保できるように配慮している。

○貧困家庭の状況を把握した支援

貧困層の子どもは、家庭でのしつけが十分ではないことから、言葉遣いや礼儀、服装の乱れ等の問題を抱えていることが少なくない。本校では、そのような点の改善にも配慮しており、生徒に対して、生活面での一定のしつけが行われている。その実効性を確保するために、本校では個々の家庭の生活事情を把握するように努めており、家庭との綿密な連携で生徒の生活改善、学力向上を図ることを目指している。

また、毎日、学校で朝、昼の食事を取れることで、以前は十分に食事ができなかった生徒の生活の改善を実現している。

なお、近年は本校において一定の学力の向上を図れる一方で、それが就職や所得に直接つながりにくいことから、生徒の家庭状況を綿密に調査した上で、一部の卒業生に奨学金を支給して、技能を身につける支援を NGO の自己資金で行っている。

■ジャパンハート・ミャンマー「住民のための診療・手術及び医療従事者への技術指導」

○費用負担の低い診療費

ミャンマーでは医療保険制度がなく、また自由診療のため、個々の病院で治療費を設定しており、いわば病院の言い値で医療が提供されており、一般的に医療費は高く、貧しい人には医療が受けられない状況である。そのような中、ジャパンハートが運営するワッチャ慈善病院は、日本人医療関係者のボランティアによる支援もあり、他の病院と比較して、診察費、治療費を安価に設定して、他の病院と比較して半分から数分の一の安さで医療を提供しており、貧困層や農業従事者に対して安価に医療を提供している。

この病院がなければ病気を放置していたと言う患者も多くおり、多くの人たちの治療、生活の改善に貢献している。特に、18歳以下の子どもの治療費は全て無料で、また、子ども、大人を問わず診察も全て無料である。また、同じ病気であれば一度手術を受けた後、以降の医療費もかからない。

○日本人医療関係者の質の高い治療（手術）

ワッチャ慈善病院には月に1-2回、日本から日本人医師が派遣され、その期間に集中して手術を実施している。代表の吉岡医師の他、指導医を務めるような技術の高い日本人医師もミッションに参加して、現地で質の高い医療を提供している。

ミャンマーでは医師に資格制度があり、高度の手術をする際には資格が必要であるが、医師のヒエラルキーが厳格で、また資格の付与も国立病院勤務者が中心になっており、実務経験のあるレベルの高い医師が育ちにくい環境にあり、結果として質の高い治療が受けられない状況にある。一方、日本では若くとも経験を積むことができ、機器の充実もあり、高度の技術を身につけることができる環境にある。

このように医療資格制度の違いや、医療水準の違いもあり、現地では受けられないような高い医療水準のサービスを受けられるような状況を実現している。

なお、2年前からジャパンハートに参加しているミャンマー人医師は、日本の医師から技術指導を受けて、年々、医療技術を高めており、現在では、日本人医師不在の中での通常の診察の他、日本人医師とともに数多くの手術に対応している。

○現地医療関係者への技術移転を中心とする人材育成

ワッチャ慈善病院ではミャンマー人の看護師や日本新看護師をインターンとして受け入れて人材育成を積極的に行っている。ミャンマー人看護師にとっては、日本的なホスピタリティのある看護、医療を経験できる貴重な機会になっている。一方、日本人にとっては、厳しい環境の中で医療が必要な人に如何にして十分な医療や看護を提供するのか、また、言葉の違う人と如何にしてコミュニケーションを取り、連携するのかを学ぶ良い機会になっている。

また、日本からボランティアで派遣される医師にとっても、真に医療が必要な人に対して限られた環境の中で医療を提供し、命を守るという医師本来の使命を直に経験できる貴重な機会、日本では経験しにくい状況に触れることができる良い機会になっている。帰国後も医師としての使命、モチベーションをより高めることに貢献している。一方、ミャンマー人医師にとっても日本の最新の医療技術を直接学ぶことができる良い機会になっており、手術を数多く経験すること、年々、技術を高めている。

このように、日本人、ミャンマー人、双方の医療関係者にとってワッチャ慈善病院の運営は人材育成のための良い基点になっている。

3. 平成 23 年度事業の実績概要及び実施プロセスの評価

(1) 平成 23 年度の配分実績

平成 23 年度における配分実績は以下の通り、全体で 1 億 1,291 万 5 千円であった。

地域別にみるとアジアが最も多く、7,132 万 4 千円、続いてアフリカが 3,138 万円、中近東が 1,021 万 1 千円であった。

図表 平成 23 年度地域別配分実績

(単位：千円)

援助事業実施地域	対象国	事業数	配分金額
アジア	ベトナム	1	4,476
	カンボジア	4	12,305
	タイ	1	4,889
	ネパール	2	4,021
	バングラデシュ	1	5,082
	マレーシア	1	2,431
	ミャンマー	3	18,484
	ラオス	1	2,548
	スリランカ	2	17,088
		地域計	16
中近東	パレスチナ	1	4,587
	レバノン	1	5,624
		地域計	2
アフリカ	エチオピア	1	7,934
	ケニア	1	7,425
	中央アフリカ	1	7,187
	南アフリカ	1	8,834
		地域計	4
	合計	22	112,915

(出典) 総務省

図表 平成 23 年度配分実績

区別	平成 23 年度	平成 22 年度 (参考)
申請団体数	25 団体	42 団体
申請事業数	25 事業	42 事業
申請金額	約 1.5 億円	約 2.5 億円
申請事業実施国数	15 か国	20 か国
配分団体数	22 団体	33 団体
配分事業数	22 事業	33 事業
配分金額	11,291 万円	14,583 円

(出典) 総務省

また、以下は事業別の配分実績である。1事業あたり最も多く交付を受けたのは、アプカス「住民の生計向上のための家畜飼育指導」で、9,223,000円、最も少ない交付を受けたのは、ラルパテの会「妊婦及び母子のための健康管理指導」で、1,502,000円であった。一事業あたりの平均交付額は、5,132,500円であった。

図表 平成23年度事業別配分実績

	団体名	事業概要	配分額(円)	配分金交付状況(1回目)		配分金交付状況(2回目)		未交付額
				交付月日	交付額(円)	交付月日	交付額(円)	
1	アプカス	住民の生計向上のための家畜飼育指導	9,223,000	4/25	6,457,000	11/29	2,766,000	
2	アロアシャ・プロジェクト	貧困家庭の子どものための職業教育課程の創設、指導者の育成及び施設整備	5,082,000	5/7	3,558,000	11/29	1,524,000	
3	福島県障害児・者の動作学習研究会	心身障がい児・者のための心理リハビリ指導者の育成及び保護者連絡会の設立	2,431,000	5/9	1,702,000	11/29	729,000	
4	アジア・アフリカと共に歩む会	基礎教育支援のための学校図書室の設備と巡回指導	8,834,000	4/25	6,184,000	11/29	2,650,000	
5	NPOアジアマインド	ろう学校生徒のための補聴器設備及び教員の研修会開催	7,203,000	5/7	5,043,000	11/29	2,160,000	
6	ASACカンボジアに学校を贈る会	住民のための識字教育の実施及び識字教師の育成	1,762,000	4/25	1,234,000	11/29	528,000	
7	アジア・レインボー	貧困労働者のための職業訓練校(縫製・美容・バイク修理・電化製品修理)の運営	3,633,000	4/25	2,544,000	11/29	1,089,000	
8	幼い難民を考える会	就学前教育の充実のための僻地への教材配布及び研修会開催	4,031,000	4/25	2,822,000	11/29	1,209,000	
9	ジャパンハート	住民のための診療・手術及び医療従事者への技術指導	9,228,000	4/25	6,460,000	11/29	2,768,000	
10	日本国際社会事業団	貧困家庭の子どものための給食付き識字教室の運営及びスタッフの研修	2,879,000	4/26	2,016,000	11/29	863,000	
11	日本国際ボランティアセンター	難民等に対する子どもの栄養失調予防支援(リーダー養成、家庭訪問、調理実習等)	4,587,000	4/25	3,211,000	1/9	1,376,000	
12	バルシック	紅茶有機栽培農家のための共同出荷組合拡大及び運営指導	7,865,000	4/26	5,506,000	11/29	2,359,000	
13	パレスチナ子どものキャンペーン	難民キャンプにおける歯科診療所運営支援、歯科医等研修及び予防教育の実施	5,624,000	5/1	3,937,000	12/12	1,687,000	
14	ヒューマンライツ・ナウ	タイに居住するミャンマー人難民等のための法教育の実施	4,889,000	5/1	3,423,000	11/29	1,466,000	
15	NGOアフリカ友の会	栄養失調児のための給食支援、生活改善のための職業訓練及び学校運営	7,187,000	5/1	5,031,000	11/29	2,156,000	
16	梅本記念歯科奉仕団	ハンセン病患者のための歯科診療、口腔衛生教育、舗装具作成支援及び医療技術指導	2,548,000	5/9	1,784,000	11/29	753,500	-10,500
17	日本医学歯学情報機構	口唇口蓋裂患者の無料手術の実施及び医療従事者に対する技術指導	7,934,000	4/25	5,554,000	11/29	2,380,000	

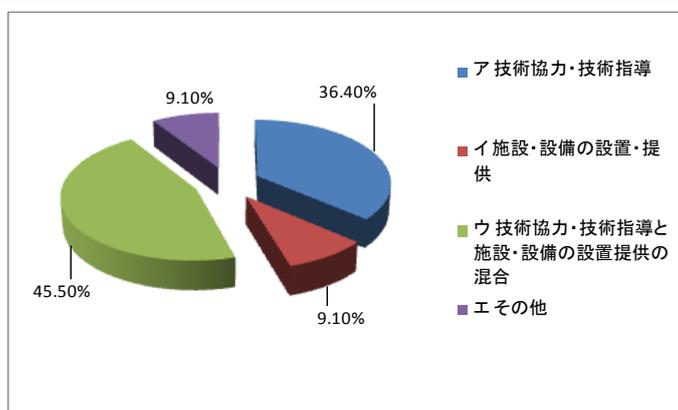
(出典) 総務省

平成 23 年度配分対象となった事業（プロジェクト）の形態及び分野についてアンケート調査を通じて尋ねたところ、形態では「ウ_技術協力・技術指導と施設の設置・設備の設置の混合」が最も多く、45.5%であった。続いて、「ア_技術協力・技術指導」が 36.4%であった。また、分野については、分野については、「ア_保健・衛生」が最も多く、40.9%。続いて「カ_教育」が 31.8%であった。

図表 調査対象プロジェクトの属性・概要

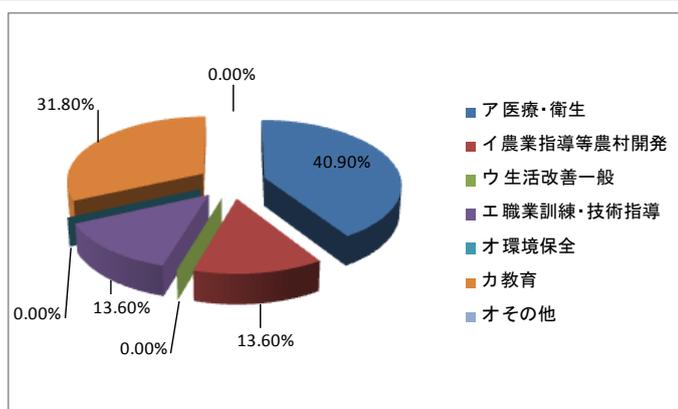
○ 事業の形態

ア 技術協力・技術指導	イ 施設・設備の設置・提供	ウ 技術協力・技術指導と施設・設備の設置提供の混合	エ その他
8	2	10	2
36.4%	9.1%	45.5%	9.1%



○ 分野

ア 医療・衛生	イ 農業指導等農村開発	ウ 生活改善一般	エ 職業訓練・技術指導	オ 環境保全	カ 教育	ク その他
9	3	0	3	0	7	0
40.9%	13.6%	0.0%	13.6%	0.0%	31.8%	0.0%



(出典) 新日本有限責任監査法人調査

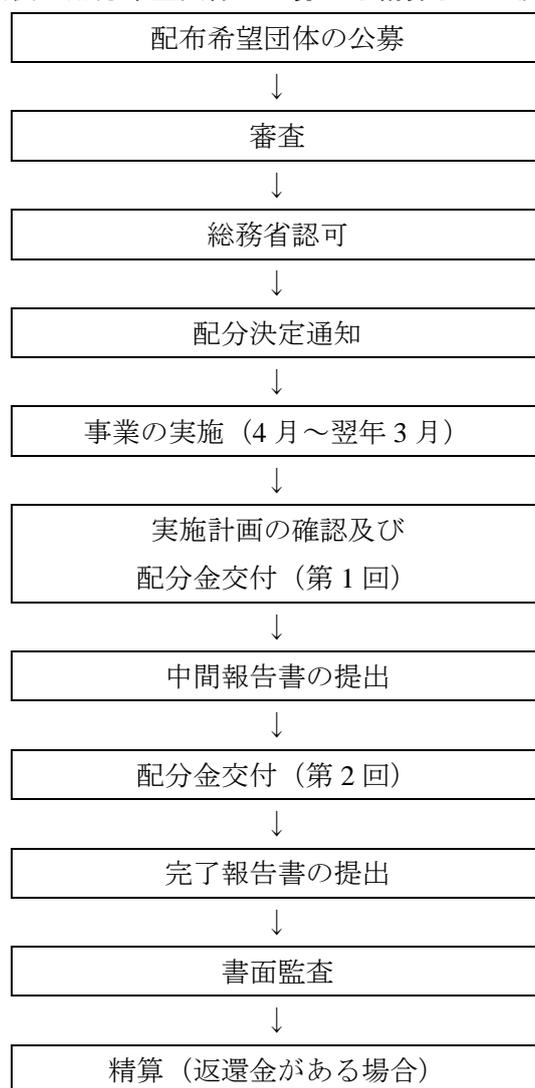
(2) 平成 23 年度実施プロセスの評価

ここでは、審査、事業管理、監査といった制度運用の各プロセスが国際ボランティア貯金制度の趣旨に合致し、その実現に寄与するものとなっていたかどうかを検討することにより、プロセスの適切性を検証した。

平成 23 年度の配分希望団体の公募から精算が完了するまでの一連のプロセスをフロー図に整理すると下図表のようになる。

なお、この流れは、平成 22 年度と変更はない。

図表 配分希望団体の公募から精算までの流れ



(出典) 三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング「国際ボランティア貯金制度の評価にかかる調査研究 (平成 25 年 1 月)

① 審査プロセス

■申請に際しての団体・事業要件

国際ボランティア貯金制度の寄附金の配分を受けるには、「団体要件」と「事業要件」の双方を全て満たす必要がある。平成 23 年度の配分対象となる団体の主な要件は下図表の通りである。

図表 平成 23 年度における配分対象となる団体の要件

1	日本国内に事務所を置き、かつ、代表者が定められ、意思決定及び活動の責任の所在が明確な団体であること。
2	海外援助に関する事業を実施する営利を目的としない民間の団体であること。
3	適正な会計処理が行われていること。
4	他の援助団体に対して、助成を行っていないこと。
5	過去の援助事業実施に当たって、重大な問題がないこと。
6	郵便、電話及び電子メールにて円滑に連絡が取れること。
7	団体のウェブサイトを持ち、直近の活動状況を発信していること。

(出典) 独立行政法人 郵便貯金・簡易生命保険管理機構「国際ボランティア貯金寄付金 平成 23 年度配分申請のご案内」(平成 23 年 7 月)

平成 23 年度(2011 年度)からは各団体がそれぞれのウェブサイトにおいて直近の活動状況を発信していること(上記図表の 7)、が要件として加えられた。これは、国際ボランティア貯金制度の配分を受けた事業をより効果的に周知するとともに、団体自身に事業内容を発信させることで、適正な事業運営を確保させる趣旨であった。

また、「対象となる団体の要件」としては列挙されていないが、「対象となる団体の要件に関する Q&A」及び「配分対象となりうる経費及びならない経費」において、以下の記述がある。

図表 「平成 23 年度配分申請のご案内」における申請可能団体に関する記述

【対象となる団体の要件に関する Q&A】

Q1 どのような団体でも申請できるのですか。

A1 本寄附金配分の申請書の提出日において、財団法人、社団法人、社会福祉法人又は特定非営利活動法人等、法人格がある団体は、平成 19 年度下期以降に国際ボランティア貯金寄附金の配分を受け事業を実施した実績があるか、又は、相応の海外援助事業の実績を有している期間が 1 年以上あれば申請できます。

また、法人格を持たない団体は、平成 19 年度下期以降に国際ボランティア貯金寄附金の配分を受け事業を実施した実績がある場合にのみ、申請できます。

なお、「相応の海外援助事業の実績」とは、過去に実施した海外援助事業が、後述の「第 3 対象となる事業の要件」のうち①②⑤⑧⑩のすべてを満たしている場合を指します。ま

た、「1年以上」とは、平成23年3月31日時点で海外援助事業開始から既に1年以上が経過していることを指します。

【配分対象となりうる経費及びならない経費】

配分を希望できる合計額の上限は、既に配分を受け事業を実施した実績のある団体については1,000万円とし、それ以外の団体については200万円とします。ただし、相応の海外援助事業の実績を有している期間が1年以上の団体に限ります。

(申請する事業の経費総額には上限はありません。)

(出典) 独立行政法人 郵便貯金・簡易生命保険管理機構「国際ボランティア貯金寄付金 平成23年度配分申請のご案内」(平成23年7月)

郵政民営化後、新たな寄附金収入の発生が見込めない状況となったことを踏まえ、国際ボランティア団体の育成という観点よりも、限られた寄附金をできるだけ有効活用するとの観点が重視され、実績のある団体に配分することとなったと考えられる。

次に、平成23年度の事業要件を下表に記載した。

図表 平成23年度における配分対象となる事業の要件

1	事業対象地の状況や住民のニーズを十分把握し、BHN (basic human needs : 基礎生活分野) を充足させる事業であること。
2	申請団体が主体となって計画・実施する事業であること。
3	申請時点で事業計画が明確になっていること。
4	申請団体が日本から派遣した専門家又はスタッフが、事業対象地にて、14日間以上にわたって現地の人々と直接顔を合わせ、協力して活動を展開する必要性が高い事業であること。
5	事業対象地の住民に対して申請団体が指導、技術・ノウハウ移転又は医療行為を行い、かつ、住民の自立を支援する事業内容であること。
6	事業が平成24年(2012年)4月1日から9月1日の間に開始され、平成25年(2013年)3月までに完了し、平成25年4月15日までに完了報告書を提出できること。
7	継続して配分を受けている事業の場合、5回目までであること。
8	活動内容に政治的または宗教的行為(類似行為を含む)が含まれていないこと。
9	国や地方公共団体などの公的な機関に重複して助成を申請していないこと。
10	事業対象地の政府と十分な調整を行っていること。
11	申請時点で、外務省が発表している渡航情報(危険情報)において、事業対象地及び周辺地に「退避に関する情報」が発出されておらず、かつ、申請団体が行う活動について安全が十分確保され得ること。

(出典) 独立行政法人 郵便貯金・簡易生命保険管理機構「国際ボランティア貯金寄付金 平成23年度配分申請のご案内」(平成23年7月)

平成 23 年度の場合は、従来と比較して、研修目的での日本招聘も対象に含めるといった変更が見られる他、完了報告書の提出期限が大幅に早まっていること、ウェブサイトにも活動を報告することを必須要件としたことなどが加わった。また、第 1 の要件の「事業対象地の状況や住民のニーズを十分把握」に関しては、申請書提出日までの間に各団体が事業対象地に赴いて、現地の条件やニーズについて調査を行い、その調査で判明した条件やニーズへの対応策に関して現地住民の理解を得ていることが重視されるようになった。

また、本調査研究における独立行政法人郵便貯金・簡易生命保険管理機構へのインタビュー調査において、審査プロセスについては下記の事項が確認できた。

平成 23 年度は、配分申請を行った計 25 団体に対して審査を行い、うち 22 団体を配分対象とした。配分対象としなかった 3 団体については、14 日以上現地調査を行うとの要件を満たしていない、建物や物資の供与よりも「顔の見える援助」を重視し技術移転を支援するという国際ボランティア貯金制度の趣旨に合致していないと考えられるもの等の理由があった。また、配分対象とされた 22 団体についても、計画の具体性や対象者像が分かりにくい場合には、機構と当該団体とのやり取りにより、内容の明確化・具体化が図られたケースもあった。

審査結果の通知については、「国際ボランティア貯金寄付金 平成 23 年度配分申請のご案内」に記載の通り、平成 24 年 3 月上旬に各団体に対して行われた。

以上を踏まえると、平成 23 年度の審査プロセスについては、国際ボランティア貯金制度の趣旨を踏まえ、各団体に示された基準・スケジュールに従って適切に行われたものと考えられる。

② 事業管理・監査プロセス

各団体への寄附金の配分が決定した後は、配分金の交付を受けて事業を実施し、最終的には完了報告書の提出と精算のプロセスを経ることになるが、これらの段階でも本制度では事業管理・監査を通じて、各団体の海外での事業実施における支援・監理が行われている。

事業管理については、各団体への配分決定通知後、平成 24 年 3 月 30 日までに実施計画書等の提出を受け、実施計画の確認及び配分金交付（1 回目）、中間報告書の提出、配分金交付（2 回目）と、予定通りに進められた。機構へのインタビュー調査では、全般的に大きな問題なく進められたことと、各団体には提出書面において計画内容等をできるだけ具体的に記載するよう指導することに労力が掛かったこと等が指摘された。

監査業務の根拠は、『郵便貯金の利子の民間海外援助事業に対する寄附の委託に関する法律』の中の、「日本郵政公社は、配分団体に対し配分金の用途についての監査をするものと

する（第4条・第4項）」である。この背景としては、国際ボランティア貯金制度の寄附金が加入者の善意によって成り立っていることから、寄附金が効果的、効率的に使用されていることを明らかにする必要があることが挙げられる。

寄附金を配分した事業に対しては、平成22年度と同様に、以下の書面監査と実地監査が実施されている。

- | |
|--|
| <p>①書面監査：中間報告書及び完了報告書により、配分申請書に記載された実施計画通りに事業が実施されたこと及び配分金が適切に使用されたこと等の確認を行うもの。</p> <p>②実地監査：配分団体の事務所又は現地の事業実施地域を訪問し、事業が計画通り適正に行われていることなどの確認を行うもの。</p> |
|--|

国際ボランティア貯金制度の寄附金は、事業実施前や実施途中に配分金を交付するといういわゆる概算払いの方式を採用していることから、交付済みの配分金が適正に使用されたかどうかを事業実施後に確認していくことが重視されている。そのため監査活動が実施されているものである。

機構へのインタビュー調査では、全般的に、NGOは活動の実施に対する意欲や熱意は高いものの、経理・財務諸表の作成など、事務処理能力が高くないことが多く、書面監査の結果は、例年多くの改善指摘が行われているとのことであった。平成23年度についても、完了報告書の監査が監査法人に委託されて実施された結果、計477万5,000円が返還されることとなった。ただし、領収書が入手できない、当初よりも計画内容が縮小された、等の事情が確認できており、いわゆる「不正」は無かったことが指摘された。

以上を踏まえると、平成23年度の事業管理・監査プロセスについても、国際ボランティア貯金制度の趣旨を踏まえ、各団体に示された基準・スケジュールに従って適切に行われ、不正等の問題なく完了したといえる。

4. 平成 23 年度事業の評価（アンケート調査の結果- OECD/DAC の 5 項目基準による評価-）

(1) 調査の概要、方法、回収実績

■調査対象

平成 23 年度に国際ボランティア貯金の配分を受けた以下の 22 団体を対象にした。

団体所在地	団体名（実施国）
北海道	特定非営利活動法人 アプカス（スリランカ）
山形	特定非営利活動法人 アロアシャ・プロジェクト（バングラデシュ）
福島	福島県障害児・者の動作学習研究会（マレーシア）
埼玉	特定非営利活動法人 アジア・アフリカと共に歩む会（南アフリカ） 特定非営利活動法人 NPO アジアマインド（ミャンマー）
千葉	特定非営利活動法人 ASAC カンボジアに学校を贈る会（カンボジア）
東京	特定非営利活動法人 アジア・レインボー（カンボジア） 特定非営利活動法人 幼い難民を考える会（カンボジア） 特定非営利活動法人 ジャパンハート（ミャンマー） 社会福祉法人 日本国際社会事業団（カンボジア） 特定非営利活動法人 日本国際ボランティアセンター（パレスチナ） 特定非営利活動法人 パルシック（スリランカ） 特定非営利活動法人 パレスチナ子どものキャンペーン（レバノン） 特定非営利活動法人 ヒューマンライツ・ナウ（タイ） 特定非営利活動法人 NGO アフリカ友の会（中央アフリカ）
神奈川	梅本記念歯科奉仕団（ラオス）
愛知	特定非営利活動法人 日本医学歯学情報機構（エチオピア） 特定非営利活動法人 日本口唇口蓋裂協会（ベトナム）
大阪	特定非営利活動法人 国際交流の会とよなか（ネパール） ラルパテの会（ネパール）
奈良	特定非営利活動法人 アフリカ児童教育基金の会 ACEF（ケニア）
佐賀	特定非営利活動法人 地球市民の会（ミャンマー）

■調査方法

郵送方式により実施。郵送時に各団体の担当者に連絡して、事前に回答に協力が得られるように依頼した。なお、フォローアップ時に調査実施の利便性を確保するとの観点から一部の団体に対して、メールにて電子ファイルの質問票を送付して、回答を記載したファイルにより回収した。

■調査実施期間

調査の実施期間は、平成 25 年 10 月 4 日（金）～平成 25 年 10 月 25 日（金）。この期間に回収できなかったものについては、期限以降、平成 25 年 11 月 12 日（火）まで、電話にて回答の督促を行った。

■回収実績

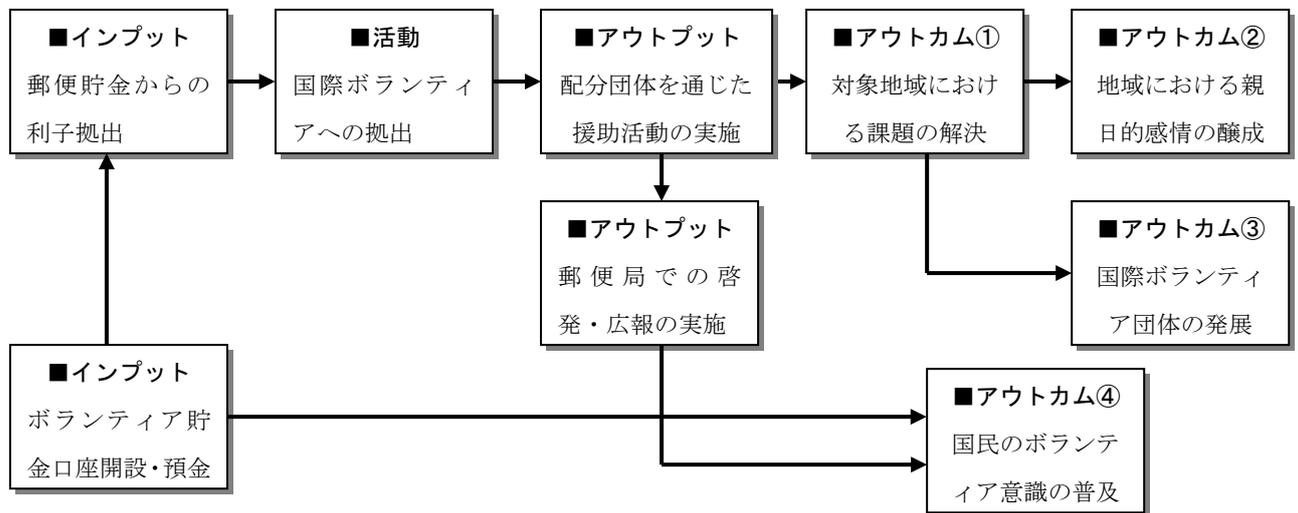
調査期間及び督促期間を通じて、22 団体から 22 件のアンケートを回収した（回収率 100%）。

■調査内容、構成

アンケート調査票は、前年度調査と同様に OECD の DAC の 5 原則である「妥当性」「効率性」「有効性」「インパクト」「持続性」の各観点からの検証を行なうための「事業評価」部分と、各団体と国際ボランティア貯金との関係を確認する「団体概要」部分により構成している。

アンケート調査の回答結果を通じて、前年度調査と同様に事業実施により以下のような成果が発現するとの前提により評価・分析を行った。なお、このうち、「■アウトカム①対象地域における課題の解決」では、プロジェクトを総合的に評価するとの意図から、事業評価部分である、OECD の DAC の 5 原則である「妥当性」「効率性」「有効性」「インパクト」「持続性」の各観点から総合的に検証を行なった。

図表 国際ボランティア貯金制度の成果波及フレーム



(出典) 三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング

図表 アンケート調査により把握した評価の視点

対象	概要
対象地域における課題の解決 (アウトカム①)	平成23年度に配分を受けた団体へのアンケート調査を通じて、対象地域における課題の解決の状況等を検証する。総合的な視点からの分析のため、OECDのDACの5項目基準により分析。
地域における親日感情の醸成 (アウトカム②)	プロジェクトの実施を通じて、相手国・地域に与えた親日的な感情について、その状況を分析。
国際ボランティア団体の発展 (アウトカム③)	国際ボランティア貯金制度の実施が国際ボランティアNGOの活動や団体の発展に寄与した状況を分析。
国民のボランティア意識の普及 (アウトカム④)	国際ボランティアNGOの広報活動により、広く一般国民に対して国際ボランティアの意義が普及した状況について分析。

(出典) 新日本有限責任監査法人

以下、上記フレームを前提に評価を行う。

(2) 調査の結果

①対象地域における課題の解決（アウトカム①）

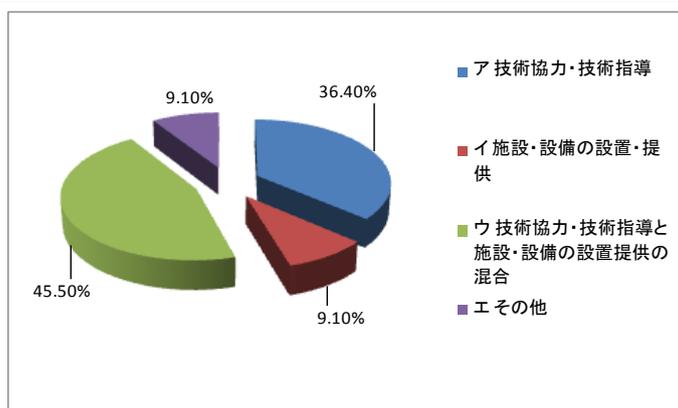
■対象プロジェクトの属性・概要（再掲）

調査対象となったプロジェクトの形態及び分野について尋ねたところ、形態では「ウ_技術協力・技術指導と施設の設置・設備の設置の混合」が最も多く、45.5%であった。続いて、「ア_技術協力・技術指導」が36.4%であった。また、分野については、分野については、「ア_保健・衛生」が最も多く、40.9%。続いて「カ_教育」が31.8%であった。

図表 調査対象プロジェクトの属性・概要

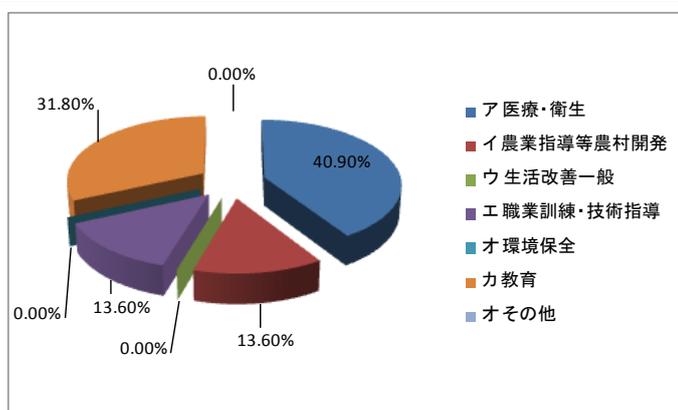
○ 事業の形態

ア 技術協力・技術指導	イ 施設・設備の設置・提供	ウ 技術協力・技術指導と施設・設備の設置提供の混合	エ その他
8	2	10	2
36.4%	9.1%	45.5%	9.1%



○ 分野

ア 医療・衛生	イ 農業指導等農村開発	ウ 生活改善一般	エ 職業訓練・技術指導	オ 環境保全	カ 教育	ク その他
9	3	0	3	0	7	0
40.9%	13.6%	0.0%	13.6%	0.0%	31.8%	0.0%

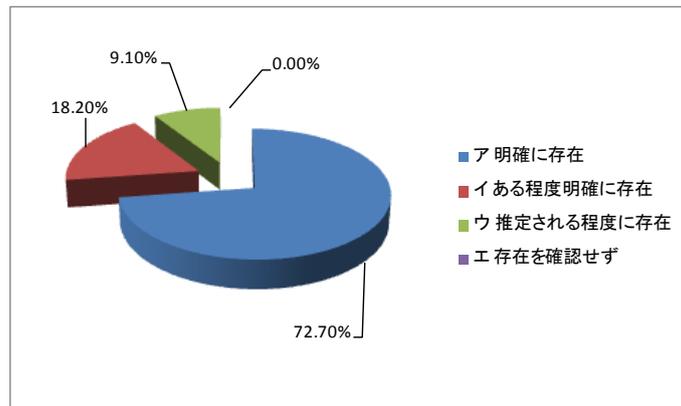


■妥当性

妥当性については、「①助成を受けた事案について伺います。活動地域・対象者について、解決すべき課題が事業実施前に具体的に特定可能な状況になっていましたか」、「②上記課題について、その内容・規模を特定するための事前調査等を実施し、それらを客観的に把握・分析されましたか」について確認した。①については「ア_明確に存在」との回答割合が72.7%、続いて「イ_ある程度明確に存在」が18.2%と、全体で90.9%が事業の前提となる課題が明確であったことが確認できた。また、②については前調査の実施については「ア_綿密に調査した」が77.3%と最も高く、続いて「イ_ある程度調査した」が13.6%と、全体で85.9%が事前調査を実施したことが確認できる等、相対的にプロジェクト実施に関する妥当性が高い状況であったことが確認できる。

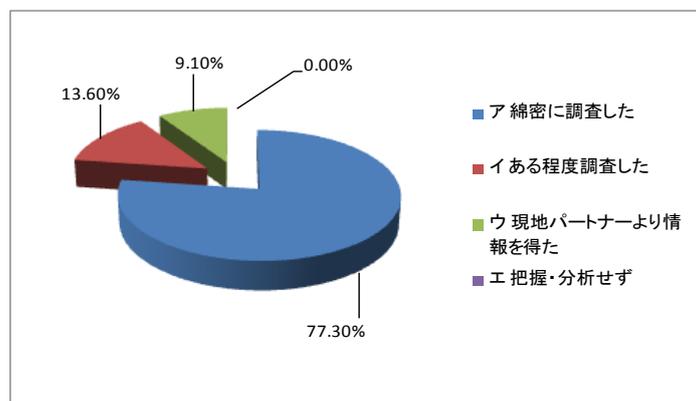
○事業実施前の課題の特定状況

ア 明確に存在	イ ある程度明確に存在	ウ 推定される程度に存在	エ 存在を確認せず
16	4	2	0
72.7%	18.2%	9.1%	0.0%



○課題の内容、規模の特定のための調査の実施

ア 綿密に調査した	イ ある程度調査した	ウ 現地パートナーより情報を得た	エ 把握・分析せず
17	3	2	0
77.3%	13.6%	9.1%	0.0%



図表 アンケート調査において示された課題

- 1 収入不足と国の貧困対策の空回り、2 経済的不安定さが引き起こす民族対立、3 衛生設備の不足、4 社会基盤の整備不足。
- 初等教育、中等教育を受けた生徒たちの就業率が低い原因として、即戦力となる技術技能が不足していることから、新たに職業教育課程を創設。
- 障害者・児への専門的知識に基づいた関わりの欠如。
- 学校における図書不足、図書室がないこと。
- 必要機器取扱技術と知識不足のため、機器が十分に活用されていない。
- 非識字者が多く住み、識字教室開催の要望がありました。
- 工場労働者の残業が多い。
- 医療保険制度のない国情、事業地及び周辺地域の人口、また数年前より継続的に現地にて事業活動を行っている。このことから、解決すべき課題はある程度推定される。
- カンボジア、プノンペン、貧困家庭の子ども約 70 名、現地スタッフ 5 名、識字率、就学率の低さ。
- 子どもの栄養失調。
- 既に農民たちは環境保全に対する意識を持っていたので、有機農法への転換の必要性は明確である。
- 設備の老朽化のために、裨益者へのサービスが量的にも質的にも不十分。現地従事者の専門性向上。
- 学生間の英語能力に差があったことから、授業に対する理解、授業参加につき、ばらつきが出ないよう、フォロー及び英語の指導を行う必要があった。
- 栄養失調児が多い。貧困解決のための女性の職業訓練。義務教育がなく貧困解決のための教育が必要。
- 資金力のない現地協力団体への事業引き渡し。
- 経済的な問題で治療が受けられない先天的な口腔障害に苦しむ子どもたちの手術を行う。また、現地医療者に技術移転を行う。
- ネパールの東部の田舎シズリ郡のドダウリ村の女性の生計支援。
- ネパールには日本の助産師のようにお産に専門職がなく病院では看護師がそれをにない、家での出産では親戚や近所の経験者が行うため、異常出産になった場合は手遅れになり妊婦が死亡したり、新生児が脳炎をおこしたりすることがある。そのため、出産にかかわる人たちに適切な知識を伝達する必要がある。
- 緊急事態に対応するための手術室建設、HIV 感染者に対するカウンセリング、栄養指導、既存の孤児院の内部施設の充実。
- 地域の現金収入の不足。技術の不足。人材の不足。

(出典) 新日本有限責任監査法人調査

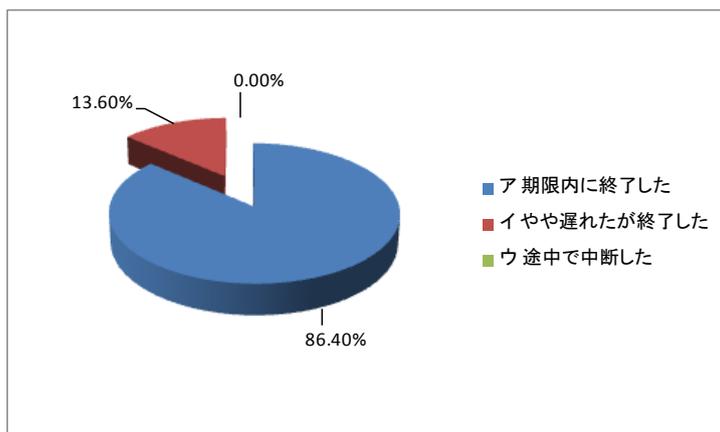
■ 効率性

効率性については、期間の効率性として「助成を受けた事業は当初に予定していた期限内に終了しましたか」、実施内容についての効率性「助成を受けた事業は当初に予定していた内容の通りに終了しましたか」、予算面での効率性「助成を受けた事業は当初に予定していた予算の範囲内で行ないましたか」、その他、トラブルの有無「助成を受けた事業の実施過程において想定外の事情、トラブル等は生じましたか」について調査した。

○期間の効率性

事業の期限については、「ア_期限内に終了した」が 86.4%となっており、大半の事業が予定していた期限内に事業を終了させおり、概ね高い効率性を実現している。

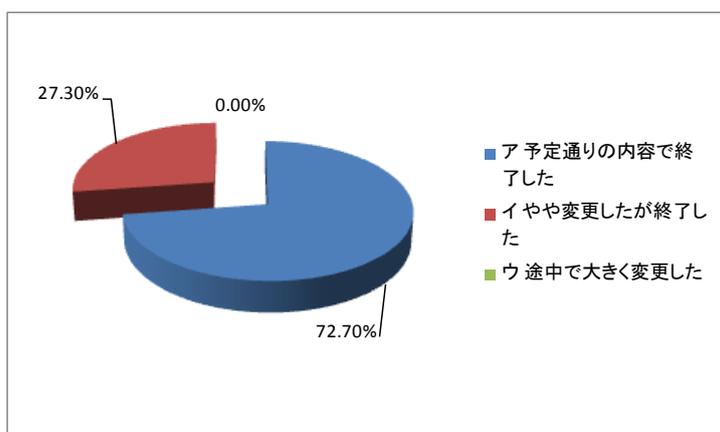
ア 期限内に終了した	イ やや遅れたが終了した	ウ 途中で中断した
19	3	0
86.4%	13.6%	0.0%



○実施内容についての効率性

実施内容の効率性については、事業の実施内容について、「ア_予定通りの内容で終了した」が 72.7%、続いて「イ_やや変更したが終了した」が 27.3%と、合わせて全ての事業がほぼ予定通りの内容で事業を終了させており、概ね高い効率性を実現している。

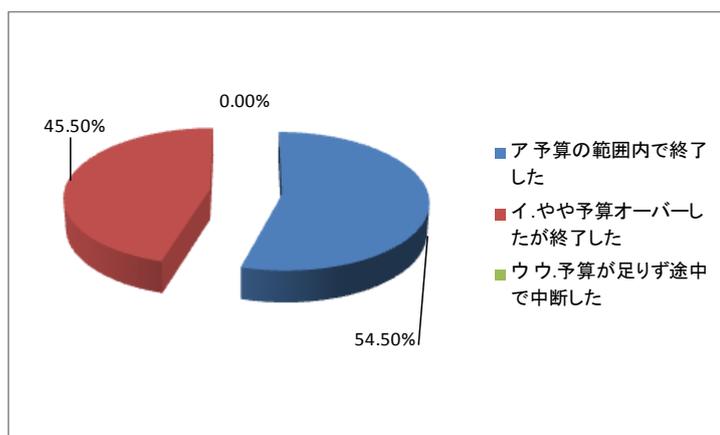
ア 予定通りの内容で終了した	イ やや変更したが終了した	ウ 途中で大きく変更した
16	6	0
72.7%	27.3%	0.0%



○予算面での効率性

予算面での効率性については、事業予算については、「ア_予算の範囲内で終了した」が54.3%、続いて「イ_やや予算オーバーしたが終了した」が45.5%と全ての事業が予算不足に陥らず事業を完了しており、全体100.0%が自己資金を含めてプロジェクトを終了していることから、予算面での効率性についても特段大きな問題は生じていないものと考えられる。

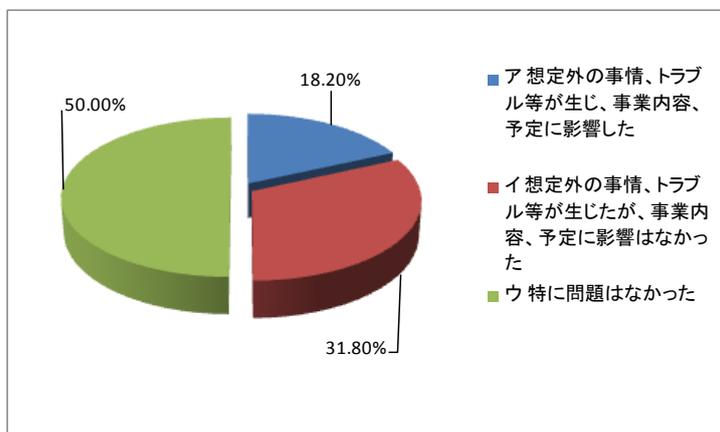
ア 予算の範囲内で終了した	イ やや予算オーバーしたが終了した	ウ 予算が足りず途中で中断した
12	10	0
54.5%	45.5%	0.0%



○トラブルの有無

プロジェクト実施中のトラブル等の発生の有無については、「イ_想定外の事情、トラブルが生じたが、事業内容、予定に影響はなかった」が31.8%、続いて「ア_想定外の事情、トラブルが生じ、事業内容、予定に影響した」が18.2%と、合わせて半数の事業において想定外の事情が生じたことか確認できる。

ア 想定外の事情、トラブル等が生じ、事業内容、予定に影響した	イ 想定外の事情、トラブル等が生じたが、事業内容、予定に影響はなかった	ウ 特に問題はなかった
4	7	11
18.2%	31.8%	50.0%



トラブルの具体的な内容は、政情不安、行政の対応、事業の実施内容・プロセス、実施体制、調達における問題等が確認できる。

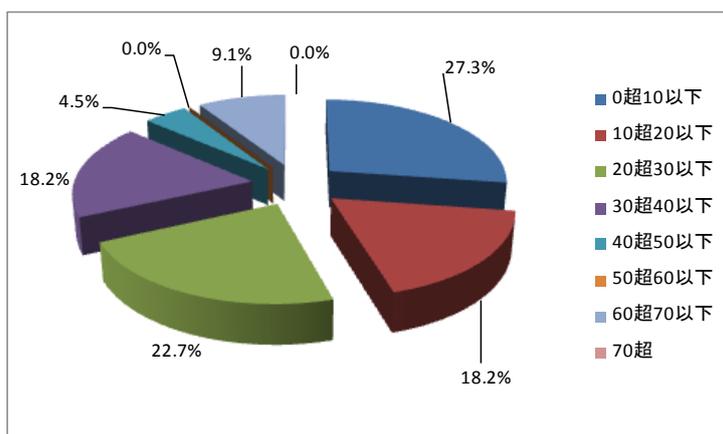
図表 アンケート調査において示されたトラブルの内容

- トラブルの具体的な内容について、お差支えなければご記載下さい：
- 現地の政情不安による暴動が続いたため、スケジュール通りの行動がとれなかった。
 - 本会はマレーシア政府（社会福祉局等）と協力して事業を行ったが、当初計画した地域の変更が度々みられた。
 - 当該地域の行政の対応の遅れで、活動期間が短縮した。
 - 事業地で空爆があり、予定が一時遅れたが、受益者の意欲により、すぐに遅れを取り戻した。
 - グループを組織する際に参加希望世帯が想定より多く、メンバー選定に時間がかかった。
 - 現地従事者の交替。
 - 年齢幅の広い児童を同じクラスで教育したため（スタート時のレベルは同じ）、次第にレベルに差が出てきたため、クラス変更した。夏休みを取らない（貧困で食べられない）予定であったが、教育省の指導で、夏休みを設けることになった。
 - 機械が予定通りに入らなかったこと、雨季が長引いたこと。
 - 購入予定の機材が、業者の都合で、輸入が遅れた。

（出典）新日本監査法人調査

なお、実施されたプロジェクトに対する自己資金の割合（自己資金額÷総費用額×100）について尋ねたところ、回答した団体の平均の自己資金の割合は 23.07%で、「10 超 20 以下」が最も多く 27.3%、続いて「20 超 30 以下」が 22.7%、「10 超 20 以下」が 18.2%であった。

図表 対象プロジェクトの自己資金の割合（助成を受けた事業の自己資金額の割合（自己資金額÷総費用額×100）はどの程度でしたか）



合計	0 超 10 以下	10 超 20 以下	20 超 30 以下	30 超 40 以下	40 超 50 以下	50 超 60 以下	60 超 70 以下	70 超
件数 127	6	4	5	4	1	0	2	0
構成比 100.0	27.3%	18.2%	22.7%	18.2%	4.5%	0.0%	9.1%	0.0%

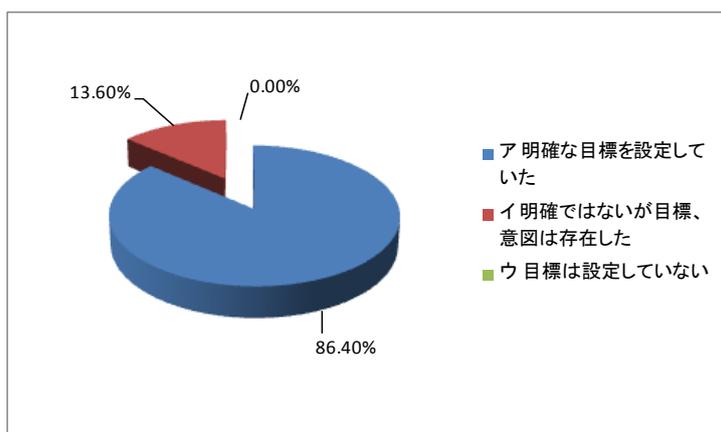
■有効性

有効性については、事前の目標設定の状況「支援を受けて実施した事業について事前に到達すべき目標を設定していましたか」、目標の達成状況「設定された目標は達成されましたか」、目標達成の要因「目標達成の要因について、当てはまるものを選択してください（複数選択可）」について調査した。

○事前の目標設定の状況

実施したプロジェクトに関して事前に目標を設定していたかを尋ねたところ、目標設定については、「ア_明確な目標を設定した」が 86.4%、「イ_明確ではないが目標、意図は存在した」が 13.6%と、全ての事業で何らかの目標、意図が設定されていたことが確認できる。

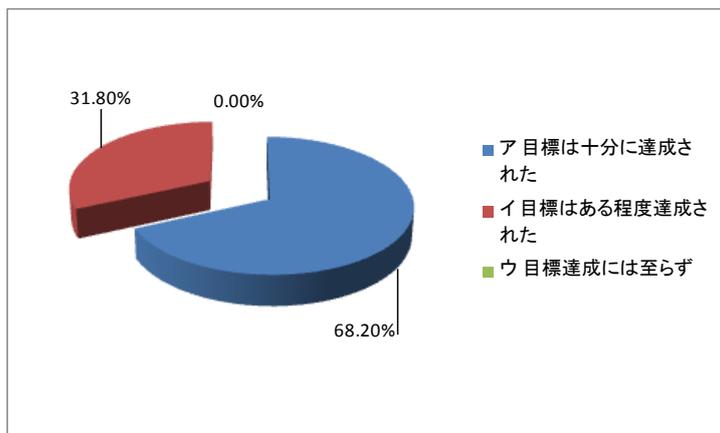
ア 明確な目標を設定していた	イ 明確ではないが目標、意図は存在した	ウ 目標は設定していない
19	3	0
86.4%	13.6%	0.0%



○目標の達成状況

事前に設定した目標の達成状況については、目標達成については、「ア_目標は十分に達成された」が 68.2%、「イ_目標はある程度達成された」が 31.8%と、全ての事業で意図した目標に到達していたことが確認できる。

ア 目標は十分に達成された	イ 目標はある程度達成された	ウ 目標達成には至らず
15	7	0
68.2%	31.8%	0.0%



図表 目標及び目標達成の具体的内容

- 135 世帯が家畜飼育を開始する。135 世帯の年間収入が 4-5 割増加。25 世帯が 4 割増加、62 世帯が 2 割増加、33 世帯が微増。
- ①職業訓練課程創設のための校舎増設、②教育カリキュラム作成、③教育実施を目的目標としたが、暴動により 3 カ月程度進捗が遅れた。
- 障害児・者の保護者が連携すること→3 つの地区において保護者連絡会が設立された。現地人によるアドバイザー3 名の養成→3 名のアドバイザーを養成することができた。
- 対象校での図書環境が改善された。
- 現地担当者が計画された技術習得レベルまでスキルアップできた。
- 9 人の識字教師を育成し、225 人の非識字者を対象に 6 カ月間の識字教育を行い、仕事への新たな取組で成功を挙げた人の体験談を学び、就労の可能性を広げる目標は全て達成しました。
- 職業訓練校の 1 年間の学生数、卒業者数、及び卒業者の就業について
- 外来診療目標 8000 件、実績 11712、手術目標 1200、実績 1782。
- 現地スタッフによる自主的な識字教室の運営、プログラムの内容に関しては、主体的に提案・実行できるようになった。資金面を含めて運営に課題。
- 有機栽培農産物を安定的に生産・出荷する。週産 200kg ほどのものが、週産 500kg に増え、維持している。
- 歯科診療の設備改善と研修による質的向上 (2500 人の診療が目標)、専門家スタッフの雇用により裨益者への無償診断を可能とする、予防教育による健康状態の改善、いずれも達成。
- 前年度に学習した人権に関する基礎的な知識を定着させるとともに、応用力を身につけさせ、他の人々に対し、人権教育を行えるような未来のリーダーとしての基礎を確立させることを目的としたが、学生たちは、人権に関する一通りの知識、思考力を身につけ、人権条約に関する知識も身につけ、応用力も身につけた。
- 栄養失調児の栄養改善が、目標通り達成。栄養失調児の母への洋裁指導では、洋裁、刺しゅうの技術を指導できた。小学校教育は、一度も学校に行ったことのない子どもたちが、字を書き、計算ができるようになった。
- 日本人専門家 12 名を毎年 3 回に分け、通算 15 日間の活動を実施した。また、3 か所のハンセン病施

設での活動は計画通りに実施され、歯科、医師、理学療法も現地専門家、日本人看護師の協力を得て、計画通りに行われた。

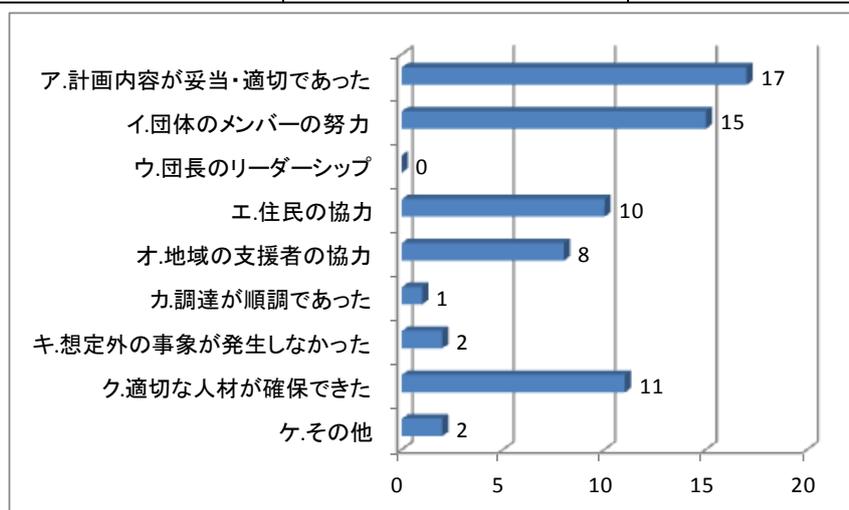
- 当初 15 名の手術予定であったが、実際は 20 名の手術が出来た。
- ベトナム人医師による手術も行えるが、重傷患者では独立しては困難である。
- 技術指導をして製品を販売する。販売状況は 80%。
- "現地の看護師たちを集めたワークショップには 20 人以上が参加し青年海外協力隊のメンバーも地方から参加してくれて有意義な研修ができた。また 3 か所の病院見学でも現地のニーズを知ることができた。
- 手術室完成、備品も購入し、手術室は有効に使用されている。エイズ感染孤児調査を実施し、選ばれた子ども 31 名を受け入れた。
- 技術指導の到達度（習得度）。

(出典) 新日本有限責任監査法人調査

○目標達成の要因

目標達成の要因については、目標達成の要因については、「ア_計画内容が妥当・適切であった」が 77.3%、続いて「イ_団体のメンバーの努力」が 68.2%、「ク_適切な人材の確保できた」が 50%の順に高かった。事業の計画性と関係者の協力が成功への要因であったことが推察される。

回答	件数	構成比
ア.計画内容が妥当・適切であった	17	77.3%
イ.団体のメンバーの努力	15	68.2%
ウ.団長のリーダーシップ	0	0.0%
エ.住民の協力	10	45.5%
オ.地域の支援者の協力	8	36.4%
カ.調達が順調であった	1	4.5%
キ.想定外の事象が発生しなかった	2	9.1%
ク.適切な人材が確保できた	11	50.0%
ケ.その他（治安状況が安定した他）	2	9.1%

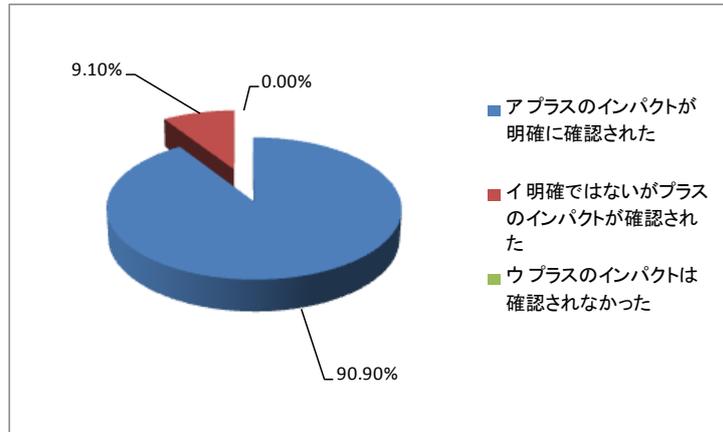


■インパクト

インパクトについては、プロジェクトを通じてプラスのインパクトがあったか「事業を通じて、対象地域や対象者等に対し、事前に設定した目標に即して何らかのプラスの影響・効果（インパクト）は生じましたか」、マイナスのインパクトがあったか「事業を通じて、対象地域や対象者等に対し、事前に設定した目標に即して何らかのマイナスの影響・効果（インパクト）は生じましたか」について調査した。

まず、事業実施を通じたプラスのインパクトについては、「ア_プラスのインパクトが明確に確認された」が90.9%、「イ_明確ではないがプラスのインパクトが確認された」が9.1%と、全ての事業でプラスのインパクトが生じていることが確認できる。

ア プラスのインパクトが明確に確認された	イ 明確ではないがプラスのインパクトが確認された	ウ プラスのインパクトは確認されなかった
20	2	0
90.9%	9.1%	0.0%



図表 プラスのインパクトの具体的内容

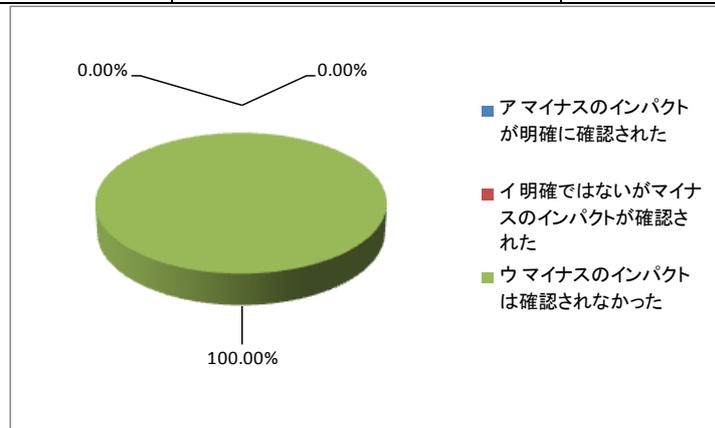
- 収入の増加、畜産技術の普及、栄養改善。
- 入学希望生徒が定員の2倍以上あった。
- 障害児・者の保護者や関わる人々が、関わり方を知り、希望を持てるようになった。
- 図書館をすることにより、生徒の自主性が引き出された。
- 当会が期待した技術を習得したこと、また、当該地域からの報告内容、さらに活動継続を強く希望しているポジティブな対応。
- 教師からは生徒が衛生に関する知識を得て、生活が改善され、家庭内暴力が減ったと報告された。生徒からは文盲であった不便な生活が改善されたと報告された。
- 広島県の美容グループからの協力が得られて、青年美容師を定期的に派遣しているが、日本とカンボジアの青年交流にもなった。
- 公立幼稚園の研修指導者である、教育省及び、州・郡担当者も本会研修に参加し、政府関係者の人材育成能力が高まった。幼稚園の保育環境が豊かになり、将来、幼児の就園率向上が期待される。
- 現地の医療者が育ってきている。
- 子どもが学び、遊ぶ場所、親にとっては安心して子どもをあずけられる場所として、ロコミで地域に活動が広がりつつある。また、教育をあきらめていた親・子どもが学用品等の定期糶により公教育へアクセスできるようになった。
- 今回の事業で得た地域や技術をさらに応用する等、参加農家間で益々積極的な取組が見られるようになった。

- 1 設備の改善と研修による技術向上により裨益者数増加、2 保健教育がコミュニティに拡大。
- 卒業生は自らの出身地域において、住民に対して人権教育を行ったり、法の支配についての講義を行ったりと自らが学んだ知識の普及に努めている。
- 栄養失調児、生きられないと思われていた子どもが、改善でき、地域住民たちへの希望を与えた。母への職業指導も、小学校教育も住民に希望を与えることができた。
- 医療の提供が殆どなされていなかったハンセン病患者とその家族に対し、年3回の医療が供給され、ADLの向上と自立の基礎作りが行われた。
- 予定よりも多くの手術を行うことができ、口唇口蓋裂の専門家がほとんどいないエチオピアで実際に手術の介助に入ってもらい、手術の手段等技術移転を行った。
- 現地メディアの取材を受けた。
- 女性たちが意欲的に技術訓練に取り組んだ
- 妊婦健診に来る人がふえた。生徒の中で布ナプキンの使用や制作をすることもできた。
- 手術室が完成し、緊急の場合でも他所へ搬送せずとも当院で処置できるようになり、地域住民により高いレベルの医療サービスを提供できるようになった。
- 女性の参画。

(出典) 新日本有限責任監査法人調査

次に、事業実施を通じたマイナスのインパクトについては、全ての事業で「ウ_マイナスのインパクトは確認できなかった」と回答し、負の影響は与えていないことが確認された。

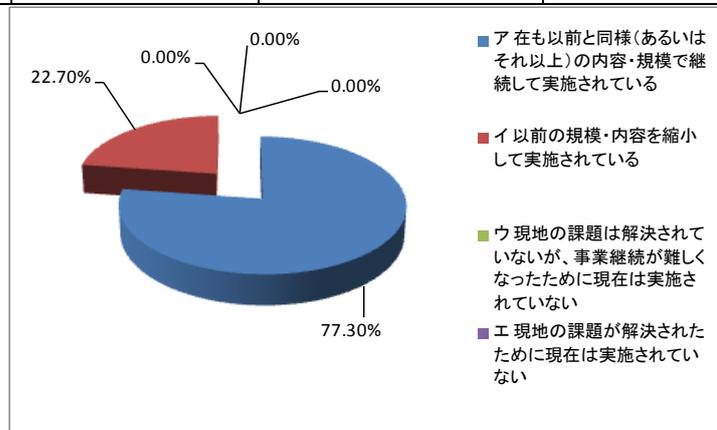
ア マイナスのインパクトが明確に 確認された	イ 明確ではないがマイナスのイン パクトが確認された	ウ マイナスのインパクトは確認さ れなかった
0	0	22
0.0%	0.0%	100.0%



■持続性

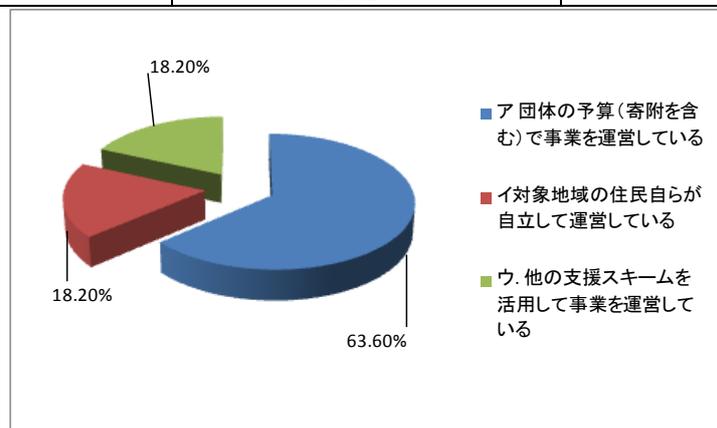
プロジェクト終了後、現時点において継続的に実施されているのか、その持続性について調査したところ、「ア_現在も以前と同様の内容・規模で継続して実施されている」が 77.3%、続いて「イ_以前の規模・内容を縮小して実施されている」が 22.7%と、全ての事業が継続して実施されていることが確認できる。

ア 現在も以前と同様（あるいはそれ以上）の内容・規模で継続して実施されている	イ 以前の規模・内容を縮小して実施されている	ウ 現地の課題は解決されていないが、事業継続が難しくなったために現在は実施されていない	エ 現地の課題が解決されたために現在は実施されていない	オ 現況は不明である
17	5	0	0	0
77.3%	22.7%	0.0%	0.0%	0.0%



次に事業継続の方法については、「ア_団体の予算で事業を運営している」が 61.6%で、続いて「イ_対象地域の住民自らが自立して運営している」と「ウ_他の支援スキームを活用して事業を運営している」がそれぞれ 18.2%と、半数以上の事業が団体の予算で事業が継続されていることが確認できる。

ア 団体の予算（寄附を含む）で事業を運営している	イ 対象地域の住民自らが自立して運営している	ウ 他の支援スキームを活用して事業を運営している
14	4	4
63.6%	18.2%	18.2%



カンボジア、ミャンマーにおける現地調査においても、インタビューを実施した各団体では、国際ボランティア貯金制度の支援が終了した後も団体の予算や他のスキームを活用してプロジェクトを継続して実施していくとの方針を確認した。これはプロジェクトの実施が単に資金的な裏付けがあるとの理由で実施されているのではなく、団体の使命・役割に裏付けられて実施されていることに起因するものと考えられる。

■小活

アンケート調査による自己評価により、プロジェクトの有効性について、DACの5項目基準により評価を行った。今次の調査結果によると、妥当性、効率性、有効性、インパクト、持続性の各視点において相対的に高い達成状況が確認された。各団体とも、事前に必要性や妥当性をしっかりと検証した上で、そのニーズを踏まえてプロジェクトが実施されたことや、関係者、地域住民等の協力が得られたことが成果達成の要因であったと考えられる。また、ボランティア貯金制度を通じた配分を受けた後も、団体の予算や地域住民の自立を通じてプロジェクトが継続される等、持続性の面についても相対的に高い状況であった。このような点の背景には、配分を受けたプロジェクトが、地域の課題解決と密接に関連するとともに、団体の使命に支えられて実施されているということにも、大きく関連するものと考えられる。

これらを踏まえると、平成23年度にボランティア貯金の配分を受けた事業を通じて実施されたプロジェクトは全体として高い有効性を発揮しているものと評価できる。

なお、以下は、ボランティア貯金を通じて実施した事業についての自由意見である。国際ボランティア貯金が団体の事業実施や事業の継続、団体の発展に貢献したこと、それに対する感謝が確認できる。

図表 ボランティア貯金を通じて実施した事業についての自由意見の具体的内容

- 財政的に弱い本会が海外で事業を実施できたのは国際ボランティア貯金のおかげです。本当に助かりました。
- 予算規模が比較的大きく、継続した助成を受けられた。
- 教室開催場所に日の丸とJapan postと記載されたバナーを掲げ支援が日本国民からのものであることを生徒、住民に示しました。事業終了後、生徒はこれらの支援に対し、日本国民に感謝しますと発表しました。
- 2003年度最初に国際ボランティア貯金の助成を受けました。当時はベトナム事業でした。計算ミスも多くて、何度も修正していただきました。当時は恥ずかしいほど、素人でした。現在は、JICAや外務省から助成を受けるまでに成長しました。計算ミスが多くて、注意を何度もされるのですが、毎年、申請事業は採用していただきました。感謝の思いで一杯です。
- 弊団体の活動において、ボランティア貯金を通じて実施した事業は、当団体がはじめて団体として行った事業である。ボランティア貯金は、幸い、平成24年度も継続して支援を受けることが出来ている。原資が枯渇しているとうかがっており、団体の活動を継続するうえで非常に残念。
- カンボジアにおけるソーシャルワーカーの育成/識字教室の運営は、ボランティア貯金なしに不可能でした。受益した子どもたち、コミュニティから感謝をお伝えしたいと思います。郵便貯金から一部を国際貢献に活用する事業は、海外でも高く評価されていました。今後もこうした活動が継続されることを願いつつ、これまでの長年のご支援に感謝申し上げます。
- 現地スタッフの日当を出してくださるので、とてもありがたいです。問題点は、現地でのきちんとし

た領収証の必要性です。教育も受けていない人が多く、実際に文字が書ける人も少なく、領収証というものが一般的ではないところも多く、この点が苦勞するところでした。自ら、領収書を持ち歩き、文字の書ける人を探してもらって書いてもらうことが、大変苦勞でした。

- ボランティア貯金は、日本の弱小 NGO が現地と密着して活動続けるのに大変役立っている。このような小さな草の根の活動を続けられるような支援システムは是非残してほしい。
- 私たちの会のように予算規模が小さい団体にはボランティア貯金の配分金は大きな力になった。
- 当会発足当初より多大な支援をいただき、当会のケニアでの事業発展に大きく貢献した。現地でも事業が大きくなるごとに、ボランティア貯金の寄付金をいただき、ここまで大きくなったことを地域住民が理解してくれ、大変感謝しております。ありがとうございました。
- 今回、予算オーバーし、自己資金で対応。しかし、当初計画と違ったため、助成金は返還するよう予定していたが、詳しい調査の結果、返還しなくてよいこととなり、自己負担が減ったので良かった。

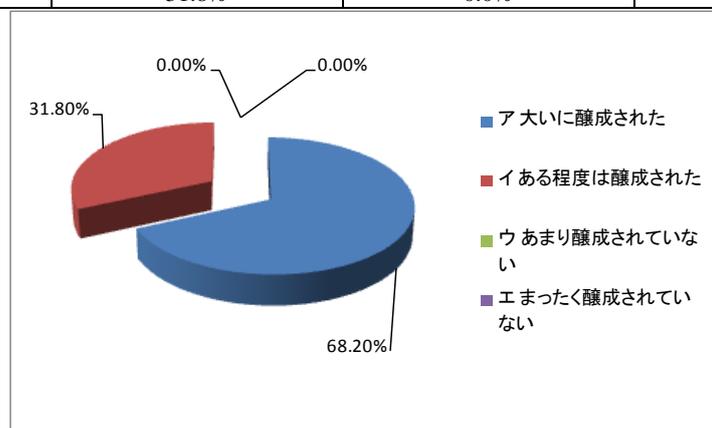
(出典) 新日本有限責任監査法人調査

②地域における親日感情の醸成（外交的効果） アウトカム②

プロジェクトの実施を通じて地域における課題が解決されたこと等を通じて、当該プロジェクトが日本からの支援であることの認知が広まり、その結果として支援対象国の住民において親日的な感情が醸成され、間接的ではあるが二国間関係に対するプラスの影響が生じたことが考えられる。この点については、国際ボランティア貯金制度が、申請団体がスタッフや専門家を現地に派遣して、現地の人と直接顔を合わせ、両者が協力してプロジェクトを推進する「お互いの顔が見える援助」を基本としていた点も大きく影響している。

今次調査において、カンボジア、ミャンマーのプロジェクト・サイトを訪問したが、現地において、当該支援が国際ボランティア貯金制度からの支援であることが明示されている他、支援の際に本プロジェクトが日本からのものであることも説明されており、住民へのインタビューにおいても大半が日本の支援を認知しており、それに対する感謝の声が寄せられた。このように、国際ボランティア貯金制度を通じたプロジェクトに対する対象地域の住民における日本からの支援であることの認知度は相対的に高いことが伺える。この点についてアンケート調査で聴取したところ事業を通じた親日的感情の醸成は、「ア_大いに醸成された」が 68.2%、「イ_ある程度は醸成された」が 31.8%と、全ての事業でプラスに影響していることが確認できる。

ア 大いに醸成された	イ ある程度は醸成された	ウ あまり醸成されていない	エ まったく醸成されていない
15	7	0	0
68.2%	31.8%	0.0%	0.0%

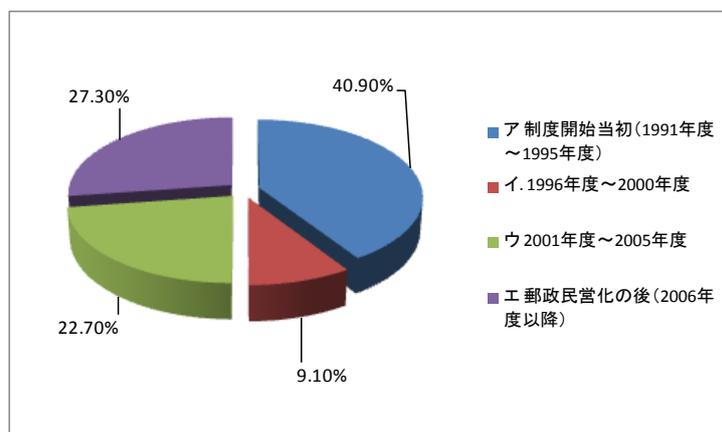


このような結果から、国際ボランティア貯金を通じて支援により対象国・地域における日本に対するポジティブな感情が形成されたものと推察される。

③国際ボランティア団体の発展（団体の発展に対する寄与） アウトカム③

国際ボランティア貯金制度は、1991年（平成3年）に創設され、以降、国際ボランティア団体の活動への寄附金の配分を通じて、当該団体の事業活動への支援を継続的に実施している。特に制度が創設された1990年代は我が国において国際ボランティア団体の設立・発展の時期で、そのようなタイミングで事業費の大半について助成を受けられる本制度は、団体活動の発展や拡大において、大きく貢献したものと考えられる。本調査では、まず、どのタイミングから配分を受けているのか、について尋ねたところ、「ア_制度開始当初」が40.9%、「イ_1996年度～2000年度」が9.1%と、半数の団体が10年以上前から助成支援を受けていることが確認できる。

ア 制度開始当初（1991年度～ 1995年度）	イ. 1996年度～2000年度	ウ 2001年度～2005年度	エ 郵政民営化の後（2006年度 以降）
9	2	5	6
40.9%	9.1%	22.7%	27.3%

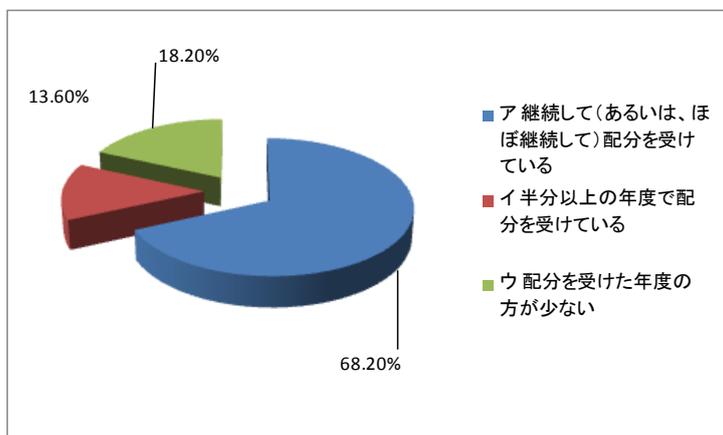


次に、配分を受けた後の継続申請の状況について尋ねたところ、「ア_継続して配分を受けている」が68.2%と、半数以上の団体が国際ボランティア貯金を継続して利用していることが確認できる（次頁図表）。なお、申請回数については、平均して11.1回（n=21）の申請を行っており、「6回～10回」が42.9%と最も多く、続いて「1回～5回」が19.0%、「11回～15回」が14.3%であった。

合計	1回～5回	6回～10回	11回～15回	16回～20回	21回～25回
件数 21	4	9	3	2	3
構成比 100.0	19.0%	42.9%	14.3%	9.5%	14.3%

（出典）新日本有限責任監査法人調査

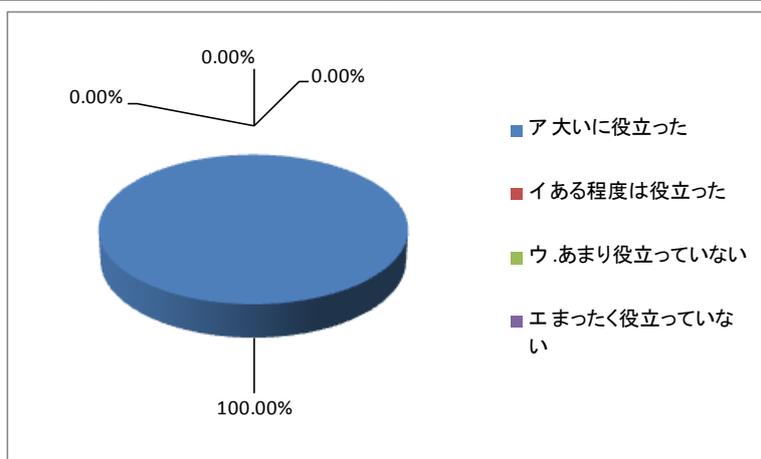
ア 継続して（あるいは、ほぼ継続して）配分を受けている	イ 半分以上の年度で配分を受けている	ウ 配分を受けた年度の方が少ない
15	3	4
68.2%	13.6%	18.2%



そして、配分を受けたことによる事業活動、団体の発展に与えた役立ち度について尋ねたところ、プロジェクトの実施への役立ち度、団体の発展への役立ち度、いずれについても全て「ア_大いに役立った」と高い水準であった。

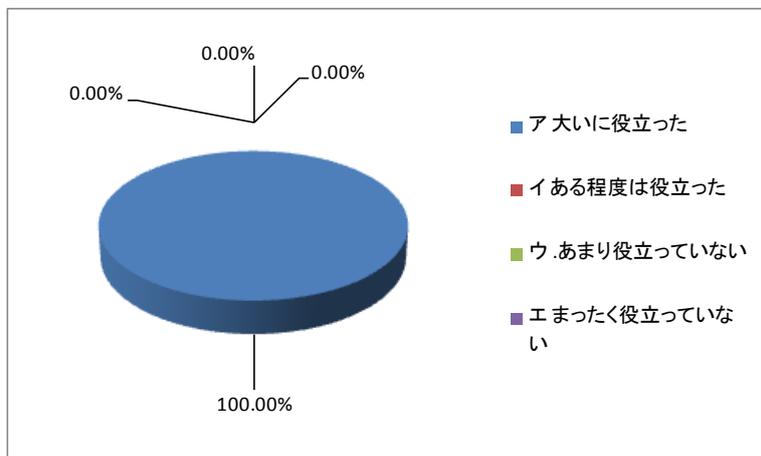
○事業の実施において

ア 大いに役立った	イ ある程度は役立った	ウ あまり役立っていない	エ まったく役立っていない
22	0	0	0
100.0%	0.0%	0.0%	0.0%



○団体の活動や発展において

ア 大いに役立った	イ ある程度は役立った	ウ あまり役立っていない	エ まったく役立っていない
22	0	0	0
100.0%	0.0%	0.0%	0.0%



図表 役立ち度の具体的内容

- 実績がない時期でも配分を継続して受けられ、団体の基盤作りに役立った。
- 主にイニシャルコストにかかる部分をボランティアポスト支援で行ってきており、ランニングコストは自主資金という棲み分けができた。
- 本会が行っている活動を必要している国に提供できた。海外への支援には渡航準備等費用面で負担しきれずにいたが、ボランティア貯金を利用させていただいたことで実行が可能となった。
- 一事業全体をカバーする規模の助成が継続的に受けられた。
- 多くの住民を対象に規模の大きな事業を安定して行うことができた。
- 報告書類をとともよく見てくださっていて、細かい間違いを良く指摘して下さった。団体として素人から専門に成長できた。
- 国際ボランティア貯金の支援によって、本会が計画した事業（カンボジア保育及び織物事業）を目標に添って、充実した内容で実施する事が可能となった。事業の申請、変更届、報告、会計報告の作成を継続する事によって、補助金業務に関する知識、経験が豊富となった。
- 事業の直接経費のみならず、間接経費（人件費、現地事務所諸経費等）の支援を受け、組織力の向上、発展に繋がった。さらに、広報活動への多大なるご協力をいただき、（広報誌による取材・記事掲載、現地事業の撮影と全国郵便局での放映、スタディツアーの訪問・事前研修会参加、講演会・座談会への参加、近隣郵便局でのパネル展等）、本会活動への理解者、支援者が増えた。長年のご支援に心よりお礼を申し上げます。
- 当事業は団体の活動の中でも基幹事業であり、継続的に配分を受けることができ、大変感謝している。
- 国際ボランティア貯金からの支援なしでは、特に現地の人材（ソーシャルワーカー）育成といった5年、10年単位で時間のかかる事業は不可能でした。
- 数百万単位のサポートを毎年いただいております、継続的な事業運営のための大きな支援となりました。
- 当支援を皮切りに、今後の事業の継続、発展の足がかりとなった。
- 配分金により多くの支援事業を実施し、現地のニーズに対応することができた。また、その後も現地の協力団体が主体となったり、当団体が支援することにより、事業が継続され、地元へ根付いた活動となっている。
- 本事業を継続して実施できたことにより、援助地域及びミャンマーにおける当団体の認知度を上げることができた。
- 現地で20数年活動していますが、現地からSOSは大きいのですが、活動資金は日々厳しい状況です。子どもの栄養を改善し、母の洋裁を教え、子どもたちへの教育も施す。これは大きな自立支援の柱であり、当会の目標への大きな柱です。国際ボランティア貯金のお陰で目標に近づいていけたことを感謝いたします。

- 公的資金制度の少ない日本で広く資金の提供が行われる本制度は大変ありがたい。
- 非営利団体において助成金の採択は事業を実施する上で大きな支援となっており、団体の海外での活動の大部分を助成金で行っている。助成金の活用により、活動内容も広がりをもたせることが可能となる。
- 非営利団体のたる、助成は非常に有りがたく思っています。
- 団体のお金だけでは就学支援だけではできなかつたとおもうが、配分を受けたことにより障害者の支援にも活動をひろげられた。また事業の際に日本から派遣した専門家の中には現在も定期的に自費で現地を訪れ障害児のために仕事をしてくださっている方もいる。
- ボランティア貯金のお陰で当会事業は多種多様に広がった。ボランティア貯金の支援がなければ、ここまで大きくなかなかつたらう。
- 当初、当会は国際交流がメイン事業であったが、本助成のおかげで国際協力活動に本格的に取り組むことができた。その点では、団体が国際交流団体から国際協力団体へと成長するのに大きく役立ったと思う。

(出典) 新日本有限責任監査法人調査

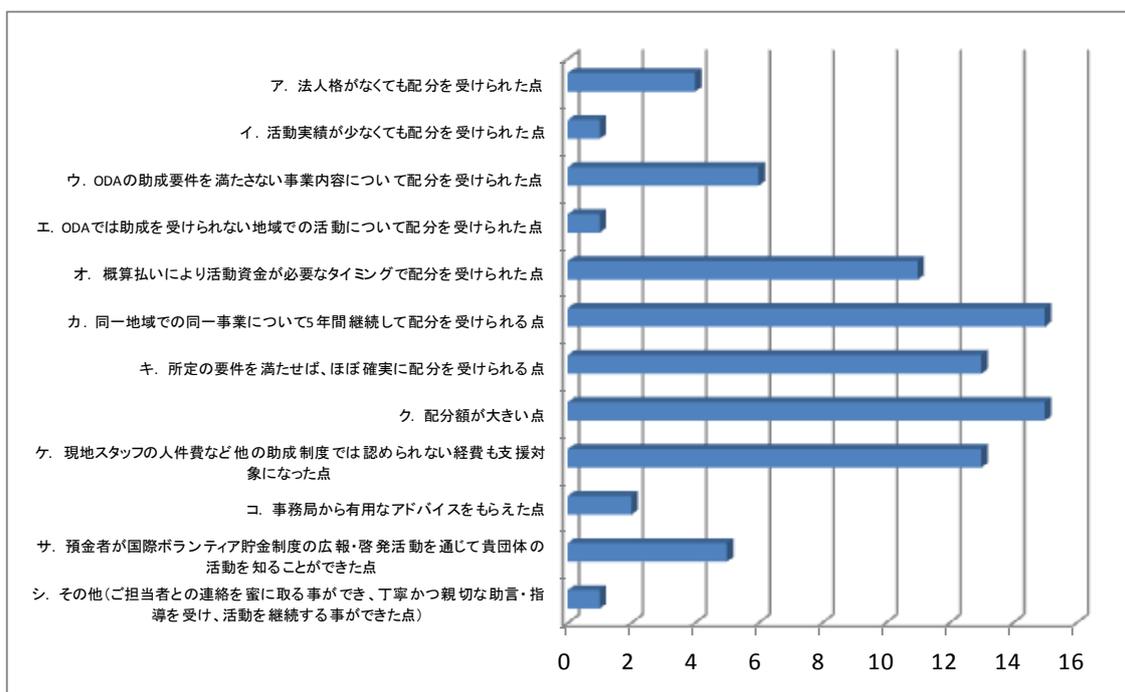
図表 国際ボランティア貯金制度に関する自由意見

- ユニークな制度なので継続してほしいが、申請から報告までの手間がかかりすぎで（報告書への質問内容も細かくて事務量が増える）、当会のように兼任でボランティア活動している団体には対応しにくいことも多かった。
- 国際ボランティア助成金は、助成額が高く、又、採用されますので、経験の浅い団体にとって、事業を実施できる、非常に素晴らしいチャンスです。2003年、初めて国際ボランティア貯金に採用していただいて、それから今まで11年間、大きく成長しました。最初のころは、完了報告書、特に会計報告書にミスが多く、何度も何度も修正の確認をしてくださって、今でも忘れられない思い出です。どんなにミスが多くても必ず次の申請も採用してくださって、ここまで来られました。国際ボランティア貯金のお陰です。
- 何らかの形、否、名称が変わろうとも、ボランティア貯金制度の継続を祈念しております。よろしくお願いします。
- 4年間支援してもらい、大変助かりました。
- 長年にわたり、助成していただき、大きな成果をもたらすことができました。とてもありがたく、現地の受益者たちにも、私たちが伝えたので知られていました。当会の施設には国際ボランティア貯金から3度も現地調査に来ていただき、実際の活動を見ていただけたこと、とてもよかったですと思います。終わってしまうようで残念ですが、今までの感謝を持って、更に頑張る活動していきたいと思いません。
- 出来れば活用項目や流用性にもう少し自由度が認められると良い。
- ボランティア貯金制度は、私たちのような市民団体が、現地で活動する場合、大変役立ちます。成果も地域の皆さんにお知らせし、ボランティア貯金制度のありがたさを共有しています。是非今までのような形で継続していただきたい。
- 制度がなくなったのが残念だ。また JICA に委託するというやりかたでは、なかなか私たちのような会には配分されないのでは元のようにしてほしい
- 他の助成団体より配分金額が多いので、ぜひとも継続してほしい。
- ハード、ソフト両面において助成を受けられるため、NGO として大変現地のニーズに合った事業を実施しやすいため、助かっています。

(出典) 新日本有限責任監査法人調査

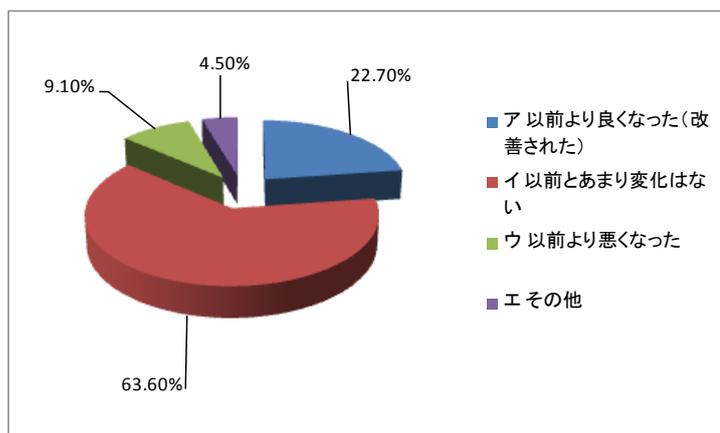
また、国際ボランティア貯金制度が他の助成制度と比較したメリットを尋ねたところ、「カ_同一地域での同一事業について5年間継続して配分を受けられる点」と「ク_配分額が大きい点」が68.2%、続いて「キ_所定の要件を満たせば、ほぼ確実に配分を受けられる点」と「ケ_現地スタッフの人件費など他の助成制度では認められない経費も支援対象になっている」が59.1%と、活動を行う団体にとって安定し、かつ円滑な事業運営に役立っていることが確認できる。

回答	件数	構成比
ア. 法人格がなくても配分を受けられた点	4	18.2%
イ. 活動実績が少なくても配分を受けられた点	1	4.5%
ウ. ODAの助成要件を満たさない事業内容について配分を受けられた点	6	27.3%
エ. ODAでは助成を受けられない地域での活動について配分を受けられた点	1	4.5%
オ. 概算払いにより活動資金が必要なタイミングで配分を受けられた点	11	50.0%
カ. 同一地域での同一事業について5年間継続して配分を受けられる点	15	68.2%
キ. 所定の要件を満たせば、ほぼ確実に配分を受けられる点	13	59.1%
ク. 配分額が大きい点	15	68.2%
ケ. 現地スタッフの人件費など他の助成制度では認められない経費も支援対象になった点	13	59.1%
コ. 事務局から有用なアドバイスをもたらえた点	2	9.1%
サ. 預金者が国際ボランティア貯金制度の広報・啓発活動を通じて貴団体の活動を知ることができた点	5	22.7%
シ. その他(ご担当者との連絡を蜜に取る事ができ、丁寧かつ親切な助言・指導を受け、活動を継続する事ができた点)	1	4.5%



他の制度と比較したメリットについての変化の状況について尋ねたところ、「イ_以前とあまり変化しない」が 63.6%、「ア_以前より良くなった」が 22.7%と団体にとってメリットが継続していたことが確認できる。

ア 以前より良くなった(改善された)	イ 以前とあまり変化はない	ウ 以前より悪くなった	エ その他
5	14	2	1
22.7%	63.6%	9.1%	4.5%



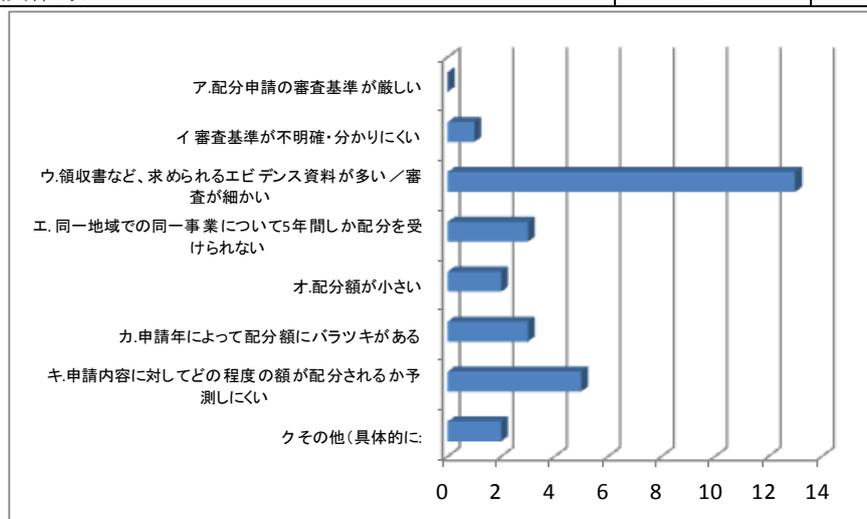
図表 制度のメリットの具体的内容

- 監査が厳しいのが、ボランティアポストの良いところだと思っています。
- 派遣の人数やメンバーの変更や日程の変更などは柔軟に対応していただいたこと。必要な時に必要な分の資金を受け取ることができたこと。
- 申請が認められなかったり、認められても助成額が低く、自己負担がかなり多い場合があった。
- 2003年度、当時、書類作成において素人でしたが、毎年、上達しました。
- 精算払い方式の補助金でない点は、資金が潤沢でない本会にとって大変有り難い支援であった。
- カンボジアで、子どもと女性のための事業を長年継続している本会の姿勢をご理解いただき、変わらぬご支援をお願いできた事は、カンボジアの人々によって有効な活動になり得たと考える。
- 人件費等、運営経費のご支援の継続は、物でなく、人材育成を基本とする本会にとって有用だった。
- 常に細やかな気配りで助言をいただき、事業を進める事ができ、その信頼関係が大きな支えとなった。
- NGOを支援する外務省のODAは3年間が限度であり、継続的に5年間配分が受けられることは大きな魅力で且つ配分金額が大きいこと。
- もの、機材の提供という形だけでなく、人材育成に欠かせない、人件費等も支援対象となっていた点。当初派遣された駐在員が現在もボランティアとして事業継続のために活躍している。
- 現地スタッフの人件費が出たことで、現地でのマネジメントが円滑に行えた。国際ボランティア貯金の援助がなければ、本事業の遂行が不可能であった。
- 現地職員の人件費がとてかかりましたので、私たちにとっては、現地医師、看護師、栄養士、教師、洋裁指導者達の給与を出していただきまして、本当に助かりました。
- 小規模の団体が実施する小規模の活動にも助成が行われた。特に資金力を有さない団体には、「現地スタッフの人件費など他の助成制度では認められない経費も支援対象となった点」の利点は大きい。
- 採択されるとある程度事前に配分を受けられるので、機材調達がスムーズに行うことができる。継続して同一事業に受けられると、長期的展望が可能となり、効果も問題点もより明確になる。
- ネパールの過疎地域は、安全面などの理由で、断られました。ボランティア貯金は人件費・継続事業も理由がはっきりしていれば、承認されます。

(出典) 新日本有限責任監査法人調査

一方、他の制度と比較したデメリットについて尋ねたところ、「ウ_領収書など、求められるエビデンス資料が多い/審査が細かい」が59.1%と他より高い回答比率であった。

回答	件数	構成比
ア.配分申請の審査基準が厳しい	0	0.0%
イ 審査基準が不明確・分かりにくい	1	4.5%
ウ.領収書など、求められるエビデンス資料が多い/審査が細かい	13	59.1%
エ. 同一地域での同一事業について5年間しか配分を受けられない	3	13.6%
オ.配分額が小さい	2	9.1%
カ.申請年によって配分額にバラツキがある	3	13.6%
キ.申請内容に対してどの程度の額が配分されるか予測しにくい	5	22.7%
ク その他（具体的に:	2	9.1%



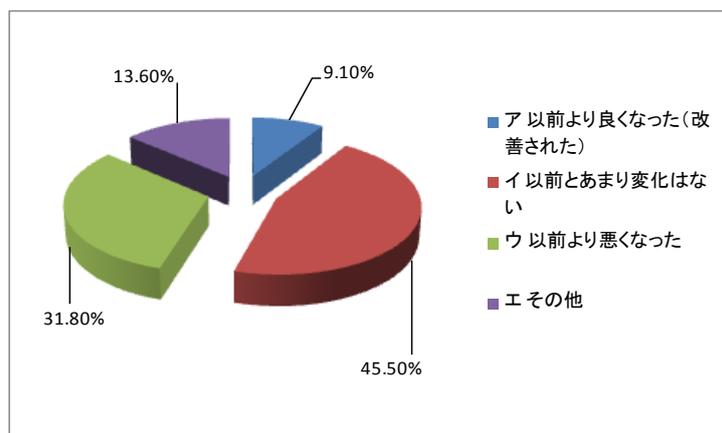
図表 その他の指摘内容（回答「ク」以外を含む）

- プロジェクトの核となる部分の配分額が得られず、資金繰りに不安を覚えた時があった。
- まったく同じ内容で、毎年同様の問い合わせがある。
- 識字事業を行っていますが、僻地では非識字者が多く事業への要望が強い。これに対し、国の対策は追いついていないため、5年間では事業が終了できません。
- 領収書等、提出を求められる書類は、他補助金に比べて多いと考えるが、特に問題は感じていない。
- 内部の問題ですが、エビデンス資料の提出の徹底がうまくいかないときがあった。
- 事業に必要であってもコンピューター機材は対象とならないこと。現場で必要とされる者に対して、必ずしも柔軟な理解・配慮は得られなかったこと。
- 人件費や日当の上限があり全てをカバーできない点は、計算が難しかったと思います。
- 現地の人件費等が地域の実情に合っていないため、事業を実施するほど、自己資金が必要になること。
- 現地では日本と異なり、領収書を出してもらうことが困難な場合が多いこと。また、但し書きがきちんと記載されないこともあり、苦勞した。
- 最貧国のひとつであり、義務教育もない、中央アフリカ共和国においては、きちんとした領収証の提出は大変な時間と苦勞を伴います。(字を書ける人を探すのが大変)
- 当該年度の予算が難しい。(金額が確定しないため)
- 現地事情により当事者はお互いに納得している場合でも、審査基準に適合しなければ支給が困難となってしまう、団体負担となってしまう。
- "現地人件費について、出勤簿、仕事内容など、細部に渡るチェック。日本人専門家の活動実績について、夜中に現地から飛行機に乗るのに、その日の滞在費は出ない・・・など。
- 配分について、単価、個数について細かく指定があるため、実際の運用が難しい。

(出典) 新日本有限責任監査法人調査

この他の制度と比較したデメリットについての変化の状況について尋ねたところ、「イ_以前とあまり変化していない」が45.5%、続いて「ウ_以前より悪くなった」が31.8%であった。

ア 以前より良くなった (改善された)	イ 以前とあまり変化はない	ウ 以前より悪くなった	エ その他
2	10	7	3
9.1%	45.5%	31.8%	13.6%



図表 制度のデメリットの具体的内容

- プロジェクトの核となる部分の配分額が得られず、資金繰りに不安を覚えた時があった。
- 本会は障害者との関わり方(動作法)を伝える活動を進めてきました。日本国内で研究が進み、日本人は常に新しい情報が手に入ることができ、学ぶことができます。しかし、現地マレーシアでは、新しい情報などを手に入れる手段がなく、また口頭による情報伝達の間違った伝わり方等、研修者の更なる成長に関して不安と疑問が残る。
- まったく同じ内容で、毎年同様の問い合わせがある。
- 識字事業を行っていますが、僻地では非識字者が多く事業への要望が強い。これに対し、国の対策は追いついていないため、5年間では事業が終了できません。
- 領収書等、提出を求められる書類は、他補助金に比べて多いと考えるが、特に問題は感じていない。
- 内部の問題ですが、エビデンス資料の提出の徹底がうまくいかない時があった。
- 事業に必要であってもコンピューター機材は対象とならないこと。現場で必要とされる者に対して、必ずしも柔軟な理解・配慮は得られなかったこと。
- 人件費や日当の上限があり全てをカバーできない点は、計算が難しかったと思います。
- 現地の人件費等が地域の実情に合っていないため、事業を実施するほど、団体の自己資金が必要になること。
- 現地では日本と異なり、領収書を出してもらうことが困難な場合が多いこと。また、但し書きがきちんと記載されないこともあり、苦労した。
- 最貧国のひとつであり、義務教育もない、中央アフリカ共和国においては、きちんとした領収証の提出は大変な時間と苦労を伴います。(字を書ける人を探すのが大変)
- 当該年度の予算が難しい。(金額が確定しないため)
- 現地事情により当事者はお互いに納得している場合でも、審査基準に適合しなければ支給が困難となってしまう、団体負担となってしまう。
- "現地人件費について、出勤簿、仕事内容など、細部に渡るチェック。日本人専門家の活動実績について、夜中に現地から飛行機に乗るのに、その日の滞在費は出ない・・・など。
- 配分について、単価、個数について細かく指定があるため、実際の運用が難しい。

(出典) 新日本有限責任監査法人調査

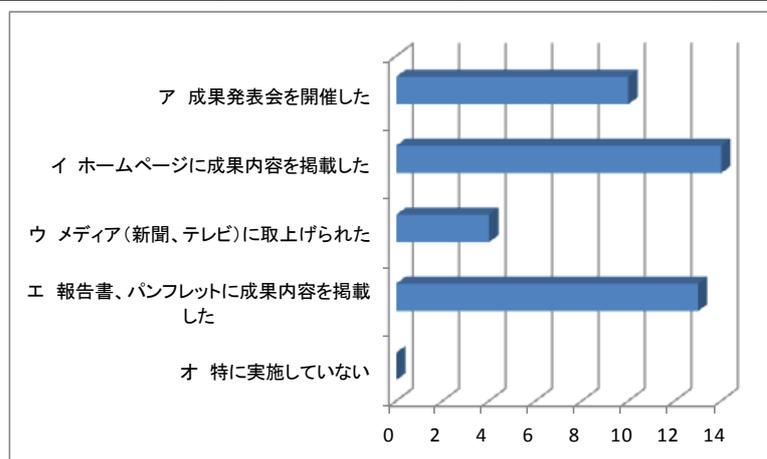
④国民のボランティア意識の普及（一般国民に対する広報効果） アウトカム④

国際ボランティア貯金制度は預金者の利子を財源にしており、預金者に対してその旨が伝えられる等、国際ボランティアに対する国民意識の発展に貢献したものと考えられる。また、以前は、全国の郵便局を通じて様々な広報活動が実施されており、それらを通じても広く国民に対して国際ボランティアの意義、活動についての意識が醸成される等の効果があったものと考えられる。特に、広報活動が国民生活にとって身近な全国の郵便局で展開されたことは、情報に触れる機会の多さや頻度の点から、効果がより高かったものと推察される。郵便局での主な活動は、広報紙の配布の他、団体による活動報告会の開催、幅広い年齢層への普及・啓発が行われている。

また、平成3年（1991年）から17年度（2005年）にかけての計15回、国際ボランティアに関する作文コンクールが実施され、このコンクールは小・中学生部門と一般部門で実施され、全国各地から毎年応募があり、多い時で25,000件を超える応募があった。募集された作文は、「国際協力に関する作文集」として全国の郵便局で配布され、国際ボランティア活動の普及・啓発に貢献した。

アンケート調査においても団体自身の広報活動について尋ねた。事業の成果の公表については、「イ_ホームページに成果内容を掲載した」が63.6%、続いて「エ_報告書、パンフレットに成果内容を掲載した」が59.1%、「ア_成果発表会を開催した」が45.4%であった。

ア 成果発表会を開催した	イ ホームページに成果内容を掲載した	ウ メディア（新聞、テレビ）に取上げられた	エ 報告書、パンフレットに成果内容を掲載した	オ 特に実施していない
10	14	4	13	0
45.5%	63.6%	18.2%	59.1%	0.0%



このように、国際ボランティア貯金制度への加入の他、郵便局や団体等を通じて実施された様々な広報活動や団体による情報発信を通じて、広く一般国民に対して国際ボランティアの意義、重要性についての普及・啓発が実施され、それらが広く浸透していた状況が推察される。

(3) 5項目基準による事業評価のまとめ

以下、5項目基準に従って、平成23年度の国際ボランティア貯金の配分事業の事業評価の結果をまとめる。

■妥当性

解決すべき課題について「ア_明確に存在」との回答割合が72.7%、続いて「イ_ある程度明確に存在」が18.2%と、全体で90.9%が事業の前提となる課題が明確であったことが確認できる。また、前提となる課題の事前調査の実施については「ア_綿密に調査した」が77.3%と最も高く、続いて「イ_ある程度調査した」が13.6%と、全体で85.9%が事前調査を実施したことが確認できる。

このように大半の事業において解決すべき課題が存在し、かつそれらの調査が実施されていることから、妥当性は相対的に高いものと評価できる。

■効率性

事業の期限については、「ア_期限内に終了した」が86.4%となっており、大半の事業が予定していた期限内に事業を終了させている。また、事業の実施内容について、「ア_予定通りの内容で終了した」が72.7%、続いて「イ_やや変更したが終了した」が27.3%と、合わせて全ての事業がほぼ予定通りの内容で事業を終了させている。また、事業予算については、「ア_予算の範囲内で終了した」が54.3%、続いて「イ_やや予算オーバーしたが終了した」が45.5%と全ての事業が予算不足に陥らず事業を完了している。これらのことから、効率性の観点からも特段の問題は無く、効率性は相対的に高いものと評価できる。

但し、トラブルについては、「イ_想定外の事情、トラブルが生じたが、事業内容、予定に影響はなかった」が31.8%、続いて「ア_想定外の事情、トラブルが生じ、事業内容、予定に影響した」が18.2%と、合わせて半数の事業において想定外の事情が生じたことが確認できることから、効率性に影響を与えうる諸要因が生じていたことが推察され、これらについては団体の対応によって克服されたものと考えられる。

■有効性

有効性の前提となる目標の設定については、「ア_明確な目標を設定した」が86.4%、「イ_明確ではないが目標、意図は存在した」が13.6%と、全ての事業で何らかの目標、意図が設定されていたことが確認できる。また、目標達成の状況については、「ア_目標は十分に達成された」が68.2%、「イ_目標はある程度達成された」が31.8%と、全ての事業で意図した目標に到達していたことが確認できる。これらから、有効性は相対的に高いものと評価できる。

なお、目標達成の要因については、「ア_計画内容が妥当・適切であった」が77.3%、続いて「イ_団体のメンバーの努力」が68.2%、「ク_適切な人材の確保できた」が50%の順に高

く、前提となる課題の把握とそれに基づく事業の計画や、事業実施における関係者の努力、協力が有効性に影響していることが推察される。

■インパクト

事業実施を通じたプラスのインパクトについては、「ア_プラスのインパクトが明確に確認された」が90.9%、「イ_明確ではないがプラスのインパクトが確認された」が9.1%と、全ての事業でプラスのインパクトが生じていることが確認できる。一方、マイナスのインパクトは確認できなかった。これらから、事業のインパクトは相対的に高いものと評価できる。

■持続性

事業の継続性については、「ア_現在も以前と同様の内容・規模で継続して実施されている」が77.3%、続いて「イ_以前の規模・内容を縮小して実施されている」が22.7%と、全ての事業が継続して実施されていることが確認できる。また、この事業の継続については、「ア_団体の予算で事業を運営している」が61.6%で、続いて「イ_対象地域の住民自らが自立して運営している」と「ウ_他の支援スキームを活用して事業を運営している」がそれぞれ18.2%と、半数以上の事業が団体の予算で事業が継続されていることが確認できる。これらから、持続性は相対的に高いものと評価できる。

5. 国際ボランティア貯金制度の有効性評価のまとめ

本制度の成果については、平成 24 年度調査研究において、以下の点が確認されている。

- ① 特に制度創設期には国際ボランティア NGO 団体の活動、育成に大きく貢献
- ② 多くの事業において課題が解決され、成果の実現に貢献、日本に対する好感も醸成
- ③ 我が国 ODA では行き渡らない国・地域への支援に大きく寄与
- ④ 広く国民におけるボランティア意識の普及・啓発にも貢献

本年度の調査において対象とした平成 23 年度配分事業の評価においても、以下のように前年度確認された成果が継続して生じていることが確認される等、実施プロセス、事業の成果とも高い評価が得られており、上記の成果を確認できる結果となっている。

図表 平成 23 年度事業評価における成果

前年度に確認された成果	今年度の評価における成果状況
① 特に制度創設期には国際ボランティア NGO 団体の活動、育成に大きく貢献	・平成 23 年度事業を実施した団体へのアンケートによると、事業の実施、団体の発展、いずれにおいても全ての団体において「ア_大いに役立った」との回答を得た。
② 多くの事業において課題が解決され、成果の実現に貢献、日本に対する好感も醸成	・平成 23 年度事業を実施した団体へのアンケートによると、「ア_目標は十分に達成された」が 68.2%、「イ_目標はある程度達成された」が 31.8%と、ほぼ全ての事業において目標が達成され、課題が解決された。 ・裨益者調査を実施した 3 事業における裨益者の意見においても有効性が裏付けられた。
③ 我が国 ODA では行き渡らない国・地域への支援に大きく寄与	・平成 23 年度配分事業においても、政情不安のパレスチナ、レバノンにおいて事業が実施された。
④ 広く国民におけるボランティア意識の普及・啓発にも貢献	・平成 23 年度事業を実施した団体へのアンケートによると、「ア_成果発表会を開催した」が 45.5%、「イ_ホームページに成果内容を掲載した」が 63.6%、「エ_報告書、パンフレットに成果内容を掲載した」が 59.1%と、団体による自主的な情報発信が確認された。

平成 25 年度に実施した裨益者調査による評価、実績及びプロセスの評価、アンケート調査による評価、いずれにおいても高い成果が確認されていること等も踏まえると、国際ボランティア貯金制度は有効な制度であったと評価できる。